

年報第30号
令和5年度

年報
第30号
令和5年度

ISSN1344-249X

ANNUAL REPORT
OF
IBARAKI NATURE MUSEUM

No.30
2023-2024

ANNUAL REPORT OF IBARAKI NATURE MUSEUM

ミュージアムパーク
茨城県自然博物館

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
IBARAKI NATURE MUSEUM
Bando, Ibaraki, Japan

年 報
第30号
令和5年度

ISSN1344-249X

ANNUAL REPORT
OF
IBARAKI NATURE MUSEUM

No.30
2023-2024

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
IBARAKI NATURE MUSEUM
Bando, Ibaraki, Japan

館長報告

Director's Report

茨城県自然博物館の令和5年度は、開館から29年目にあたります。年間の入館者数は設立当初に68万人を記録し、その後は年40万人前後で推移しましたが、令和2年2月末からの新型コロナウイルスの影響で令和2年度の入館者は、開館以来最低の25万6千人となりました。令和3年度も、延べ3か月以上の休館となり、入館者は28万人に留まりました。



令和4年度はまだコロナ禍の中で、土日祝日に事前予約制を行っているにもかかわらず入館者数は44万人に達して、コロナ禍以前の博物館が戻ってきました。令和5年度は、事前予約制と大規模電気工事などによる10日以上休館がありましたが、43万人ものお客様にお越しいただきました。令和6年度は当館創立から30周年で、新型コロナウイルス感染症の行動制限も緩和されたことによる事前予約対象日の縮小、当館の特徴である多くのイベントの開催、触れる展示、野外の水の広場や夢の広場にあるトランポリンの再開も可能となり、来館者がコロナ前の50万人を超えるものと期待しています。

コロナ禍においては、入館者数と同様に入館料収入も大幅に減少していましたが、令和4年度は、過去30年近い歴史の中で3番目に高い入館料収入を得ることができました。令和5年度は、休館もあり少し減少しましたが、それでも43万人もの入館者となったのは、多くの方に人気のある施設であるからだと思います。

令和5年度は、「いのちの色—世界をいろどる生きものたち—」展、「うんち無しでは生きられない！—あなたの知らない自然のしくみ—」展、「地衣類—木を、岩を、地面を彩る身近な生きもの—」展、「恐竜 vs 哺乳類—化石から読み解く進化の物語—」展を開催しました。令和5年度も魅力ある企画展を行うことができ、入館者数として高い数字にあらわれたものと思います。最後の「恐竜 vs 哺乳類」展は令和6年度に継続しますが、いずれの企画展も入館者数が10万人を超え、多くの方に見てもらうことができました。なかでも「地衣類」をテーマとした企画展は、殆どの人が「地衣類」という言葉も知らない状況で来館してもらえるのが心配でした。しかも、秋から冬にかけての企画展で、例年入館者が比較的少ない時期のため心配していましたが、終わってみれば10万人を超えることができました。来館者からは、「知らない地衣類でしたが、企画展会場だけに収まらず野外でいろいろな地衣類を見せる工夫があって楽しませてもらいました。」といったお声もいただきました。

当館は、年3回の独自のテーマで行う企画展が人気ですが、それ以外の特徴的なことは、子供達向けにいろいろなイベントを行っていることでしょう。令和5年度はコロナがほぼ収まり、参加人数を含めてほぼコロナ前の状況で行うことができました。実験や工作ができるサンデーサイエンス(年49回)、展示解説員が行うわくわくディスカバリー(年7回)、ボランティアが行う子ども自然教室(年8回)に加え、一般も参加できるサイエンストーク(年6回)自然ラボ(年19回)、スポットガイド(年30回)も行うことができました。また、ボランティアによる「ふれあい野外ガイド」も分かりやすい説明で多くの子供達が楽しく参加していました。

創立以来 29 年が経過し、施設の各所が老朽化しています。現状では、大規模な修繕は予算の制約もあり、なかなか実施できない状況ですが、常設展や野外などの身近な所は、職員も加わり修繕しています。今後も継続して安全点検を行い、修繕していきます。

調査研究は、総合調査、重点研究、創造的調査研究に分けられています。重点研究と創造的調査研究は、当館職員が中心となって進めていますが、総合調査は 14 分科会に分けられ、大学や研究機関などの外部機関の研究員や地域の自然に精通する在野の研究家などと連携した調査研究を行っています。総合調査は、第Ⅲ期第 2 次総合調査の 3 年目にあたり、コロナも収まったこともあり、いろいろな成果が出され、茨城県内の動物、植物、地学の調査研究の成果が今後の当館の企画展などに活かされるとともに、成果として出版されています。

令和 5 年度の教育普及事業では、館内および野外のガイドツアーや観察会などが、コロナ前の状況まで回復できたことは嬉しい限りです。また、県内の社会教育施設（3 か所）や学校（8 か所）で移動博物館を実施することができ、そのうち 4 か所で学芸系職員による展示解説も行えるようになりました。教育用資料の学校や施設への貸出は、29 件となり、講師派遣は、オンライン型の派遣を含め 49 件と前年と同じになりました。茨城県農林水産部と連携した森林・林業体験学習事業は前年度に比べて、多くなり 13 回となりました。コロナ前に行なわれていた触れる展示「ハートフルミュージアム」は、多くの来館者に人気の展示でしたが、この令和 5 年度も感染防止の観点で中止せざるを得なかったのが残念です。

博物館の活動には当館職員だけでなくボランティアの方の協力が大きな役割を担ってきました。毎年、野外の調査・維持や資料整理など多くの活動に協力していただいています。令和 5 年度は、グループでの活動を再開することができ、博物館にとって大きな力となりました。ジュニア学芸員の育成事業もほぼ例年通り行うことができ、養成講座には 20 名の受講がありました。また、認定済みジュニア学芸員 24 名にも継続して活動してもらいました。博物館にとって、地域住民の協力はかせないものとなっています。博物館に隣接する菅生沼の年 2 回の清掃活動は、近隣の住民だけでなく企業の協力もいただいています。今後も、地域住民と一緒に博物館活動を行っていく所存です。

結びに、開館以来長年にわたり茨城県民だけでなく埼玉県、千葉県、東京都などの皆様からの御支援に感謝申し上げ、今後一層の御利用、御活用をお願いいたします。

令和 6 年 7 月

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
館長 横 山 一 己

目次

TABLE OF CONTENTS

館長報告 Director's Report	
I 事業の概要	5
Outline of Activities	
1 展示事業	5
Exhibition Activities	
2 教育普及事業	14
Education Service	
3 資料の収集・保管・利用	28
Collection, Conservation and Utilization of Materials	
4 学術調査研究	38
Scientific Research	
5 広報広聴活動および出版事業	49
Public Relations and Publications	
6 博物館関係行事	51
Museum Events	
7 他の機関・団体との連携	54
Cooperation with Other Institutions and Organizations	
8 ボランティア養成と活動の支援	56
Training and Support for Volunteers	
9 友の会活動の支援	58
Support to Events by Museum Friends of Ibaraki Nature Museum	
II 利用状況	61
Visitor's Statistics	
1 令和5年度入館者数	61
Number of Visitors, 2023-2024	
2 アンケート調査による入館者の状況	63
Summary Analysis of Questionnaires on Visitor's Background	
3 博物館日誌（令和5年度）	66
Museum Calendar 2023-2024	
III 管理運営	68
Organization and Management	
1 組織	68
Staff and Structure	
2 予算・決算	69
Financial Summary	
3 施設整備など	70
Facility Maintenance	
4 博物館協議会	71
Trust Committee	
5 資料評価委員会	72
Material Appraisal Committee	
6 助言者会議	73
Advisory Committee	
付録	75
Appendix	

1 展示事業

Exhibition Activities

(1) 常設展示の更新

令和5年度は、以下のとおり展示更新や展示資料製作、展示装置類の交換を実施した。

○ 展示更新

① 第2展示室サーベルタイガー空調装置付展示ケース製作設置

ロサンゼルス自然史博物館から長期借用しているサーベルタイガー実物全身骨格標本の保管環境を改善することを目的に、常時稼働する独立した空調設備を備えた新規展示ケースを製作・設置した。

② 第3展示室「茨城沖の魚類」展示更新

昨年度、安全性を考慮してホルマリン使用の液浸標本を撤去したため、空いた展示棚に標本台を設置し、茨城県沖に生息する深海性魚類の樹脂封入標本を展示した。

③ 第5展示室地球気象モニターほか展示更新

第5展示室「宇宙から見た地球の環境変化」および「地球気象モニター」については、内容が古くなっているほか、映像機器も経年劣化により不具合が発生していた。そこで、博物館が所蔵する資料を活かした展示への更新を行うため、モニターを撤去し、ガラスケースに更新した。

④ ディスカバリープレイスにおける魚類標本の追加展示

ホルマリン使用の大型液浸標本を昨年度末に撤去したため、そのスペースに茨城県近海に生息する軟骨魚類（ネコザメ、ラブカ、ノコギリザメ、カスザメ、ホシエイ）の剥製を追加展示した。

⑤ ディスカバリープレイス「茨城の植物」の一部展示更新

維管束植物さく葉標本棚（縦置き、引き出し式）が経年劣化して安全性に問題があったこと、および分類学的な展示見直しの必要性から、標本棚を撤去し、新たに標本展示台を設置した。この標本台には、新しい分類学的知見を基に、原色植物さく葉標本6点とアクリル樹脂封入標本12点を展示した。

○ 定期的な小規模更新

① 「トピックスコーナー」

採集、寄贈、購入などで新たに博物館の資料となった標本、話題性のある標本の紹介を行った。

- ・白亜紀の海の生態系にせまる～那珂湊層群の調査（令和4年12月～令和5年4月）
- ・大桃定洋氏寄贈コウチュウ標本（令和5年4月～10月）
- ・昆虫ボランティアの活躍～活動紹介～（令和5年11月～）

② 「博物館のコレみてコーナー」

令和6年2月まで「学芸員からこんにちは」のコーナーとして、学芸系職員の博物館活動について紹介してきた。令和5年度は、小池 渉首席学芸員について紹介した（令和5年4月～令和6年2月）。その後、当館の収蔵資料（コレクション）について広く紹介するため「博物館のコレみてコーナー」に変更した。第1回は、当館植物研究室の学芸系職員が研究協力員である栗原 孝氏らとともに収集した「茨城県那珂川およびその周辺の維管束植物標本」について紹介した（令和6年3月～）。今後、主に4か月ごとに更新予定である。

③ 「茨城の自然インフォメーション」

- ・総合調査「茨城地学調査会」岩石鉱物分科会（地学）（令和5年2月～6月）

当館で行われている「第Ⅲ期総合調査2018～2023」の岩石鉱物分科会での調査活動や調査結果を紹介した。鉱物標本については、第Ⅲ期総合調査第1次調査でまとめた県内の鉱物産出記録に基づき、当館で収蔵されていない鉱物の調査結果を紹介した。主に常陸大宮市での岩石の調査や、掘削中の筑波山塊を貫く上曽トンネル（仮称）工事で採集された岩石や鉱物の調査を紹介した。

- ・総合調査「茨城植物調査会」菌類分科会（植物）（令和5年7月～11月）

当館で行われている「第Ⅱ期および第Ⅲ期総合調査2006～2023」の菌類分科会での調査活動や調査結果を紹介した。生活環が解明されつつあるさび病菌、水辺植生における異種寄生性のさび病菌、中間宿主が不明だったさび病菌、砂丘で採取された新種のキノコ（担子菌）、珍しい菌寄生性の冬虫夏草と新たな発見、日本新産のキノコ（子囊菌）などを紹介した。

- ・総合調査「茨城地学調査会」大型化石分科会（地学）（令和5年12月～令和6年5月予定）

当館で行われている「第Ⅲ期総合調査2018～2023」の大型化石分科会の調査活動や調査結果を紹介した。那珂湊層群（中生代白亜紀の海の地層）では、異常巻きアンモナイトに関する調査結果を、久慈川層群（新第三紀の地層）では、ステゴロフォドンの化石が見つかった玉川層などの調査結果を紹介した。

④ 「天文インフォメーション」

今月の星空や月の満ち欠けカレンダー、惑星の観察情報、国際宇宙ステーションの観察情報、星空TOPICSなどの天文に関する情報をまとめたパネルを毎月更新し、第1展示室入口に設置して来館者に天文情報を提供した。

○ 展示修繕など

① 第1展示室椅子修繕

「太陽系を調べよう」「天文Q & A」「星空ガイド」の椅子において、木部の座面の接着が弱くなったために金属部分とずれてしまい、隙間があいている状態であった。そこで修繕により接着剤と金属ビスで固定した。

② 第1展示室パネルおよびキャプション修繕

第1展示室「隕石を持ち上げてみよう」の標本ラベルが破損したため、新しい標本ラベルを製作・設置するとともに、吊りタイトルを撤去した。また、「日本の隕石・茨城県の隕石」の解説パネルを更新した。

③ 第2展示室恐竜動刻ティラノサウルス幼体験修繕

「恐竜たちの生活」に設置されているティラノサウルス幼体の生体復元ロボットにおいて、験の可動に不調がみられた。適切な状態に復旧するため、当該部品の交換・整備を行った。

④ 第2展示室恐竜動刻付属コンプレッサ点検および調整、部品交換

「恐竜たちの生活」の恐竜生態復元ロボットを稼働させているコンプレッサにおいて、動作不良が見られたので、経年劣化する部品の交換と整備を行い、復旧させた。また、コンプレッサ内の圧縮機が破損して稼働停止したため、圧縮機および周辺部品を交換し、復旧させた。

⑤ 第2展示室床ガラス修繕

古生代の化石の展示エリアにある床ガラスに多数の傷がついていたため、交換修繕を行った。

⑥ 第2展示室「地球46億年の歴史」プロジェクター交換

プロジェクター本体が故障したため、機器交換することで展示の修繕を行った。

⑦ 第3展示室手すり修繕

第3展示室の生体展示水槽コーナー後のN字型スロープに手すりが1本あったが、隙間から子どもが落ちてしまう事故があった。そのため、手すりを2本追加して来館者の安全を図った。

⑧ 第3展示室潜水艇床面修繕

令和3年度のホルマリン流出事故後、潜水艇の床面を外して換気を行っており、潜水艇は使用を中断していた。ホルマリンが検出できなくなるまで濃度が下がったことを受け、床面の修繕を行った。室内の二酸化炭素濃度の確認を行い潜水艇の使用を再開した。

⑨ 第3展示室ジオラマ周辺の修繕

「昆虫の鳴き声」および「鳥の鳴き声」の文字パネルの修繕、展示台のシート貼り修繕、ハチの巣の展示台の下部の金属の剥離部分の修繕を行った。

⑩ 第4展示室映像再生展示修繕

「からだのつくりと動き」と「いろいろな消化器官」の映像の不具合が発生していたことから、映像機

器を更新し、データ移行を行った。

⑪ ディスカバリープレイスコーナーサイン修繕

天吊りのコーナーサインのうち2面が老朽化。印刷部分が剥離して見えにくくなったことから補修した。

⑫ ディスカバリープレイス地衣類引き出しの標本枠修繕

地衣類引き出し展示の標本を納める枠が経年劣化し、枠そのものが外れたり、中の標本が飛び出したりしてしまう不具合が生じていた。このため、標本枠を修繕し、アクリル封入標本18点を展示した。

⑬ 展示室吊り模型の撤去

恐竜ホールおよび第4展示室の吊り物展示については、経年変化により破損落下の可能性も考えられることから、宇宙飛行士およびメガニウラ拡大模型、T4ファージ拡大模型の撤去を行った。ボイジャー模型、タンポポ拡大模型、マガン模型、アンハングェラ全身骨格の吊り展示については今後対応を進めていく。

⑭ 第1展示室照明「惑星や星座の位置関係」および第4展示室「狩」コーナー照明設備修繕

LED テープライトの変色、変形がみられたため、既存のライトを取り外し、別仕様の新しい照明への付け替えを行った。

⑮ 扉の隙間封鎖

昨年度の環境調査の結果では、ディスカバリープレイス、職員通用口、岩石研磨室の扉および自動扉からの害虫の侵入が多かった。その3か所はモヘアテープやパッキンなどが劣化していたため、上下部の隙間より侵入していると考えられた。本年度は、劣化した部材を除去し、防虫効果の高いブラシテープを用いて修繕を行った。

⑯ 燻蒸釜シリコンパッキン修繕

前期の燻蒸釜の保守点検において、燻蒸釜のシリコンパッキンの経年劣化が指摘されたため、交換修繕を実施した。

(2) 常設展示の保守

各々の展示資料や装置類について、定期点検および部品交換などを実施した。

① 動刻設備メンテナンス保守点検

地球のプレート運動装置および付属設備、恐竜動刻模型、動刻模型付属設備の保守点検および部品交換（年間3回）

② 展示室および展示ケース内照明点検交換

蛍光灯・ハロゲンランプ・LED ランプなど、照明管球類の定期巡回点検交換（年間8回）

③ 展示安全点検（映像音響機器類保守点検含む）

緊急安全点検（年間12回）、定期点検（6月、12月）

④ ジオラマ展示清掃保守点検定期点検

定期点検（年間1回：11月実施）

⑤ 情報管理システム保守点検（月1回 / 年間12回）

OS のアップデートおよび不正アクセスログ確認など保守管理（年間12回）、職員が利用する PC など情報機器の軽微な不具合の解消補助

⑥ 収蔵庫・展示室の環境調査

館内の生息昆虫調査および文化財害虫防除施工（6月から11月まで、計5回）

(3) 企画展示

令和5年度は、「いのちの色」、「うんち無しでは生きられない!」、「地衣類」、「恐竜 vs 哺乳類」の4つの企画展を開催した。

第86回企画展「いのちの色ー世界をいろどる生きものたちー」

Colors of Plants and Animals –We all live in our colorful world–

- 1 会期 令和5年2月18日（土）～令和5年6月11日（日）
- 2 内容 自然の中には多様な色があふれている。植物や動物なども自然の一部であり、美しい風景を彩っている。本企画展では色とりどりの生きものたちを展示し、その色のしくみや役割を紹介するとともに、生きものの色を利用した染色や絶滅してしまった古生物の色の再現についても取り上げた。自然界にある生きものの色を再認識することで、自然に目を向けて親しむ機会とした。
- 3 会場 企画展示室（500㎡）
- 4 展示資料
 - ・資料数：1,339点
 - ・主な展示資料：資料：さまざまな色の動物や植物・キノコの標本など、草木染め、自然にない青い色のバラの生体とキクの封入標本、プシッタコサウルスの全身骨格レプリカなど
映像：キノコの色変わり、白い花のひみつ、鳥を引き寄せる果実など
体験コーナー：ヒトとほかの動物の色覚比較装置など
- 5 後援 NHK 水戸放送局、茨城新聞社、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
- 6 総入館者数 133,630人（※うち令和5年4月1日～ 89,089人）
- 7 関連イベント
 - ・自然ラボ：（講座）「企画展「いのちの色」見所紹介」
日時：5月13日（土）
場所：映像ホール
参加者：5人
- 8 担当 稲葉義智（主任）、加藤太一（副主任）、伊藤彩乃（副主任）、漆原英明、寺田和央、滝本秀夫、服部仁一、横山奈菜子、田宮奈津美



展示室風景

Special exhibition room



展示室風景

Special exhibition room

第87回企画展「うんち無しでは生きられない！ーあなたの知らない自然のしくみー」

Excrement (Poop!) – Its role and importance –

- 1 会期 令和5年7月8日（土）～令和5年9月18日（月・祝）
- 2 内容 うんちは自然界の中で無くてはならない存在である。近年、野生生物を対象としたうんちを用いた研究から、さまざまな生態系のしくみが解明されている。また、人間の生活の中でも、うんちは自然から得られる資源として古くから活用されてきた。本企画展では普段、あまり知ることのない生き物のうんちが自然界で果たす役割に焦点をあて、複雑な生態系のしくみについて紹介した。
- 3 会場 企画展示室（550㎡）
- 4 展示資料
 - ・資料数：1,025点

- ・主な展示資料：資料：さまざまな生きもの（哺乳類、鳥類、両生／爬虫類、昆虫、水生動物）のうんちの標本、哺乳類・鳥類の消化管プラスティネーション、ナミアゲハの幼虫およびチンアナゴの生体展示、うんちの化石コプロライト、肥料や燃料として人に利用されるうんち など
映像：クマのうんちに集まるアカネズミ、ツキノワグマの食べもの、秋のライチョウ、チンアナゴのうんちはどこからでるの？ など
体験コーナー：ぞうのうんちを持ち上げよう、肥桶を運ぼう など

5 後援 NHK 水戸放送局、茨城新聞社、アクアワールド茨城県大洗水族館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会

6 総入館者数 131,203人

7 関連イベント

- ・自然ラボ（講座）「フィールドでとことんうんちを見る！集める！ー観察と分析からわかることー」

日時：7月23日（日）

講師：牛田一成氏（中部大学）、松田 勉氏（富山雷鳥研究会）

場所：映像ホール

参加者：45人

- ・自然ラボ（講座）「うんち無しでは生きられないあなたへ！企画展の見所紹介」

日時：7月30日（日）

場所：映像ホール＋オンライン

参加者：45人＋6回線（オンライン）

- ・埼玉県立川の博物館とのコラボ企画「うんちでおしりあい企画@茨城県自然博×埼玉県かわはく～うんちをきっかけに新たな博物館と知り合おう～」

埼玉県立川の博物館開催の特別展「うんち・フン・糞Ⅱ（会期：令和5年7月8日～8月31日）」と展示期間が重複したことから、相互の博物館利用の活性化を目的としたコラボ企画を実施した。

内容①：コラボクイズの実施と記念グッズプレゼント

もう一館の展示を見ると答えがわかるクイズをそれぞれの館で出題し、両館を訪れた来館者に記念品をプレゼントした（※）。埼玉県立川の博物館を訪れた後に当館を利用した来館者が58名、その逆が102名であった。

（※）プレゼントした記念品

埼玉県立川の博物館：うんち展オリジナルマグネット、当館：うんち展オリジナル A4クリアファイル

内容②：コラボ講演会

埼玉県立川の博物館において、特別展関連イベント講演会「大きいうんち・小さいうんちのお話ー動物たちの落とし物からわかることー」を実施。埼玉県自然の博物館と当館の学芸員が共同で講師を務めた。8月5日（土）の午前、午後の2回実施。

8 担当 後藤優介（主任）、佐野拓哉（副主任）、池澤広美、鈴木亮輔、北澤佑子、木村 靖、村田一弘、久松正樹、平川正樹、井土ひろみ



展示室風景

Special exhibition room



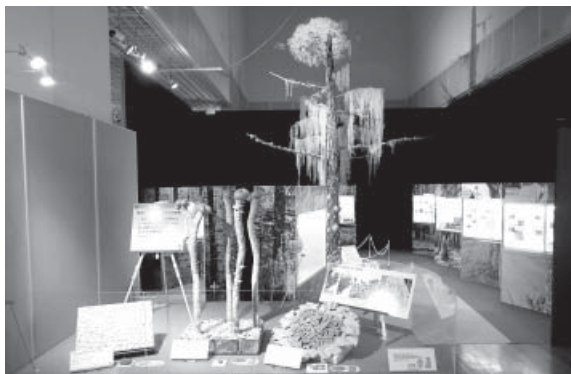
展示室風景

Special exhibition room

第88回企画展「地衣類—木を、岩を、地面を彩る身近な生きもの—」

Lichen will be here, there and everywhere

- 1 会期 令和5年10月7日（土）～令和6年1月21日（日）
- 2 内容 地衣類は、極地、熱帯地域など地球上のいたるところで生育しており、実は私たちの生活空間の中にもよく見かけることのできる、とても身近な生きものである。しかし身近であるにもかかわらず、理科や生物学の授業で重要視されておらず、地衣類の存在自体に気付いている人はあまり多くない。そこで、本企画展では、来館者それぞれが地衣類の存在に関心をもち、自然に対する興味の幅を広げるとともに、「見えていないこと・ものに気付く大切さ」をも感じてもらえるような機会を提供した。
- 3 会場 企画展示室（400㎡）
- 4 展示資料
 - ・資料数：630点
 - ・主な展示資料：資料：地衣類フラワーアレンジメント、鉄道模型ジオラマ、拡大模型（ウメノキゴケ、コアカミゴケ、コウロコダイダイゴケ）、カラマツのシンボルツリー、地衣類の封入標本、乾燥標本、樹脂含浸標本、地衣類の着生した実物資料（ブナの幹、ガードレール、ベンチ）など
 - 映像：館内の地衣類成長映像、古座川の一枚岩に着生するヘリトリゴケ、水にぬらしたときの色変化のタイムラプス映像 など
 - 体験コーナー：地衣類に擬態しよう、におい体験装置 など
- 5 後援 NHK 水戸放送局、茨城新聞社、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
- 6 総入館者数 101,877人
- 7 関連イベント
 - ・自然ラボ（講座）「先生！地衣類ってなんですか？！」
日時：10月9日（月・祝）
講師：大村嘉人氏（国立科学博物館）
田留健介氏（東京農業大学）
場所：映像ホール
参加者：127人
 - ・自然ラボ（講座）「となりの地衣類—ゲッチョ先生の地衣類観察のすすめ—」
日時：11月3日（金・祝）
講師：盛口 満氏（沖縄大学）
場所：映像ホール
参加者：100人+25回線（オンライン）
- 8 担当 福田 孝（主任）、鶴沢美穂子（副主任）、国府田誠一、小池 渉、栗栖宣博、石塚武彦、高橋 慎、仁平可那子



展示室風景
Special exhibition room



展示室風景
Special exhibition room

第89回企画展「恐竜 vs 哺乳類－化石から読み解く進化の物語－」

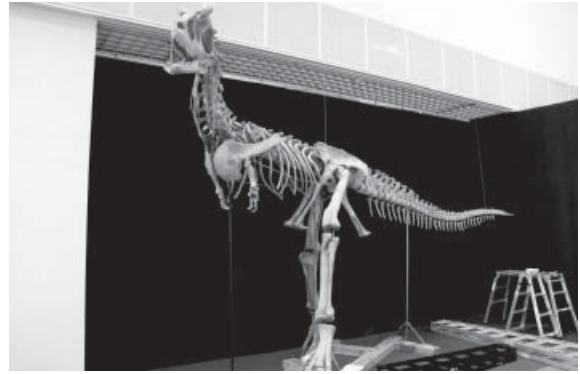
Dinosaurs vs Mammals - their evolutions revealed by fossils -

- 1 会期 令和6年3月2日（土）～令和6年6月9日（日）
- 2 内容 地球では、繁栄と絶命の繰り返しの中で、これまで多くの生物が生活してきた。本企画展では、恐竜と哺乳類にスポットライトを当て、化石から解き明かされる進化の歴史をたどった。また、両者について紹介するとともに、日本の古生物に関する研究についても取り上げた。
- 3 会場 企画展示室（500㎡）
- 4 展示資料
 - ・資料数：351点
 - ・主な展示資料：資料：デイノニクス（肉食恐竜）とスミロドン（肉食哺乳類）をはじめとした、肉食の恐竜と哺乳類、植物食の恐竜と哺乳類の全身骨格、さまざまな鳥類・哺乳類の剥製、植物化石など
 - 映像：宮古層での発掘調査映像、化石の発掘から展示するまでの映像 など
 - 体験コーナー：恐竜や哺乳類の骨格を3Dで見よう 漁竜類やクジラ類の実物化石タッチングコーナー など
- 5 後援 NHK 水戸放送局、茨城新聞社、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
- 6 総入館者数 42,779人（～令和6年3月31日）
- 7 関連イベント
 - ・自然ラボ（講座）「日本の化石で古生物水族館を作ろう」
 - 日時：3月24日（日）
 - 講師：中島保寿氏（東京都市大学）
 - 場所：映像ホール
 - 参加者：82人
- 8 担当 吉川広輔（主任）、加藤太一（副主任）、佐野拓哉、石塚勇太、滝本秀夫、高橋 淳、根本璃久、田宮奈津美



展示室風景

Special exhibition room



展示室風景

Special exhibition room

(4) 特別展示

○牧野富太郎特別展示

- 1 会期 令和5年5月4日（木・祝）～令和5年10月4日（水）
- 2 会場 第1展示室入口前
- 3 内容 令和5年4月から9月まで放送されたNHK連続テレビ小説「らんまん」は、植物学者牧野富太郎の人生がモデルとなっている。牧野富太郎は「日本の植物学の父」といわれ、数多くの新種を発見・命名している。当館には、牧野富太郎採集の地衣類標本のほか、直筆の色紙、牧野富太郎が命名した植物のさく葉標本など、牧野富太郎に関連する資料が収蔵されている。そのうちのいくつかを紹介するコーナーを、「らんまん」の放送期間に特別に設けた。



牧野富太郎特別展

Tomitaro Makino special exhibition

○新種クモヒトデ化石の特別展示

- 1 会期 令和5年4月27日（木）～令和6年2月23日（金）
- 2 会場 ディスカバリープレイス「茨城の地学」
- 3 内容 ハコクモヒトデ属の新種「*Stegophiura takaisoensis*」のパラタイプ標本の特別公開を行った。この標本は、令和2年7月に茨城県日立市高磯に分布する初崎層から当館学芸員の加藤によって採取され、Ishida *et al.* (2023) によって新種のパラタイプ標本として記載された。



新種 *Stegophiura takaisoensis* のパラタイプ標本

A paratype specimen of *Stegophiura takaisoensis*

○新年特別展示

- 1 会期 令和5年12月16日（土）～令和6年1月21日（日）
- 2 会場 2階エントランス
- 3 内容 令和6年の干支である辰に関連する動植物や地学資料を展示した。辰のモデルとなったといわれるタツノオトシゴやミズオオトカゲのほか、漢字に「辰」や「竜」の字を含むリンドウ（竜胆）、ギンリョウソウ（銀竜草）、モグラ（土竜）、ゲンゴロウ（竜蝨）、辰砂など11点を展示して正月の雰囲気盛り上げた。



新年特別展示

Special exhibition for the New Year

(5) ポケット学芸員の利用について

「ポケット学芸員」は、スマートフォンやタブレットなどの端末に、アプリケーションをダウンロードすることで使用できる展示ガイダンスシステムである。展示についての基礎知識や専門情報、補足情報などを知ることができる。当館のポケット学芸員では、日本語版・英語版・中国語（繁体字・簡体字）版コンテンツを公開している。現在のコンテンツ数は73個である。なお、「ポケット学芸員」対応タブレット型端末の貸出は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和5年6月まで休止していたが、同年7月より再開した。令和5年度（7月～3月）の貸出数は、延べ40台である。

2 教育普及事業

Education Service

(1) 学習支援プログラムの提供

① 自然発見ノート、たんけん・調査カードの提供

小・中学生を対象に以下のプログラムを提供した。

自然発見ノート（32テーマ）：館内展示学習用（17テーマ）、野外活動用（15テーマ）

たんけん・調査カード（11テーマ）：館内展示学習用（6テーマ）、野外活動用（5テーマ）

② 幼小ジュニアプログラムの提供

幼稚園、保育所などの未就学児および小学校低学年向けに以下のプログラムを提供した。

館内「はくぶつかんをたんけんしよう」

野外「森であそぼう」、「たねであそぼう」、「落ち葉のお面でへんしんしよう」、「ダンゴムシふしぎはっけん」

(2) インストラクターズルームでのガイダンス、団体利用

① インストラクターズルームでのガイダンス

団体利用に伴う情報提供や助言を行うとともに、情報交換、交流の場を提供した。

令和5年度の利用件数は6,918件。

博物館利用の案内動画を、インストラクターズルーム横のモニターや当館ホームページで視聴できるようにし、利用者が動画を事前に視聴することで、利用相談の時間を有効に使うことができ、よりきめ細かな打ち合わせができるようになった。

利用相談などで対応した団体数

月	対 応 件 数	月	対 応 件 数	月	対 応 件 数	月	対 応 件 数
4	901	7	885	10	480	1	340
5	693	8	690	11	312	2	303
6	706	9	418	12	297	3	893
前期計		4,293		後期計		2,625	
				合計		6,918	

② 団体の利用

新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、セミナーハウスを昼食場所として開放することとした。セミナーハウスの座席数は270席であり、11時から13時までの時間帯を4分割して時間帯と座席の割り振りを行うことで、平日に来館するすべての団体に対して屋内に昼食場所を確保することができた。屋内の昼食場所の確保については、団体からの要望に応えたものである。団体は、雨天や猛暑など、野外で食事がとれない気象条件のもとでも円滑に昼食がとれるようになった。

(3) 展示解説（ガイドツアー、スポットガイド）

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、ガイドツアーの人数を拡大して実施した。スポットガイドは大型モニターやタブレット端末を使用して解説ができるようにした。

ガイドツアーの参加者：522名

スポットガイドの参加者：814名

① ガイドツアーの参加者数

月	参 加 者 数	月	参 加 者 数	月	参 加 者 数	月	参 加 者 数
4	44	7	73	10	20	1	44
5	41	8	77	11	15	2	24
6	40	9	38	12	40	3	66
前期計		313		後期計		209	
				合計		522	

② スポットガイドのテーマと参加者数

期日	テーマ	参加人数	実施日	テーマ	参加人数
R5. 4. 7	何の化石かな？茨城で見つかったある化石のお話	20	R5.11.13	このめ だれのめ？	19
R5. 4.14	骨のお話（人間の骨、肉食・草食動物の違い）	10	R5.11.18	アカゲラのおはなし	8
R5. 4.21	だんごむしのせかい	9	R5.11.18	カラスのおはなし	8
R5. 4.28	このめ だれのめ？	9	R5.12. 2	サメのおはなし	20
R5. 5.12	ツノゼミのせかい	3	R5.12. 2	カエルのおはなし	6
R5. 5.19	カラスのおはなし	10	R5.12. 9	どんぐりころころどの木の子？	30
R5. 5.26	流れ星のおはなし	4	R5.12.16	へびのおはなし	8
R5. 6. 2	やまねのおはなし	4	R5.12.16	かぶとむしのおはなし	15
R5. 6. 9	サメのおはなし	6	R5.12.23	ウサギのおはなし	11
R5. 6.16	アカゲラのおはなし	10	R5.12.23	マイマイカブリのおはなし	18
R5. 6.30	身近にいる危険な昆虫	6	R6. 1. 6	カメについて～浦島太郎のカメは何ガメ？～	12
R5. 7. 7	カエルのおはなし	2	R6. 1. 6	アメリカザリガニのおはなし	15
R5. 7. 7	たなばたのおはなし	2	R6. 1.13	だんごむしのおはなし	20
R5. 7.14	モズのおはなし	16	R6. 1.13	ヤマネのおはなし	12
R5. 7.21	カワセミを知ろう	15	R6. 1.20	海の星 ヒトデのおはなし	19
R5. 7.28	あじさいのおはなし	15	R6. 1.27	ツノゼミのせかい	10
R5. 8. 4	へびのおはなし	10	R6. 1.27	カワセミを知ろう！	15
R5. 9. 1	かぶとむしのおはなし	15	R6. 2. 3	モズのおはなし	7
R5. 9. 8	マイマイカブリのおはなし	10	R6. 2. 3	身近にいる危険な昆虫	25
R5. 9.15	カメについて～浦島太郎のカメは何ガメ？～	7	R6. 2.24	ホネのおはなし	15
R5. 9.22	何の化石かな？茨城で見つかったある化石のお話	12	R6. 2.24	アカゲラのおはなし	20
R5. 9.29	アメリカザリガニのおはなし	2	R6. 3. 2	サメのおはなし	12
R5.10. 7	海の星 ヒトデのおはなし	15	R6. 3. 9	季節の花と花ことば「アジサイのおはなし」	20
R5.10.14	ツノゼミのせかい	15	R6. 3. 9	星座のおはなし	15
R5.10.14	だんごむしのせかい	15	R6. 3.16	へびのおはなし	15
R5.10.21	ホネのおはなし	10	R6. 3.16	カエルのおはなし	25
R5.10.21	ヤマネのおはなし	26	R6. 3.23	カラスのおはなし	13
R5.11. 4	流れ星のおはなし	10	R6. 3.23	マイマイカブリのおはなし	25
R5.11. 4	身近にいる危険な昆虫	35	R6. 3.30	かぶとむしのおはなし	20
R5.11.13	カワセミを知ろう	23	R6. 3.30	カメについて～浦島太郎のカメは何ガメ？～	10
合計					814



スポットガイド
Focused Guide



スポットガイド
Focused Guide

③ 展示解説員研修の実施

展示解説員としての知識や解説技法などの向上のため、研修を実施した。

期日	テーマなど
R5. 6.20	燻蒸期外部研修：外部講師による展示解説員研修
R5. 6.21	燻蒸期内部研修：貸し出し器具の使用法研修、あすなろの里での野外研修など
R6. 2.15	外部研修：日本科学未来館・国立科学博物館での研修

(4) セルフガイド（館内・野外）

館内や野外施設の見どころをクイズ形式で紹介するセルフガイドとして以下のパンフレットを Web ページで公開した。

展示セルフガイド

野外セルフガイド（野外セルフガイドー年間編ー、野外セルフガイドー地学編ー、野外クイズに挑戦 Q & A）

(5) ディスカバリープレイスでの観察

① 身近な生きものの観察

来館者に生きものの展示をすることにより、自然に対する関心を高めた。展示物として、ホトケドジョウ、アカハライモリ、エゾサンショウウオ、ニホンアマガエル、ダイオウグソクムシ、ポットベリーシーホースなどを生体展示した。

② 電子顕微鏡・3D プリンタ

来館者に走査型電子顕微鏡でミクロの世界を紹介した。来館者が操作して観察できる資料として、有孔虫、アミメアリやレパードシャークのうろこなどを展示した。

また、3D プリンタで製作した昆虫や恐竜頭骨などの立体模型を展示した。

(6) 自然発見工房および野外施設での観察

① 「ミュージアムパークの自然」の公開

- ・動物（鳥類・哺乳類の剥製、昆虫の標本、ハチの巣の標本など）
- ・植物（水草類、身近な野草、樹木、ドングリ、材木、キノコ、タケの地下茎など）
- ・地学（木下層貝化石、塩原産植物化石、博物館地下のボーリングコアなど）
- ・学習コーナー（図鑑、図書など）

② 野外および自然発見工房内での情報提供

自然発見工房において野外施設や季節の自然についての情報の提供を適宜行った。

③ 観察用具の貸出

令和5年4月より、双眼鏡、ルーペなどの観察用具の貸出を再開した。令和5年度の貸出数は、双眼鏡41台、フィールドスコープ1台、ルーペ8個、虫眼鏡6個、ファミリープログラム1件であった。

④ ネイチャーガイド

毎月、土曜日（第3土曜日を除く）に、博物館で観察できる植物、動物、岩石、自然環境などについて、テーマを決めて学芸系職員による解説を行った。令和5年度は32回実施し、のべ295人が参加した。

⑤ ふれあい野外ガイド

野外を楽しむための情報やヒントを提供するためにミュージアムボランティアによる野外ガイドを毎月第3土曜日に行った。令和5年度は4月15日、5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、9月16日、10月21日、

11月18日、12月16日、1月20日、3月16日に実施した。

(7) 各種イベント

① 自然ラボ（講座）（※事前予約制で実施）

自然についての実験、実習および講義を行い、参加者が自然の不思議や楽しさを実感できるようなイベントを実施した。

※【企】は企画展記念イベント

テーマ	実施日	参加人数	担 当
スペクトルから宇宙を知る	R5. 4.22	14	担当：吉川広輔、村田一弘
【企】企画展「いのちの色」見所紹介	R5. 5.13	5	担当：稲葉義智、寺田和央、服部仁一
【企】フィールドでとことんうんちを見る！集める！ ー観察と分析からわかることー	R5. 7.23	45	講師：牛田一成氏（中部大学） 松田 勉氏（富山雷鳥研究会） 担当：佐野拓哉、後藤優介
【企】うんち無しでは生きられないあなたへ！企画展の見所紹介	R5. 7.30	講座：45名 オンライン：6回線	担当：後藤優介、佐野拓哉
【企】先生！地衣類ってなんですか？！	R5.10. 9	127	講師：大村嘉人氏（国立科学博物館） 田留健介氏（東京農業大学） 担当：国府田誠一、福田 孝、栗栖宣博
【企】となりの地衣類 ーゲッチョ先生の地衣類観察のすすめー	R5.11. 3	講座：100名 オンライン：25回線	講師：盛口 満氏（沖縄大学） 担当：福田 孝、国府田誠一、 小池 涉、栗栖宣博、鈴木栄恵、 鵜沢美穂子
みてみよう！いきものミクロ☆たんけん隊	R5.12. 9	30	講師：滝本祐也氏（長岡技術科学大学）ほか 担当：木村 靖、池澤広美
南極せんせいのメッセージ	R5.12.23	135	担当：北澤佑子、佐野拓哉
コーパルをみがこう	R6. 3.23	23	担当：石塚勇太、吉川広輔、土田十司作
【企】日本の化石で古生物水族館を作ろう	R6. 3.24	82	講師：中島保寿氏（東京都市大学） 担当：吉川広輔、加藤太一、高橋 淳

② 自然ラボ（観察会）（※事前予約制で実施）

主に博物館野外および茨城県内の豊かな自然を観察することで、参加者の郷土の自然への理解や自然に親しむ心を養うようなイベントを実施した。なお、「博物館で昆虫を観察しよう」は、熱中症警戒アラートが発令されたため、「野焼きがタチスミレを救う」は荒天のため中止となった。

テーマ	実施日	参加人数	講 師 および 担 当
磯の動物を観察しよう	R5. 5.20	19	担当：池澤広美、北澤佑子
白亜紀の海の地層を観察しよう	R5. 5.21	14	担当：佐藤一康、加藤太一、石塚勇太
タチスミレを観察しよう	R5. 5.27	26	講師：小幡和男氏（当館名誉学芸員） 担当：伊藤彩乃、服部仁一
キノコを観察しよう	R5. 7. 1	24	講師：糟谷大河氏（慶應義塾大学） 担当：稲葉義智、鵜沢美穂子
博物館で昆虫を観察しよう	R5. 7.29	中止	担当：石塚武彦、久松正樹
雲を観察しよう	R5. 9. 2	19	担当：石塚勇太、小池 涉、村田一弘
石切り山脈見学ツアー	R5.11.11	14	担当：佐藤一康、土田十司作、高橋 淳
菅生沼で野鳥を観察しよう	R6. 1.13	19	担当：佐野拓哉、後藤優介
野焼きがタチスミレを救う (※)野焼きは、1/28に関係者のみで実施した。	R6. 1.21	中止	講師：小幡和男氏（当館名誉学芸員） 担当：鈴木亮輔、伊藤彩乃、服部仁一



白亜紀の海の地層を観察しよう（5月）
Observe the marine strata of the Cretaceous period



磯の動物を観察しよう（5月）
Observe animals on the seashore

③ サイエンストーク（※事前予約制で実施）

調査研究の成果を一般来館者向けにわかりやすく紹介するイベントを実施した。

テーマ	実施日	参加人数	講 師 および 担 当
恐竜がいたころの植物	R5. 7.17	23	滝本秀夫、加藤太一
てくてく歩いてシダをめくる	R5. 8. 2	13	鈴木亮輔、伊藤彩乃
ツキノワグマのうんちを調べてみたら	R5. 8.27	13	後藤優介、漆原英明
恐竜時代のサメたち	R5.10.15	32	加藤太一、高橋 淳
霞ヶ浦が危ない！外来種オオバナミズキンバイ	R6. 2.24	6	伊藤彩乃、鈴木亮輔
茨城にはミツバチ以外にどんなハナバチがいるか	R6. 3.16	22	久松正樹、漆原英明

④ サンデーサイエンス（※事前予約制で実施。2月、3月は一部当日抽選制で実施）

毎週日曜日に来館者を対象として、月毎のテーマで自然博物館ならではの観察や実験、ものづくりなど、自然に対する関心を高めることを目的とするイベントを実施した。

令和5年度は、天候不良時や猛暑時の来館者の安全確保のため、原則として館内スタディールームで実施した。スタディールームでの上限人数を30名とし、午前と午後の2回実施することで、より多くの来館者が参加できるようにした。

テーマ	実施月	回 数	参加人数	担 当 職 員
動物のちぎり絵をつくろう	4	5	111	動物研究室 漆原英明、横島 彰
木の葉の化石を見つけよう	5	3	105	地学研究室 土田十司作、高橋 淳、滝本秀夫、村田一弘
葉脈標本をつくろう	6	4	107	植物研究室 栗栖宣博、福田 孝、鈴木亮輔、服部仁一
星座早見盤をつくろう	7	5	122	地学研究室 村田一弘、高橋 淳、土田十司作、佐藤一康
藍染め体験をしよう	8	4	56	植物研究室 寺田和央、稲葉義智
動物のうんちをつくろう	9	4	176	動物研究室 木村 靖、北澤佑子
ドングリごまをつくろう	10	4	138	植物研究室 服部仁一、国府田誠一、稲葉義智、寺田和央、栗栖宣博
貝化石の観察をしよう	11	4	115	地学研究室 滝本秀夫、土田十司作、高橋 淳、村田一弘
地衣類ストラップをつくろう	12	4	152	植物研究室 福田 孝、国府田誠一
水の生きものの樹脂標本をつくろう	1	4	143	動物研究室 北澤佑子、石塚武彦
タカアシガニのお面をつくろう	2	2	59	動物研究室 横島 彰、池澤広美
木の葉の化石を見つけよう	3	5	328	地学研究室 高橋 淳、村田一弘、滝本秀夫、土田十司作



葉脈標本をつくろう（6月）
Make a leaf vein specimen（June）



動物のうんちをつくろう（9月）
Make animal poop（September）

⑤ わくわくディスカバリー（※事前予約制で実施。11月25日の午後の回のみ当日抽選）

展示解説員による幼児および小学生向けのイベントを実施した。スタディルームで午前・午後の2回に分けて実施した。

テーマ	実施日	参加人数	担当職員
釣れるかな？カラフルさかなつり	R5. 5.27	33	木村花歩、坂本由香理、吉田真弓、佐野拓哉、木村 靖
鳥のプラバンキーホルダーをつくろう	R5. 6.24	28	渡辺優子、井口結賀、石川優里、北澤佑子、滝本秀夫
さざれ石でつくろうアンモナイトアート	R5. 7.22	33	岩本静夏、龍田 愛、羽田茉莉乃、佐藤一康、土田十司作
プラバンでつくろう夏の昆虫標本	R5. 8.26	32	栗崎香菜、中村優太、昼間佳奈子、北澤佑子、村田一弘
リサイクル！牛乳パックで手作りはがき	R5. 9.23	31	滝本麻衣子、真柄紫保、原田紗里、鶴沢美穂子、寺田和央
とびだすキノコのグリーティングカード	R5.11.11	33	森田麻友、木村由佳、小野田裕介、稲葉義智、服部仁一、鈴木栄恵
動物指パペット～うさぎ編～	R5.11.25	54	飯倉美波、木村弥生、森田勝也、佐野拓哉、木村 靖



釣れるかな？カラフルさかなつり（5月）
Can you catch it? Colorful Fish Fishing（May）



とびだすキノコのグリーティングカード（11月）
Greeting card with mushrooms that pop up（November）

⑥ 子ども自然教室（※事前予約制で実施）

ボランティアの企画運営による、小中学生を対象とした自然観察・体験活動を行うイベントを実施した。

テーマ	実施日	参加人数	担当ボランティアおよび担当職員
博物館で春の昆虫を観察しよう	R5. 5.13	15	柄澤保彦、古川麻記子、山川 稔、広沢英明 鈴木 幸、坂本紀之、清水実嗣、中野安裕 久松正樹、石塚武彦
新緑の森、見て触って、たくさんの自然を探そう（ネイチャーゲーム）	R5. 6.10	8	芳野光夫、秋葉弘子、坪内博子、菊地浩子、 武田まゆみ、谷内貴子、山口正恵 村田一弘、漆原英明

ちりめんモンスター図鑑をつくろう	R5. 8. 5	15	染谷勇人、新井潤一郎、鈴木栄恵、高橋 宏 谷内貴子、杉原聖一、秋葉弘子 木村 靖、北澤佑子
身近な植物で押し葉絵をつくろう	R5.10.14	10	高橋玲子、小故島和子、小島百合子、 古田島宏一、椎名道子 横島 彰、高橋 淳
いろいろな落ち葉を使って、たくさんの自然を楽しもう	R5.11.11	7	芳野光夫、武田まゆみ、坪内博子、菊地浩子 村田一弘、漆原英明
土のペンダントをつくろう	R5.12. 9	18	田村憲司、秋葉弘子、関屋珠美、牧野純子 細川ヒサ子、谷内貴子、瀬楽かおる 北澤佑子、土田十司作
冬の博物館で野鳥を探そう	R6. 2.23	6	阿部 均、伊藤玲子、古田島宏一、小林 勉 平永 一、前澤謙一、芳野光夫 佐野拓哉、後藤優介
化石をスケッチしてみよう	R6. 3. 9	10	小林 俊、丹羽俊二、岡田葉音、和田義彦 和田百合子 佐藤一康、石塚勇太

(8) 理科自由研究のヒントを見つけよう【※事前予約制（映像ホール＋オンライン）で実施】

小中学生とその家族を対象に、理科自由研究を行う際のヒントや留意点などをわかりやすく伝えることで、理科を身近なものとして認識させるとともに、児童生徒の探究する心を育てる場として実施した。学芸系職員による研究にまつわる体験談や研究の進め方などを紹介した。

期 日：令和5年7月15日（土）

内 容：「自由研究の進め方」

講師 教育課長 国府田誠一

「観察」と「記録」を楽しもう

講師 植物研究室 鶴沢美穂子

「身近な環境での鳥類調査」

講師 動物研究室 佐野拓哉

「砂のけんきゅう」

講師 地学研究室 佐藤一康

ー河原や海岸の砂をしらべてみようー

参加者：映像ホール81人＋オンライン33回線

(9) 移動博物館

茨城県内の学校および社会教育施設に当館の資料を展示し、遠方など通常当館を利用する機会が少ない方々が博物館の展示を見学できるような取り組みを実施した。それに伴い、移動博物館用既存資料を整理して、資料データベースを作成し HP で公開することにより、実施団体のニーズに合った資料を選択できるようにした。

令和5年度は、学校8校、社会教育施設3施設で実施した。新型コロナウイルスにより休止していた学芸系職員による展示解説を希望する学校に対して再開し、4校で実施した。また、資料の解説動画37本を作成し、1月より利用者がタブレットやスマートフォンで再生視聴できるようにした。

<学校>

No.	会 場	期 間	入場者数	テーマ
1	茨城県立協和特別支援学校	R5. 7. 5 ～ R5. 7.11	282	身近な自然
2	笠間市立岩間第三小学校	R5. 9. 8 ～ R5. 9.13	652	身近な自然
3	土浦市立新治学園義務教育学校	R5. 9.22 ～ R5. 9.28	408	身近な自然
4	石岡市立関川小学校	R5.10.13 ～ R5.10.19	280	身近な自然
5	那珂市立瓜連小学校	R5.10.25 ～ R5.10.31	401	身近な自然
6	結城市立江川南小学校	R6. 1.17 ～ R6. 1.24	515	身近な自然
7	茨城県立水戸特別支援学校	R6. 2. 2 ～ R6. 2. 8	283	身近な自然
8	ひたちなか市立佐野中学校	R6. 2.15 ～ R6. 2.21	806	身近な自然

<社会教育施設>

No.	会 場	期 間	入場者数	テーマ
1	茨城県立図書館	R5. 4.26 ～ R5. 5.10	4,653	身近な自然
2	ひたちなか市津田コミュニティセンター	R5. 8.23 ～ R5. 8.29	2,166	身近な自然
3	常総市立図書館	R5.10. 5 ～ R5.10.11	130	身近な自然



移動博物館（笠間市立岩間第三小学校）
Mobile Museum（Kasama Municipal Iwamadaisan Elementary School）



移動博物館（茨城県立図書館）
Mobile Museum（Ibaraki Prefectural Library）

(10) 教育用資料の貸出

学校や社会教育施設における理科教育や環境教育などに利用できるよう、博物館の標本・資料を教育用貸出資料として整備した。WEB ページの更新、宅配便の利用、利用者の多い化石レプリカの型の製作を行うなど、教育用貸出資料を借りやすくするための環境整備を行った。

昨年度末に、過去6年間の利用状況を分析した結果、利用されている資料は、理科の授業で使われる特定のものに集中しており、利用者は近隣の学校が大部分であることがわかった。令和5年度は、より多くの学校が利用できるようにするため、利用希望の多い資料の数をふやすとともに、遠方の学校が直接来館しなくても資料が利用できるよう、運搬方法についても改善を進めている。

No.	貸 出 先	使用目的	期 間	教 材 名
1	東京農業大学森林総合科学科	授業	R5. 4.26 ～ R5. 5.19	哺乳類頭骨セット
2	東京都市大学	授業	R5. 5.17 ～ R5. 5.19	昆虫のスケッチ用標本セット（2セット）
3	つくば市立吾妻中学校	授業	R5. 5.19 ～ R5. 5.26	頭骨セット2
4	取手市立戸頭中学校	授業	R5. 5.28 ～ R5. 6.10	頭骨セット1（ビーバーセット）
5	茨城県立緑岡高等学校	イベント	R5. 6.12 ～ R5. 6.22	アンモナイト型、ビカリア型、三葉虫型、サメの歯型（各8） お椀 ヘラ（各8）
6	利根町立利根中学校	授業	R5. 6.15 ～ R5. 6.28	頭骨セット2、骨格標本（タイ、カエル、トカゲ、ニワトリ）
7	ファーストステップインターナショナルスクール	イベント	R5. 7.23 ～ R5. 8. 6	化石セット1、アンモナイト型・三葉虫型 各20個
8	つくばエキスポセンター	イベント	R5. 7.28 ～ R5. 8. 4	化石セット1、アンモナイト型・三葉虫型 各20個
9	つくば市立みどりの学園義務教育学校	課題研究	R5. 8. 3 ～ R5. 8.16	頭骨標本（タヌキ、アライグマ、ハクビシン）
10	茨城県生物多様性センター	イベント	R5. 8. 4 ～ R5. 8. 8	パネル9枚、剥製5ケース、封入標本6種類、キノコのレプリカ4種類

No.	貸 出 先	使用目的	期 間	教 材 名
11	常総市理科教育研究部	研修	R5. 8.10 ~ R5. 8.24	昆虫スケッチ用標本2 化石セット1 頭骨標本2、骨格標本（サル・ニワトリ・カエル）各1、地層剥ぎ取り標本8 アンモナイトキット1、化石レプリカ作製キット（アンモナイト30、三葉虫・ビカリア・サメの歯 各10）
12	つくば開成高等学校	授業	R5. 8.18 ~ R5. 8.24	秋の昆虫観察標本
13	茨城県立美浦特別支援学校	授業	R5. 9.12 ~ R5. 9.26	岩石セット（火成岩・堆積岩・変成岩 各1）
14	美浦村立美浦中学校	授業	R5. 9.29 ~ R5.10.10	頭骨セット2
15	龍ヶ崎市立城ノ内中学校	授業	R5.10.12 ~ R5.10.29	動物の進化学習キット
16	牛久市立牛久第二小学校	授業	R5.10.14 ~ R5.10.28	地層剥ぎ取り標本 4
17	つくば市立春日義務教育学校	授業	R5.10.18 ~ R5.11. 2	地層剥ぎ取り標本（花室川・行方市谷島）
18	八千代町立下結城小学校	授業	R5.10.28 ~ R5.11.10	化石セット 1
19	土浦市立乙戸小学校	授業	R5.11.13 ~ R5.11.22	化石セット 1 地層剥ぎ取り標本 3 岩石セット（火成岩・堆積岩 各3）
20	古河市立駒込小学校	イベント	R5.11.15 ~ R5.11.22	アンモナイト型、ビカリア型、三葉虫型、サメの歯型（各5個）お椀 ヘラ（各17個）
21	ばんどう太郎 さしま少年自然の家	イベント	R5.11.16 ~ R5.11.24	鉱物セット
22	東海村立東海中学校	授業	R5.11.21 ~ R5.12. 8	秋の昆虫観察標本
23	坂東市立中川小学校	授業	R5.11.28 ~ R5. 12.8	地層はぎとり標本 8
24	筑波大学	授業	R5.12. 1 ~ R5.12.15	昆虫のスケッチ用標本 120個
25	坂東市立中川小学校	授業	R5.12. 7 ~ R5.12.12	岩石セット（堆積岩3 火山噴出物1） 造岩鉱物セット10 鉱物セット 1
26	桜川市立樺穂小学校	授業	R5.12. 8 ~ R5.12.22	アンモナイト型 25個
27	坂東市立中川小学校	授業	R5.12.14 ~ R5.12.22	化石セット1 貝化石 アンモナイト型・三葉虫型・ビカリア型・サメの歯型 各6個
28	坂東市立神大実小学校	授業	R6. 1.24 ~ R6. 2. 7	アンモナイト学習キット アンモナイト型 40個
29	上野動物園	イベント	R6. 3.12 ~ R6. 3.21	クマのトランクキット

(11) 他教育施設との連携

① 講師派遣

学校、社会教育施設などからの授業支援や講演などの要請に対し、博物館職員を派遣し、自然科学やキャリア形成についての普及啓発を図った。講師の派遣の形態により、希望する団体などへ出向く「派遣型」と、団体来館時に博物館内で実践する「Study in Museum」を実施した。

<派遣型>

※：オンラインで実施

No.	派遣先	期日	内容	派遣職員	参加人数
1	守谷市生涯学習課	R5. 4.22	守谷市鳥のみの草花や昆虫の観察	石塚武彦	10
2	板橋区立熱帯環境植物館	R5. 6.19	熱帯環境植物園のコケの同定とバーチャル観察会の動画撮影（植物館の企画展で動画を放映）	鶴沢美穂子	—
3	栃木県高等学校理科部会	R5. 6.26	南極観測隊で活動して学んだこと	北澤佑子	100
4	愛光中学校・高等学校	R5. 7.21	化石研究の面白さとその意義	加藤太一	220
5	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R5. 7.22	昆虫採集体験をしながら自然の大切さを考える	石塚武彦	40
6	守谷市中央公民館	R5. 8. 1	木の葉の化石割り体験	佐藤一康	10
7	県南地区教育研究会	R5. 8. 4	身近な生き物の観察	石塚武彦 久松正樹	35
8	結城市立江川南小学校	R5. 8.23	じっくり見よう！親子星空観察会	吉川広輔 高橋 淳	114
9	つくば市立研究学園中学校	R5. 9. 8	南極での環境問題	北澤佑子	70
10	わたらせ水辺の学校	R5. 9. 9	昆虫観察会	石塚武彦 久松正樹	90
11	神栖市立息栖小学校	R5. 9.19	土地のつくりと変化 化石発掘体験	佐藤一康	220
12	結城市立城西小学校 ※	R5.10.11	理科モデル校公開授業「月と太陽」	吉川広輔	31
13	守谷市生涯学習課	R5.10.14	自然観察会	石塚武彦	10
14	結城市立城西小学校 ※	R5.10.18	理科モデル校公開授業「月と太陽」	吉川広輔	31
15	ばんどう市女性団体協議会	R5.11. 5	南極での体験から学ぶ男女共同参画	北澤佑子	114
16	常総市立石下中学校	R5.11. 7	学芸員の仕事	小池 渉	88
17	なかや勝田教室	R5.11. 8	うちゅうちぎり絵	高橋 淳	15
18	茨城大学 ※	R5.11. 8	初等理科内容研究	佐藤一康	96
19	つくば市立吾妻小学校	R5.11. 9	土地のつくりとはたらき	佐藤一康	93
20	美しい手賀沼を愛する市民の連合会	R5.11.10	霞ヶ浦における特定外来植物の対策	伊藤彩乃	90
21	古河市立上大野小学校	R5.11.15	土地のつくりとはたらき	佐藤一康	13
22	つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校	R5.11.18	秋祭り「蝶を学ぼう」	石塚武彦	150
23	浦和明の星女子中学・高等学校	R5.11.20	南極の活動を通して学んだ国際社会での女性活躍	北澤佑子	1050
24	つくばみらい市立伊奈小学校	R5.11.21	土地のつくりと変化	石塚勇太	60
25	潮来保健所	R5.11.25	有毒植物	稲葉義智	40
26	千葉大学園芸学部	R5.12. 6	緑の環境を育む 地域づくりでの博物館の役割	伊藤彩乃	70
27	筑波大学	R5.12. 7	博物館の教育的利用について	北澤佑子	60
28	結城市立江川南小学校	R5.12.14	土地のつくりとはたらき	佐藤一康	13
29	茨城大学 ※	R5.12.26	初等理科内容研究	佐藤一康	96
30	坂東市立神大実小学校	R6. 1.17	菅生沼のハクチョウの観察	佐野拓哉	36
31	青少年育成市民会議大生支部	R6. 1.17	親子星空観察会	吉川広輔 高橋 淳	50
32	茨城大学 ※	R6. 1.17	楽しい博物館学	佐藤一康	34
33	坂東市立南中学校	R6. 1.25	地層について	石塚勇太	40
34	水戸市立上大野小学校	R6. 2.14	上大野地区に生息する動植物について	石塚武彦	50
35	坂東市立中川小学校	R6. 2.16	月の観察、この時期に見られる星の観察	吉川広輔 高橋 淳	60
36	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R6. 2.24	霞ヶ浦環境科学センター野外の地衣類観察	福田 孝	30
37	水海道あすなろの里	R6. 3.10	菅生沼の身近な植物と昆虫	飯田勝明 石塚武彦	30
				派遣延べ人数	43
				講座など参加延べ人数	3,432

< Study in Museum >

No.	派遣先	期日	内 容	派遣職員	参加人数
1	茨城県立水海道第一高等学校 附属中学校	R5. 4.26	博物館の役割について／バードウォッチング	吉川広輔 佐野拓哉	40
2	秀明大学	R5. 6. 9	展示を利用した学習プログラムの作成	加藤太一 佐藤一康	11
3	茨城県立下妻第一高等学校 附属中学校	R5. 6.29	博物館職員の仕事について	吉川広輔	40
4	日立市生涯学習課	R5. 8.24	学芸員の仕事	稲葉義智	88
5	五霞町教育委員会 生涯学習グループ	R5. 8.29	企画展「うんち無しでは生きられない」 の見どころ	後藤優介	15
6	常磐大学	R5.11. 4	博物館学	小池 渉	20
7	常総市立水海道小学校	R5.11. 9	博物館の野外で生き物を探してみよう	佐野拓哉	59
8	大妻女子大学	R5.11.23	博物館の利用	高橋 淳 佐藤一康	30
9	秀明大学	R5.12. 1	展示を利用した学習プログラムの作成	加藤太一 佐藤一康	13
10	東京農工大学	R5.12.15	茨城県自然博物館の資料収集・保管の現状	後藤優介	15
11	茨城県高等学校美術部会	R6. 1.17	博物館とアート	高橋 淳	12
12	茨城県立土浦第一高等学校 附属中学校	R6. 2.20	地層について	佐藤一康	85
				派遣延べ人数	16
				講座など参加延べ人数	381

② 博学連携

茨城県内の公立・私立の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校、および特別支援学校を対象にして、博物館と学校の相互の専門性を活かして博物館の資料や野外施設などを効果的に活用する授業づくりを行う取り組みを実施した。

令和5年度は公立の小学校4校から応募があり、すべて受け入れて実施した。

・坂東市立七郷小学校

期日	学年	教科	学習内容	担当職員
R5. 7. 5	3	総合的な学習の時間	虫の世界を探検しよう	久松正樹、石塚武彦、ボランティア（昆虫チーム）
R5. 7.13	4	総合的な学習の時間	野鳥の観察	佐野拓哉、ボランティア（野鳥チーム）
R5. 9.12	3	総合的な学習の時間	虫の世界を探検しよう	久松正樹、石塚武彦、ボランティア（昆虫チーム）
R5. 9.15	5	理科	流れる水のはたらき	石塚勇太
R5.10.24	4	総合的な学習の時間	野鳥の観察	佐野拓哉、ボランティア（野鳥チーム）
R5.11.22	6	理科	土地のつくり	佐藤一康
R6. 2.27	4	総合的な学習の時間	野鳥の観察	佐野拓哉、ボランティア（野鳥チーム）

・坂東市立神大実小学校

期日	学年	教科	学習内容	担当職員
R5. 7.14	1	生活科	なつとなかよし	稲葉義智、ボランティア（植物チーム）
R5.10.31	1	生活科	あきとなかよし	稲葉義智、ボランティア（植物チーム）
R6. 1.18	1	生活科	ふゆとなかよし	稲葉義智、ボランティア（植物チーム）

・五霞町立五霞東小学校

期日	学年	教科	学習内容	担当職員
R5. 7.13	3	理科	昆虫	久松正樹、石塚武彦、ボランティア（昆虫チーム）
R5. 7.14	6	理科	生物同士のかかわり	北澤佑子
R5.10.26	5	理科	流れる水の働き	石塚勇太
R5.11.30	6	理科	土地のつくりと変化	佐藤一康

・八千代町立西豊田小学校

期日	学年	教科	学習内容	担当職員
R5. 9.12	4	理科	四季の生きもの	稲葉義智、ボランティア（植物・昆虫チーム）
R5. 9.21	5	理科	流れる水	石塚勇太
R5. 9.22	3	理科	昆虫	久松正樹、石塚武彦、ボランティア（昆虫チーム）
R5.11. 7	5	理科	土地のつくり	佐藤一康
R6. 1.17	4	理科	四季の生きもの	稲葉義智、ボランティア（植物・昆虫・野鳥チーム）

③ 宿泊学習施設との連携

博物館および県南西地区の宿泊施設との交流を推進し、施設の相互利用促進のための計画を立案した。
令和5年度は企画課と連携しミニ移動博物館を実施。

開催日	会 場	連 携 施 設 名	内 容
R5.10.22	水海道あすなろの里	水海道あすなろの里	・昆虫標本の展示 ・拡大模型の展示 ・岩石・鉱物化石の展示
R5.11.19	ばんどう太郎 さしま少年自然の家	ばんどう太郎 さしま少年自然の家	・昆虫標本の展示 ・拡大模型の展示 ・化石の展示

④ 茨城県教育委員会との連携

茨城県児童生徒科学研究作品展（県展）の実施に伴い、審査員として職員を派遣してミュージアムパーク茨城県自然博物館長賞を3点選定して授与した。

⑤ 茨城県教育研修センターとの連携

令和5年度の依頼はなく、実施しなかった。

⑥ 大学および高等学校の博物館活用における連携

＜大学との連携＞

大学との連携の一環として、博物館学や自然科学分野、教員養成分野などのカリキュラムについて大学に協力し、講師派遣で対応した。

期 日	大 学 名	内 容	人数
R5. 6. 9	秀明大学	博物館を活用した授業づくり	11
R5.11. 4	常磐大学	博物館学	20
R5.11. 8	茨城大学	初等理科内容研究（オンライン）	96
R5.11.23	大妻女子大学	博物館の利用	30
R5.12. 1	秀明大学	博物館を利用した授業づくり	13
R5.12. 7	筑波大学	理科教育概論	65
R5.12.15	東京農工大学	茨城県自然博物館の資料収集、保管の現状	15
R5.12.26	茨城大学	初等理科内容研究（オンライン）	96
R6. 1.17	茨城大学	楽しい博物館学（オンライン）	34

＜高等学校との連携＞

高等学校の総合的な探究の時間や特別活動で行われている自然科学分野の研究活動などに関して、教員や生徒に向けて、専門的な立場から助言や講義などを行った。

期 日	大 学 名	内 容	人数
R5. 4.21	茨城県立三和高等学校	西仁連川における探究活動について	2
R5. 5.21	茨城県立水海道第一高等学校・附属中学校	中高合同のクラブ活動の進め方	20
R5.11.16	茨城県立水海道第一高等学校	総合的な探究の時間における研究の進め方	33

⑦ 「教員のための博物館の日」の実施

（独）国立科学博物館、（公財）日本博物館協会との共催で、教員が博物館を自発的に楽しみ、博物館を活用した体験的な活動について理解を深める機会を設けることで、学校に対する教育普及活動を充実させるとともに、教員の博物館利用促進を図ることを目的として実施した。

期 日：令和5年8月4日（金）

参加者：参加者：41人（県内37人、県外4人）

内 容：・博物館の団体利用について（映像ホール）

- ・教室でまじめに伝えるための「うんちと自然」講座（講座室）
- ・先生のためのコケ基礎講座（スタディールーム）
- ・剥ぎ取り標本の授業活用例（セミナーハウス）
- ・教育用貸出資料紹介（映像ホール）
- ・博物館利用に関する相談受付（映像ホール）
- ・館内見学

⑧ 森林・林業体験学習事業

平成26年度から、茨城県農林水産部林政課との連携として森林・林業体験学習事業を受け入れている。令和5年度は13団体473人が参加した。

No.	実施日	学校または団体名	人数
1	R5. 5.24	石岡市立小桜小学校3・4年	41
2	R5. 6.29	なか自然の会	20
3	R5. 7.19	ひたち生き生き百年塾推進本部 ひたち市民カレッジ	21
4	R5. 7.27	那珂市瓜連地区まちづくり委員会	69
5	R5. 7.28	大子幼稚園まごあずぽけっと	50
6	R5. 8. 2	那珂市菅谷地区まちづくり委員会	80
7	R5. 8. 9	日立市金沢交流センター 青少年育成部	32
8	R5. 8.10	NPO 法人なかよし学童保育の会 みなみ学園児童クラブ	25
9	R5. 8.25	生活協同組合パルシステム茨城 栃木	33
10	R5.10. 5	守谷市立大野小学校5年	20
11	R5.11.22	下妻市立総上小学校5年	26
12	R5.11.30	つくば市立要小学校5年	22
13	R6. 1.25	古河市立西牛谷小学校4年	34
合 計			473

⑨ 博物館実習・中学生職場体験学習の受け入れ

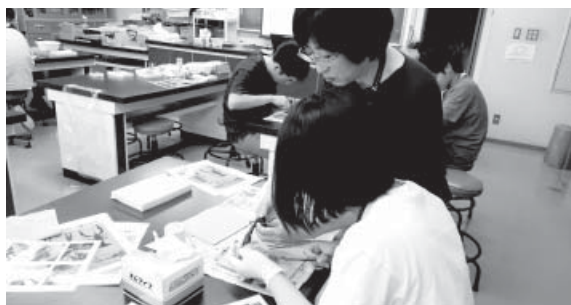
ア 博物館実習

期 日：令和5年9月5日（火）～ 9月15日（金）

実習生数：10人

（筑波大学、東京農業大学、日本大学）

内 容：講義「博物館の概要」、収蔵庫見学、標本製作・整理実習、展示製作実習、展示教育普及活動補助、野外整備



博物館実習（標本製作実習）
Museum Practice
(Practice of Specimen Preparation)



博物館実習（展示製作・展示解説実習）
Museum Practice
(Practice of Exhibition and Exhibition Explanation)

イ 中学生職場体験学習

実施日：令和5年8月1日（火）～ 8月3日（木）

生徒数：11名（坂東市立猿島中学校、坂東市立南中学校、坂東市立岩井中学校）

内 容：講義「博物館の仕事」「学芸員の仕事」「収蔵庫について」

実習「水槽生態展示」「展示解説員業務」「樹名板作成」「植物標本づくり」「私の推し展示」

見学「ガイドツアー」「研究室」など

(12) ジュニア学芸員育成事業

自然に関する研究や博物館の活動に関心をもつ中高生を対象として、調査研究活動の支援などを行った。

新規参加者には基本的な技能の習得に重点を置いた養成講座を実施した。新規参加者および継続参加者に自主研究活動への指導・助言を行った。

① 新規受講生向けの養成講座

受講生に対して、自然調査活動（剥ぎ取り層などを用いた地質調査法、剥製を用いた魚類分類法、ナデシコ科を用いた植物分類法など）について基礎的な研修を行った。その後、受講生は各自研究テーマを設定して自由研究を進めてその成果を発表した。

令和5年度は20名が養成講座を受講し、新規参加者20名全員を新たにジュニア学芸員として認定した。認定を受けた後は調査研究活動や当館イベント補助活動を行った。

② 認定済みジュニア学芸員活動継続参加者

継続参加者は、自身の研究テーマについての調査研究や研究新規ジュニア学芸員養成講座や当館イベントの補助活動を行った。令和5年度は24名が継続して活動した。

期 日	内 容
R5. 4.16	ジュニア学芸員養成講座開講式 養成講座「地学調査法」（候補生20名、認定済み7名）
R5. 5.14	養成講座「動物調査法」（候補生18名、認定済み9名） 養成講座「植物調査法」（候補生18名、認定済み9名）
R5. 6.11	養成講座「研究報告法」（候補生16名、認定済み4名）
R5. 7.15	養成講座「自由研究相談会」（候補生19名、認定済み5名）
R5. 8. 5	養成講座「中間報告会」（候補生20名）※オンラインで実施
R5. 8.20	養成講座「報告会資料作成」（候補生18名、認定済み1名）
R5. 9.24	令和5年度ジュニア学芸員候補生研究報告会並びにジュニア学芸員認証式 （候補生18名、認定済み4名）※欠席した候補生2名は後日オンラインなどで対応
R5.10. 9	自然ラボ（講座）「先生！地衣類ってなんですか？」（認定済み11名）
R5.10.15	サイエンストーク「恐竜時代のサメたち」（認定済み2名）
R5.11. 3	自然ラボ（講座）「となりの地衣類」（認定済み7名）
R5.12.23	自然ラボ（講座）「南極せんせいのメッセージ」（認定済み8名）
R6. 1.13	自然ラボ（観察会）「野鳥を観察しよう」（認定済み3名）
R6. 3.24	自然ラボ（講座）「日本の化石で古生物水族館をつくろう」（認定済み16名）
R6. 3.26	令和5年度ジュニア学芸員活動報告 ※活動内容のデータをメールで提出することで報告

3 資料の収集・保管・利用

Collection, Conservation and Utilization of Materials

資料は、社会から託された共有財産という基本認識に立ち、博物館として必要な資料の収集をすすめるとともに、それが次世代へ引き継がれるような適正な保管を図らねばならない。当館は茨城県立の博物館であることから、資料の収集対象を主に「茨城の風土に根ざした自然」に関する資料とし、いわゆる「地域収集資料“Regional collection”」の充実を進めている。

1 収蔵資料

(1) 資料収集方針と収蔵資料数

茨城県の自然に関する地域資料の充実を図ること、展示および教育普及活動の充実につながる資料を収集することを目的として、資料収集を進めている。収集方法別にみると、購入・製作237点、採集2,100点、寄贈9,993点であった。分野別にみると、動物分野10,366点、植物分野1,775点、地学分野189点であった（画像、書籍などの二次資料は除く。）。令和5年度は、12,330点の国内外産の自然誌資料を収蔵し、当館の収蔵資料総数は445,296点になった。

収蔵資料数（令和6年3月末現在）

年度		令和4年度まで	令和5年度	合 計
事項	分野			
購入・製作資料	動物	26,599	176	26,775
	植物	8,275	35	8,310
	地学	8,651	26	8,677
採集資料	動物	57,396	265	57,661
	植物	89,519	1,740	91,259
	地学	15,016	95	15,111
寄贈資料	動物	127,282	9,925	137,207
	植物	77,907	0	77,907
	地学	22,313	68	22,381
その他	動物	8	0	8
合 計		432,966	12,330	445,296

ひとまとまり（ロット）の資料は、1ロットを1点として集計している。

(2) 購入・製作資料

動物資料176点、植物資料35点、地学資料26点、合計237点の資料を購入・製作した。

分野	項目	種類	点数	資 料 名
動物	哺乳類	剥製	14	キリン頭部 (1)、ケープタテガミヤマアラシ (1)、ミユビナマケモノ (1)、サーバル (1)、コツメカワウソ (1)、ナキウサギ (1)、タヌキ脱糞姿勢 (1)、テン脱糞姿勢 (1)、アマミノクロウサギ (1)、アライグマ (1)、ハリネズミの一種 (1)、キンカジュウ親子 (1)、シマリス (1)、フェネック (1)
		仮剥製	7	カナダカワウソ (1)、アライグマ (2)、ハクビシン (2)、タヌキ (2)
		骨格	4	サーバル全身 (1)、ケープハイラックス頭骨 (1)、アメリカアナグマ頭骨 (1)、カナダカワウソ頭骨 (1)
		含浸標本	4	ツキノワグマ消化管 (1)、カモシカ消化管 (1)、アライグマ消化管 (1)、テン消化管 (1)
	鳥類	剥製	9	ノスリ (1)、ヒヨドリ (1)、クロガモ (1)、ダチョウ雛 (1)、エミュー雛 (1)、シロハラクイナ (1)、ルリビタキ (1)、カンムリサンジャク (1)、コバルトツリーモニター (1)
		骨格	1	ダチョウ頭骨 (1)
		含浸標本	4	ダチョウ消化管 (1)、キジ消化管 (1)、キジバト消化管 (1)、シロハラ消化管 (1)
		模型	5	ライチョウ盲腸糞 (3)、ノスリ糞 (1)、ヒレンジャク糞 (1)
	両生・爬虫類	含浸標本	2	ヤマカガシ解剖 (1)、ミシシippアカミミガメ解剖 (1)

分野	項目	種類	点数	資料名
動物	魚類	剥製	5	ナンヨウブダイ (1)、ショウワギス (1)、ウロコギス (1)、ミノカサゴ (1)、トラザメ (1)
		骨格	1	ナンヨウブダイの顎骨 (1)
		含浸標本	4	アカエイ解剖 (1)、ハナダイ解剖 (1)、サンマ解剖 (1)、ドジョウ解剖 (1)
		その他	2	シーラカンス超細密画 (全身図 (1)、解剖図 (1))
	昆虫類	拡大模型	2	オオセンチコガネ (1)、ムシクソハムシ (1)
	そのほかの無脊椎動物	拡大模型	3	ミジンコ200倍模型 (1)、オカモノアラガイ (正常タイプ) 7倍模型 (1)、オカモノアラガイ (ロイコクロリディウム寄生タイプ) 7倍模型 (1)
		模型	109	ナマコの糞ジオラマ (1)、陸貝類 (アフリカマイマイ科、ナンバンマイマイ科、オナジマイマイ科) 軟体部模型 (106)、陸貝類化石種殻・軟体部模型 (2)
植物	維管束植物	アクリル封入標本	14	オキナワウラジロガシ (1)、オキナワジイ (1)、ハナガガシ (1)、アマミアラカシ (1)、オオツクバネガシ (1)、アラカシ (1)、ヒメクラマゴケ (1)、タカワラビ新芽 (1)、クロヘゴ新芽 (1)、ホソバコケシノブ (1)、キヨシミコケシノブ (1)、ナチシダ (葉の一部、蛾のすみか付) (1)、ヘゴ新芽 (1)、ホソバリユウビンタイ新芽 (1)
		模型	9	アキグミ果実 (1)、ウワミズザクラ果実 (1)、イチヨウ果実 (1)、オキナワウラジロガシレプリカ (1)、カシワレプリカ (1)、ベニシダレプリカ (2)、クジャクシダレプリカ (2)
	非維管束植物	アクリル封入標本	10	地衣類 (トゲウメノキゴケ (1)、オリーブゴケ (1)、センニンゴケ (1)、チデレカブトゴケモドキ (1)、コナアオキノリ (1)、イオウゴケ (1)、ナガサルオガセ (1)、カラクサゴケ (1)、ナメラカラクサゴケ (1)、チデレテリハゴケ (1))
		模型	2	地衣類 (ウメノキゴケ (1)、コウロコダイダイゴケ (1))
地学	岩石・鉱物	実物	1	ストロマトライト石灰岩 (1)
	化石	実物	16	サメ類 (クレタラムナ属) の歯 (9)、ジュラ紀の植物 (5)、古第三紀の琥珀中の地衣類? (2)
		複製	9	ティラノサウルスの皮膚 (1)、トリケラトプスの皮膚 (1)、シノキアモドゥス化石 (1)、コエロフィシス (1)、ガストルニス (1)、ディデルフォドン (1)、イクチオルニス (1)、ポストスクス頭骨 (1)、ナイルスッポン (1)

(3) 加工

平成30年にのとじま臨海公園水族館より譲り受けたダイオウイカの冷凍個体 (ホルマリン処理済み) 1点を高級アルコール含浸標本に加工した。

(4) 採集資料

動物資料265点、植物資料1,740点、地学資料95点、合計2,100点の資料を採集した。

分野	項目	点数	資料名
動物	哺乳類	77	ツキノワグマ駆除個体 (5)、アライグマ駆除個体 (61)、タヌキ・ハクビシンなど交通事故死個体 (11)
	鳥類	28	バードストライク個体など (28)
	両生・爬虫類	9	ヘビ類 (1)、カミツキガメ (2)、ミシシippアカミミガメ (6)
	魚類	47	淡水魚類 (47)
	昆虫類	42	カミキリムシ類 (42)
	そのほかの無脊椎動物	62	陸・淡水産貝類 (51)、海産無脊椎動物 (11)
植物	維管束植物	1,100	種子植物 (1,000)、シダ類 (100)
	非維管束植物	640	蘚苔類 (273)、菌類 (230)、地衣類 (137)
地学	岩石・鉱物	53	筑波山塊の花崗岩 (4)、日立の金山石灰岩 (44)、県内産鉱物 (2)、インド産粗面安山岩 (2)、ルチル (1)
	化石	42	那珂湊層群産コダイアマモ (<i>Archaeozostera</i>) 化石 (1)、宮古層群産化石 (16)、白亜紀のコケ化石 (2)、那珂湊層群産アンモナイト類・サメ類・貝類 (23)

(5) 寄贈資料

令和5年度は、一次資料14件9,993点（動物資料6件9,925点、地学資料8件68点）、二次資料1件（動物資料1件2,062点）の寄贈を受け入れた。

	分野	寄 贈 者	資 料 名
一次資料	動物	アクアワールド茨城県大洗水族館	ワタボウシクラゲ（5%ホルマリン液浸標本）(1)
		内田 大貴	チョウセンブナ (4)
		山崎 和哉	アリアケモドキ (70%エタノール液浸標本)(6) ヤマトオサガニ (70%エタノール液浸標本)(1)
		清水 実嗣	チョウ類など昆虫標本 (日本産チョウ類標本箱93箱、日本産コウチュウ類標本箱1箱)(9,614)
		内田 大貴	カワヨシノボリ (4)
		川名美佐男	日本産淡水貝類コレクション（295ロット）
	地学	畠山 繁吉	ウニ化石（日立市産）(1)
		金子 稔	有孔虫化石プレパラート（阿見町島津産）群集標本664個体 (1) 有孔虫化石プレパラート（阿見町島津産）37種 (37)
		田切美智雄	鯨類の頭骨化石（日立市産）(1)
		金子 稔	クモヒトデ側腕板プレパラート標本（阿見町島津産）(3) クモヒトデ側腕板プレパラート標本（横浜市泉区境川遊水地公園）(4)、貝形虫化石プレパラート標本（阿見町島津産）(1)
		金子 稔	ウミシダ化石プレパラート（阿見町島津産）(6)
		佐藤 祐子（佐藤 喜男）	ウタツギョリュウレプリカ (1)、クダノハマギョリュウレプリカ (1)、ステノプテリギウスレプリカ (1)、ミクソサウルスレプリカ (1)、タイサウルスレプリカ (1)、サウリクティスレプリカ (1)、ニッポニテスレプリカ (1)、三葉虫化石 (1)、プラコダスレプリカ (1)、サッココマ化石 (1)
		角田 昭二	エゾキンチャクガイ化石（日立市産）(1)
		佐藤 祐子（佐藤 喜男）	ナウマンゾウの歯化石レプリカ (1)、魚類化石 (1)、爬虫類化石レプリカ (1)
二次資料	動物	今井初太郎	昆虫類を中心とした画像データ (2,061)、画像データ目録 (1)

(6) 寄託資料

ナウマンゾウの臼歯および切歯が行方市から寄託され、ディスカバリープレイスで展示している。

寄託者	寄託期間	資料
行方市教育委員会	H7. 4. 1～R7. 3.31	ナウマンゾウ臼歯（2点）、切歯（1点）

(7) 譲渡資料

動物資料2点が他機関から譲渡された。

譲渡者	資料名
環境省奄美野生生物保護センター	アマミノクロウサギ死亡個体 (1) ※令和5年度剥製製作
アクアワールド茨城県大洗水族館	トラザメ死亡個体 (1) ※令和5年度剥製製作

(8) 長期借用資料

貴重な資料を一定の期間ごとに契約更新をしながら、長期にわたって継続的に資料を借用し、常設展示で公開している。

借用元	借用期間	資料名
ロサンゼルス自然史博物館	H11. 9.29～R6.10.30	サーベルタイガー実物化石標本 (1)
東京税関	H14.12. 1～R7. 3.31	シーラカンス剥製標本 (1)

(9) データベース登録

① 収蔵資料データベース

当館では、クラウド型データベースシステムを活用した収蔵管理システムを運用し、収蔵資料データの管理を行っている。登録されたデータは、当館ホームページ上から誰でも検索することができるようになっている。収蔵されている資料は、各分野とも未整理のものが多く、収蔵資料の一部がデータベースに登録されていない状況となっている。収蔵資料の有効な活用を進めるためにも、全資料のデータベース登録に向けて作業を進めていく必要がある。

令和5年度のデータベース入力状況（資料数（総計）に対するデータベース登録数（総計）の割合

分野	資料数（総計）	データベース登録数（R5）	データベース登録数（総計）	割合（％）
動物	221,651	9,969	90,511	40.8
植物	177,476	7,496	182,910	103.1※
地学	46,169	371	44,372	96.1
合計	445,296	17,836	317,793	71.4

※植物分野では、寄贈手続進行中の標本の整理およびデータベース登録を先行して進めているため、一時的に登録数が資料数を上回っている。

② S-net/GBIF への標本情報の提供

当館では、平成18年度より国立科学博物館の「自然史系博物館のネットワークを活用した生物多様性情報の提供」事業への協力を行っている。この事業は、自然史標本に関する情報を国立科学博物館に提供し、集約した情報をウェブサイト「サイエンスミュージアムネット（S-net）」で横断的に検索することを可能とするものである。情報は、全世界の生物多様性に関する情報の横断的検索を可能とする「地球規模生物多様性情報機構（GBIF）」のデータベースにも提供され、提供した当館の資料も国外から検索することが可能になっている。

S-net/GBIF への標本情報の提供件数

年 度	動 物	植 物	地 学	計
令和4年度まで	70,120	143,205	1,941	215,266
令和5年度	2,632	2,919	0	5,551
計	72,752	146,124	1,941	220,817

2 図書・視聴覚資料

当館では、研究のための学術図書や文献の収集のほかに、来館者のための自然科学・博物館学関係の図書や雑誌の収集を行ってきた。来館者は収蔵している図書の一部を図書室の開架で自由に閲覧できる。また、友の会会員には週3日（水、土、日）の貸出日を設けている。併せて自然科学・環境関係の映像ソフトを整備し、図書室に併設されたビデオコーナーで自由に視聴することができるようになっている。

(1) 図書数

項 目		令和4年度まで	令和5年度	計
和書	一般書・専門書	17,967	101	18,068
	児童書	4,709	2	4,711
	紙芝居	136	0	136
洋書		1,087	0	1,087
合計		23,899	103	24,002

(2) 雑誌タイトル数

項 目	タイトル数
和 雑 誌	8

(3) 視聴覚ソフトタイトル数

分 野	タイトル数
動 物 関 係	364
植 物 関 係	118
地 学 関 係	295
自然一般・環境関係	248
合 計	1,025

※ビデオコーナーにて608タイトルを公開中。

3 資料の利用

(1) 資料の貸出

① 展示目的（動物11件130点、植物5件72点、地学6件91点、合計22件293点）

分野	施設・機関	貸出期間	主な貸出標本	使用目的	担当
動物	茨城県植物園熱帯植物館	R5. 4.19 ~ R5. 5. 9	世界の昆虫 (33)、 展示用棚 (4)	茨城県植物園展示	久松正樹
	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R5. 5.30 ~ R5. 7. 7	アオウオ剥製 (1) ハクレン剥製 (1)	特別展示 「霞ヶ浦に棲む大魚たち」	漆原英明 後藤優介
	国立科学博物館	R5. 6.13 ~ R5.10.30	イトマキエイ剥製など (13)	特別展「海」	漆原英明 北澤佑子
	名古屋市科学館 ※	R5. 6.27 ~ R5. 9.20	マヌルネコ剥製など (4)	特別展「ネコ」～にゃんと！ クールなハンターたち～	後藤優介
	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R5. 7. 6 ~ R5.9.24	霞ヶ浦の昆虫など (15)、 トンボのジオラマなど (2)	特別展示 「あつまれ霞ヶ浦の昆虫展」	久松正樹
	小山市立博物館	R5. 7.14 ~ R5. 9. 1	昆虫拡大模型 (3)、オオスズ メバチ巣 (1)、その他 (6)	特別展「昆虫の世界」	久松正樹
	千葉大学園芸学部	R5. 8.20 ~ R5. 8.26	哺乳類剥製標本など (15)	博物館資料論	後藤優介 ほか
	土浦市	R5. 9.20 ~ R5.10.20	アライグマ剥製 (1)	土浦市環境展	後藤優介 久松正樹
	国立科学博物館	R5.10.17 ~ R6. 3.20	ヨシキリザメ剥製など (15)	特別展示「和食展」	漆原英明 池澤広美
	名古屋市科学館	R6. 3. 6 ~ R6. 6.16	イトマキエイ剥製など (13)	特別展示「海展」	漆原英明
	国立科学博物館	R6. 3.12 ~ R6. 6.16	カノコイセエビ剥製など (3)	企画展 「知られざる海生無脊椎動物の 世界」	池澤広美
植物	栃木県立博物館	R5. 7. 5 ~ R5.10.13	ツリガネニンジンレプリカ など (23)	企画展「花と虫」	伊藤彩乃
	千葉大学園芸学部	R5. 8.20 ~ R5. 8.26	種子植物さく葉標本など (17)	博物館資料論	伊藤彩乃 ほか
	岐阜県博物館	R5. 8.29 ~ R5.12. 8	ブナの果実拡大模型など (19)、イヌブナの映像資料な ど (3)	特別展 「出かけよう！ 0→3,000mの旅 植物が彩る物語」	福田 孝
	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R5. 9.28 ~ R6. 1.31	タコノアシなど植物画 (5)	特別展示 「植物画（ボタニカルアート） でみる霞ヶ浦の絶滅危惧植物」	伊藤彩乃
	茨城県立下館第一 高等学校	R6. 1.21 ~ R6. 3.15	三宅島の溶岩上の植生遷移 と植生模型 (5)	高等学校の授業	伊藤彩乃
地学	国立科学博物館	R5. 6.13 ~ R5.10.30	ドレパナスピス化石など (3)	特別展「海」	加藤太一
	島根県立三瓶自然館	R5. 6.15 ~ R5.10.15	透輝石スカルン鉱物標本な ど (19)	夏期企画展「ときめく鉱物展」	小池 渉
	名古屋市科学館 ※	R5. 6.27 ~ R5. 9.20	スミロドン全身骨格など (6)	特別展「ネコ」～にゃんと！ クールなハンターたち～	加藤太一
	神栖市歴史民俗資料館	R5. 7. 1 ~ R5. 9.30	ノドサウルスレプリカなど (50)	企画展「夏休み恐竜大集合」	加藤太一
	千葉大学園芸学部	R5. 8.20 ~ R 5. 8.26	化石標本など (10)	博物館資料論	加藤太一
	名古屋市科学館	R6. 3. 6 ~ R6. 6.16	ドレパナスピス化石など (3)	特別展示「海展」	加藤太一

※北九州市立自然史・歴史博物館特別展「世界の野生ネコ科展」（会期：R5.3.4～R5.5.7）から続く巡回展として貸出。

② 研究目的（動物1件43点、植物1件15点、地学2件52点、合計4件110点）

分野	施設・機関	貸出期間	主な貸出標本	使用目的	担当
動物	北海道大学大学院 地球環境科学研究所 市原農太郎	標本データ を送付	窓に衝突して死亡した鳥類 標本データ (43)	人工物への鳥類の衝突の実態 調査	佐野拓哉
植物	鳥取大学乾燥地研究 センター 石井直浩	各標本から の植物片を 採取し送付	コウボウムギ (15)	海浜植生の優占種であるコウ ボウムギの遺伝解析	伊藤彩乃 飯田勝明

地学	国立科学博物館 三上智之	R5. 3.27 ~ R5. 5.31	トリケラトプス左上顎骨 (1)	CT スキャン撮影に基づく内部 構造の観察および血管系の 3D デジタル再構築	加藤太一
	秀明大学 村上瑞季	R6. 1.10 ~ R6. 7. 9	クジラ類化石 (51)	多賀層群産のクジラ類化石の 分類	加藤太一

(2) 資料の閲覧（特別観覧）（合計8件8名）

分野	閲覧者	閲覧日	主な閲覧標本	閲覧目的	担当
動物	株式会社小学館 甲斐拓也	R5. 7.12	タヌキ剥製、タヌキのため 糞、クロシロエリマキキツ ネザル剥製、クロシロエリ マキキツネザルの糞、タビ ビトノキの果実、ナミアゲ ハ、ナミアゲハ幼虫、タマ オシコガネ模型、ミミズの 糞土	『小学一年生』10月号記事作成 のための撮影	後藤優介
	新江ノ島水族館 展示飼育部展示飼育 チーム 加登岡大希	R5. 9. 7	オロシザメ標本	相模湾産のオロシザメの標本 の計測	漆原英明 北澤佑子
	福島大学共生システ ム理工学類 塘 忠顕	R5.11. 2	福島県産水生昆虫	福島県産水生昆虫の確認と再 同定（福島県レッドデータブック 改定のための調査）	久松正樹
	外山太一郎	R6. 3.23	アカグツ標本	調査で得たアカグツ科魚類の 固定	北澤佑子
植物	東京大学大学院農学 生命科学研究科・農 学部特定支援員 林 智絵	R6. 1.11	<i>Auriscalpium</i> 、 <i>Phellodon</i> 属な ど菌類標本	形態的特徴と系統解析および 基質に基づく再同定	福田 孝
	東京農業大学 支倉千賀子	R6. 1.20 ~ R6. 3.31	タケ亜科植物さく葉標本	茨城県産タケ亜科植物の分類 と分布の研究	伊藤彩乃
地学	高知大学自然科学系 理工学部門 教授 近藤康生	R5. 5.20	イタヤガイ科の化石	博士論文（学位申請論文の参 考論文となる論文も含む）の データとしての利用	加藤太一
	筑波大学生命環境学群 地球学類地球進化主 専攻4年 下田真緒	R5. 7. 3 R5. 7. 4	ナウマンゾウ、マンモスな ど長鼻類化石	卒業研究に使用するデータを 計測	加藤太一

(3) 学術論文などに掲載された資料

分野	資料名	掲載された学術論文など
動物	ホンドギツネほか哺乳類の仮剥製4点	Sato, K., Y. Goto, S. Koike. 2023. Seed attachment by epizoochory depends on animal fur, body height, and plant phenology. <i>Acta Oecologica</i> , 119.
	那珂川干潮域で採取された魚類66種の 液浸標本	金子誠也・山崎和哉・外山太一郎・中島政明・加納光樹. 2023. 茨城県那珂川干潮域 の魚類相. 茨城県自然博物館研究報告, (26): 123-136.
	オロシザメの剥製 (INM-1-62) およ び液浸標本 (INM-1-42848)	加登岡大希・瀬能 宏. 2024. 稀種オロシザメ (ツノザメ目: オロシザメ科) の相模 湾からの記録、および太平洋北西部における分布と生息状況. 神奈川県自然誌資料 (45): 15-22.
	アカボシゴマダラ標本の採集地情報	諸岡歩希・海老澤武尊・中村千帆・佐々木泰弘. 2023. 茨城県におけるアカボシゴマ ダラ <i>Hestina assimilis</i> (チョウ目, タテハチョウ科) の分布拡大に関する考察. 茨城県 自然博物館研究報告, (26): 53-62.
	ヤマトアシナガバチ標本の採集地情報	諸岡歩希・久松正樹・小島純一. 2023. 茨城県におけるヤマトアシナガバチの分布. すかれおい, (4): 60-65.
	ウシエビ液浸標本 (INM-1-113337 ~ 113356)	中山聖子・木村将士・金子誠也・山崎和哉・外山太一郎・池澤広美・加納光樹. 2024. 茨城県の河口汽水域におけるウシエビの北限記録. 水生動物, 2024: AA2024-2.
	鶏盲腸吸虫 (ニワトリモウチョウキュ ウチュウ) スライド標本 (INM-1-97099 ~ 97101)	Furusawa, H., H. Ikezawa, S. G. Tsujimoto, M. Ichikawa-Seki and T. Waki. 2023. Introducing the land snail <i>Bradybaena pellucida</i> increased infection risk of the avian parasite <i>Postharmostomum commutatum</i> in the Kanto region of Japan. <i>Parasitology Research</i> . 122: 2207-2216.
植物	ナガオバネ	白井健司. 2023. 茨城県におけるナガオバネ (<i>Schimmelmannia benzaiteniana</i>) の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (26): 35-40.
	大型菌類	北沢弘美・牧野純子・真藤憲政・今村 敬・稲葉義智・糟谷大河・鶴沢美穂子. 2023. ミュージアムパーク茨城県自然博物館構内における大型菌類リスト・補遺. 茨城県 自然博物館研究報告, (26): 63-86.
	維管束植物さく葉標本	栗原 孝・小幡和男・飯田勝明. 2023. 茨城県那珂川およびその周辺の維管束植物相. 茨城県自然博物館研究報告, (26): 87-122.

地学	ステゴフィウラ・タカイソエンシス <i>Stegophiura takaisoensis</i> sp. nov. ※パラタイプに指定 (INM-4-17936)	Ishida, Y., M. Tagiri, T. Kato, S. Tsunoda, Y. Nakajima, B. Thuy, L. D. Numberger-Thuy and T. Fujita. 2023. The New Brittle-Star Species <i>Stegophiura takaisoensis</i> (Echinodermata, Ophiuroidea) from the Pliocene of Ibaraki Prefecture, Central Japan. <i>Paleontological Research</i> , 28 (1): 82–96.
	トリケラトプス 頭骨 <i>Triceratops prorsus</i> (INM-4-14453)	Tada, S. 2024. Evolutionary morphology of the rostrum in Diapsida (Amniota: Sauropsida) with an emphasis on the nasal cavity. A dissertation of the degree of doctor of philosophy. The University of Tokyo.
	ステゴロフォドン 頭骨 <i>Stegolophodon pseudolatidens</i> (INM-4-13853) モササウルス類 尾椎 Mosasaurini cf. <i>Plotosaurus</i> sp. (INM-4-17907)	加藤太一. 2024. コレクション ジュニア学芸員が見つけた化石標本. 博物館研究, 59 (3): 33.
	ナガスクジラ科 環椎 Balaenopteridae gen. et sp. indet. (INM-4-19382)	吉川広輔・加藤太一・村上瑞季・田切美智雄. 2023. 鮮新統日立層群“初崎層”から産出した海生哺乳類（ナガスクジラ科，ハクジラ類およびアシカ科）の化石．茨城県自然博物館研究報告, (26): 21–34.

(4) 資料の寄託（計1件）

現在、他施設などに寄託している資料は以下のとおりである。

施設・機関	寄託期間	資料名
茨城県霞ケ浦環境科学センター	H17. 7.15 ～ R6. 3.31	魚類標本 (22)、鳥類標本 (11)

※令和5年度をもって茨城県霞ケ浦環境科学センターへの寄託を終了した。

(5) 図書貸出

来館者は収蔵している図書の一部を図書室の開架で自由に閲覧できる。また、友の会会員には週3日（水、土、日）の貸出日を設けている。

令和5年度では83件の図書の貸出があり、これまでの合計は8,135件である。令和元年度末から令和3年度の前半にかけて図書の貸出が多く見られた。新型コロナウイルス感染症の拡大で生活様式の変化が影響してきたものと推測できる。一方、令和3年度夏季以降は図書の貸出数が減少した。これは児童用が全体的に古くなってきたことと、児童用新刊図書の導入が不足していることが影響してきていると考えられる。

① 貸出図書数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和元年度	9	6	22	20	13	9	8	7	2	0	13	28	137
令和2年度	12	29	5	32	20	25	20	15	23	10	11	21	223
令和3年度	34	46	6	28	10	0	21	5	7	10	0	0	162
令和4年度	13	6	5	14	13	13	10	0	4	7	14	10	109
令和5年度	13	0	12	7	4	3	10	16	8	9	0	2	84

② 貸出図書の分野別集計

分野	一般・専門書（冊）		児童書（冊）		合計（冊）	
	～令和4年度	令和5年度	～令和4年度	令和5年度	～令和4年度	令和5年度
自然科学	103	2	323	0	426	4
物理学	61	0	10	0	71	0
化学	12	0	7	0	19	0
天文学・宇宙科学	114	0	170	0	284	0
地球科学・地学・地質学	483	18	881	1	1,364	6
生物科学・一般生物学	160	3	72	0	232	13
植物学	399	1	124	0	523	8
動物学	778	19	928	1	1,706	20
医学・薬学	182	1	58	1	240	0
技術・工学・工業	188	1	137	1	325	3
農林水産業・園芸	349	1	123	0	472	1
社会科学	17	5	13	2	30	10
文学・芸術	91	10	81	0	172	6
百科事典・歴史・そのほか	329	4	608	0	937	1
絵本	1	0	449	7	450	5
紙芝居	2	0	760	5	762	7
合計	3,269	65	4,744	18	8,013	84

(6) 画像映像資料の提供（合計13件28点）

分野	施設・機関	許可日	提供画像	使用目的
動物	一般財団法人地球の石科学財団奇石博物館	R5. 7.17	ダチョウの胃石写真 (1)	ふれる博物館企画展「ジュラシック・パーム」での展示
	大町山岳博物館	R5.10.31	ヌートリアの剥製の画像 (1)	企画展「大町と絶滅動物」の解説パネルおよび展示解説書
	国立科学博物館	R6. 1.17	カツオノエボシ動画 (1)	企画展「知られざる海生無脊椎動物の世界」
植物	島井弘男	R5. 5. 7	ムジナモ標本 (2)	「Journal of Threatened Taxa」での掲載
地学	株式会社フラッグ	R5. 4. 4	那珂湊層群写真 (1)、アンモナイト化石写真 (1)	WebAR コンテンツ「日本財団 海と鉄道プロジェクト」掲載
	株式会社石文社	R5. 9.14	紫水晶など (5)	雑誌「月刊石材」掲載
	株式会社石文社	R5.10.14	メノウなど (6)	雑誌「月刊石材」掲載
	江戸川大学 鈴木言実	R5.11.16	第2展示室「恐竜たちの生活」が羽毛恐竜の展示になる以前の写真 (1)	大学のゼミ活動における雑誌制作の研究
	株式会社岩波書店	R6. 1.23	カルノタウルス全身骨格 (1)	真鍋真著「きみも恐竜博士だ！真鍋先生の恐竜教室」掲載
館全体	株式会社工作舎	R5. 5.19	松花江マンモス写真 (1)	書籍「ソバとシジミチョウ」掲載
	宇都宮ステーション開発会社	R5.10.22	松花江マンモス写真など (2)	VAL 古河リーフレット掲載
	株式会社交通新聞社	R5.10.28	恐竜ジオラマ写真 (1)	雑誌「JR 時刻表」掲載
	株式会社小学館	R6. 2. 9	松花江マンモス写真など (4)	漫画「茨城ごじゃっぺカルテット」聖地巡礼企画チラシ掲載

4 標本目録の出版

図 書 名	規 格	部 数
茨城県自然博物館収蔵品目録 動物標本目録 第4集 昆虫：青木コレクション	A4 207pp.	20部

5 情報管理システムの運用

当館では、情報の管理・共有化・電子化により博物館業務の効率化を図るとともに、自然科学に関する情報発信の基地としての役割を果たすために情報管理システムを常時運用している。

(1) ホームページの利用状況

令和5年度のホームページのアクセス件数は、1,038,857件であった。ホームページ開設（平成9年10月1日）以来、9,596,826件に達した。1日平均は、2,846.2件だった。ホームページ開設から平成27年8月までは独自システムで、平成27年8月以降は Google アナリティクスによるアクセス件数の集計を行っている。閲覧が多いのは、トップページ（28.4%）、事前予約（7.9%）、利用案内（5.5%）などである。また、アクセス件数の83.0%が携帯端末からのアクセスである。スマートフォンやタブレットからも見やすいレイアウトに変更するなどし、令和3年2月1日にホームページをリニューアルした。携帯端末からのアクセスが多い現状を意識し、今後も分かりやすい情報発信を行っていく。

ホームページアクセス件数の推移

	平成9年度（10月～）	平成10年度	平成11年度	平成12年度
アクセス件数	7,139	20,573	26,652	47,320
日平均数	39.2	56.4	72.8	129.6
	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
アクセス件数	56,642	96,752	104,900	132,180
日平均数	155.2	265.1	287.4	362.1

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
アクセス件数	172,107	211,976	254,511	240,748
日平均数	471.5	580.8	695.4	659.6
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
アクセス件数	253,506	252,866	269,693	285,789
日平均数	694.5	692.8	738.9	780.8
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
アクセス件数	353,904	361,875	423,439	473,065
日平均数	969.6	991.4	1,143.2	1,296.1
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
アクセス件数	588,403	635,414	678,131	524,862
日平均数	1,612.1	1,740.8	1,857.8	1,437.9
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
アクセス件数	930,193	1,155,329	1,038,857	
日平均数	2,548.4	3,165.2	2,846.2	

(2) 収蔵資料管理システム

当館が所蔵する動物・植物・地学資料に関する情報をデータベース化し、各種業務において活用している。平成27年度にクラウドサービス型の収蔵管理システムを導入した。また、収蔵資料情報の一部をホームページにおいて公開している。これにより、外部から当館の収蔵資料情報を検索して活用することが可能となっている。

(3) 図書管理システム

図書室・研究室に所蔵されている図書の情報をデータベースで管理するとともに、自然博物館友の会会員を対象とした開架図書の貸出業務に活用している。

(4) 団体予約システム

当館の利用を希望する団体やイベントへの参加を希望する個人が、効率よく予約申込ができるようなシステムを導入している。令和5年度から導入した団体利用やイベント予約者へのリマインドメールの自動送信に加え、団体予約の際に、セミナーハウスの利用の予約ができるようなシステムを導入した。

(5) Wi-Fi 利用状況

平成30年3月1日より、博物館内において公衆無線 LAN サービスの利用を開始した。令和5年度の月毎の平均接続者数は810人/月、平均接続率は25%で、昨年度と同程度の値となった。また、データ使用量は4,406GBとなっており、こちらも過去最高値である。接続したSSIDのデータ使用量では、【IBARAKI-FREE-WiFi】が最も多く、2,610GB（全体の約59%）となっている。次に【Ibaraki_Nature_Museum】が1,270GB（約29%）、【Ibaraki_Nature_Museum_FB】が365GB（約8%）、【INM_Japan_Connected-Free_Wi-Fi】が161GB（約4%）である。当館独自のSSID（【Ibaraki_Nature_Museum】と【Ibaraki_Nature_Museum_FB】）の合計データ使用量は昨年比約1.2倍に増えている。なお、令和5年6月より、Facebookの運営会社であるMeta Platforms, Inc.（旧称：Facebook, Inc.）側が認証サービスを停止したことにより、【Ibaraki_Nature_Museum_FB】はFacebook認証ができなくなっているが、利用状況については伸びている。

6 資料の保守・管理

収蔵資料および展示資料を良好な状態に維持することを目的として、燻蒸と環境調査を行っている。燻蒸の方法については、館内にある燻蒸室で職員が行う燻蒸と、収蔵庫および展示室に対して専門業者が施工する特別燻蒸がある。なお、特別燻蒸の際には、館を臨時に休館して行っている。購入、採集、寄贈・寄託などで受け入れた資料や貸出標本などの標本については、収蔵庫や展示室に納める前に燻蒸室で燻蒸を行っている。令和5年度の特別燻蒸は、これまでの環境調査の結果をもとに燻蒸実施場所を選定し、燻蒸業者が次の要領で行った。

(1) 特別燻蒸

① 期間

第1次施工期間として、令和5年6月17日（土）～6月23日（金）の7日間（20日～23日を臨時休館とした）にわたり実施した。

第2次施工期間として、令和5年7月30日（日）～7月31日（月）にかけて実施した。

② 内容

第1次施工期間は、動物収蔵庫・植物収蔵庫の2つの収蔵庫をエキヒューム S（酸化エチレン+1,1,1,2-テトラフルオロエタン）を用いて行った。また、第2、第3展示室をミラクン GX（ピレストロイド系の d・d- T -シフェノトリン）を用いて行った。

第2次施工期間は、第2、第3展示室をミラクン GX を用いて行った。第2、第3展示室のジオラマにおいて、文化財害虫の発生を抑制するために実施したものである。

(2) 環境調査

① 期間および回数

令和5年6月から11月までの間、1か月単位で区切り、計5回の調査を実施した。

② 内容

収蔵庫（動物収蔵庫、植物収蔵庫、地学収蔵庫、液浸収蔵庫）および常設展示室（全6室）、企画展示室、研究室（全3室）、荷解室、館内出入口などの全域で生息昆虫調査を行い、調査結果をもとに薬剤散布による昆虫などの防除と館内職員への注意喚起を行った。

(3) 資料保管庫の整備

総合調査や寄贈などで収集した昆虫標本を収蔵して管理・保管するため、昆虫標本箱保管棚（ドイツ箱 40収納）を3台製作し、動物収蔵庫に設置した。

(4) 野外管理棟における収蔵倉庫の整備

収蔵庫の狭隘化対策の一環として、既存の建物を活用した資料保管環境の整備を進めた。発見工房裏の野外管理棟の室内に、調湿機能のある壁材を用いた気密性の高い部屋を作成し、エアコン・除湿器を稼働させることで高温・多湿を避けた資料の保管場所とする。令和5年度は、壁、床、天井、機器類の整備を行った。令和6年度、ドアの設置を行い、運用を開始する予定である。

1 学術調査研究の概要

学術調査研究は、その研究対象から科学的領域調査研究と博物館学的調査研究に分けられる。また、その研究のねらいや手法により、総合調査、重点研究、創造的調査研究の3つに分けることができる。これらの研究には、学芸系職員を中心に、外部の研究者も加わって取り組んでいる。

学術調査研究

科学的領域調査研究

博物館資料の充実を図り、活力ある博物館活動を展開するための調査研究活動。

博物館学的調査研究

教育普及活動、資料活用、博物館運営などの方法論や実践論の調査研究活動。

創造的調査研究

博物館職員の資質の向上と博物館活動の発展、さらに自然科学の向上発展に寄与することを目的として、職員各自の専門性や業務内容に関連したテーマに基づき行う調査研究活動。

重点研究

茨城県の自然史や当館の博物館活動に関する重要な課題や今日的な課題をテーマとし、グループで行う調査研究活動。

総合調査

茨城県の生物相やその変遷、地質などの地学的特性を把握するため、自然史資料の集積を図り、茨城県内の資料の目録をつくることを目的とする調査活動。

2 総合調査

令和5年度は第Ⅲ期第2次総合調査の3年目にあたる。茨城県全域を対象とし、3つの団体に調査を委託した。調査の内容と成果は以下に示す。

調査内容と主な成果

委託団体および代表 ／当館担当者	分科会および代表	調査区域およびテーマ	令和5年度の進捗状況
茨城動物調査会 代表：山根爽一 (茨城県生物多様性センター長・茨城大学 名誉教授) ／担当：後藤優介	哺乳類 代表：竹内正彦 (農研機構中央農業研究センター 鳥獣害グループ)	○レッドデータブックにおける絶滅危惧種および情報不足種の情報蓄積 ○県内における新規分布種の情報収集	○茨城県北に設置した自動撮影カメラによるモニタリングを継続した。
	鳥類 代表：石井省三 (日本野鳥の会茨城県副会長)	○県南西地域の鳥類調査	○情報不足地点での調査を行った。
	両生・爬虫類 代表：早瀬長利 (元国定公園管理員)	○県北地域の両生・爬虫類のファウナ調査	○県内の両生・爬虫類の分布状況を把握するため、県北地域で調査を行った。
	淡水魚類 代表：加納光樹 (茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション)	○県内で記録された淡水・汽水魚類の目録作成に向けた準備と調査 ○県内の主な河川の河口域における魚類の生息状況の把握	○県北地域の大北川下流・河口域などで魚類相調査を行い、リストを製作した。
	昆虫類 代表：佐々木泰弘 (茨城県生物多様性センター・自然環境調査員、茨城生物の会・理事)	○茨城県内の昆虫類の調査 ○「茨城の昆虫」目録の作成に向けた調査や運営体制の調整	○目録作成のため、県内各地での調査や、文献などの情報を収集、原稿執筆を行った。
	海産動物 代表：森野 浩 (茨城大学名誉教授)	○「茨城の磯の動物ガイド」の製作に向けた準備 ○「茨城の魚類図鑑」(仮称)の製作に向けた準備と調査	○「茨城の磯の動物ガイド」の製作に向けた準備を行うとともに、ひたちなか市岩礁海岸で補足調査を実施し、標本および画像を収集した。 ○「茨城の魚類図鑑」(仮称)の製作に向け、打合せを行うとともに、茨城沖の魚類の調査を実施し、標本および画像を収集した。
	陸・淡水産無脊椎動物 代表：茅根重夫 (元茨城県立岩井西高等学校校長)	○茨城県内の陸・淡水産無脊椎動物のファウナ調査	○坂東市、桜川市、鹿嶋市で陸・淡水産無脊椎動物の調査を実施した。
茨城植物調査会 代表：安 昌美 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長) ／担当：伊藤彩乃	維管束植物 代表：安 昌美 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長)	○鹿行地区(鉾田市、潮来市、神栖市)の維管束植物のフロラ調査	○鹿行地区の維管束植物の標本を採集した。 ○鹿島神宮での調査を許可申請したうえで行った。 ○各調査員が現地でもフロラ調査を行い、標本の採集と同定作業を行った。 ○調査結果を現在まとめている「茨城県植物目録」に反映させる予定である。
	非維管束植物 代表：臼井健司 (茨城県立土浦第一高等学校 教諭)	○県南・県北地域のコケ植物(蘚苔類)、海藻類、地衣類、淡水藻類のフロラ調査	○鹿島神宮での蘚苔類・地衣類の調査を許可申請したうえで行った。 ○花園山、和尚山などでコケ植物を調査し、標本を採集した。 ○笠間市、常陸太田市などで地衣類を調査し、標本を採集した。 ○海藻類については、県北と大洗の海岸を中心に調査を行い、標本を採集した。
	菌類 代表：山岡裕一 (筑波大学生命環境系教授)	○県南・県北地域の植物寄生菌類と大型菌類のフロラ調査	○猿ヶ城溪谷、潮来、茨城県自然博物館などで調査を行い、標本を採集した。 ○鹿島神宮での調査を許可申請したうえで行った。

<p>茨城地学研究会 代表：安藤寿男 (茨城大学理学部名誉教授)</p> <p>／担当：加藤太一</p>	<p>大型化石 代表：安藤寿男 (茨城大学名誉教授)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○カンブリア系日立火山深成複合岩体に挟在する石炭系金山石灰岩の化石産状 ○日立南部地域の中新統多賀層群と鮮新統日立層群の層序 ○日立地域中部折笠町の鮮新統日立層群の海底チャネル堆積物 	<ul style="list-style-type: none"> ○日立市のカンブリア系火山深成複合岩体の赤沢層に挟在する金山石灰岩に含まれる炭酸塩骨格化石の産状について、岩石標本の風化・研磨断面での詳細な観察結果を報告した。 ○日立市南端部の離山地区において、中新統多賀層群と鮮新統日立層群の複雑な層序関係について詳細に検討し、先行研究を大きく更新する成果を詳述した。 ○最近日立北インター東方の取付道路北側の道路新設工事で開削された法面露頭の詳細な現地調査資料を提示し、今度の検討・取りまとめに向けた取組を紹介した。
	<p>微化石 代表：上松佐知子 (筑波大学生命環境系准教授)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○八溝山地のコノドント化石 ○八溝山地の放散虫化石 	<ul style="list-style-type: none"> ○地名と地質図情報から“幻の仕上げ砥”こと赤沢砥石の産地を推測し、赤沢砥石の採取と層序学的検討を行った。 ○鷲子山塊（高取ユニット）の炭酸塩マンガンノジュールについて、追加サンプルを採取し、数百個体の放散虫標本を得ることができた。
	<p>岩石鉱物 代表：田切美智雄 (茨城大学名誉教授、日立市郷土博物館特別専門員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日立市助川町石炭系金山石灰岩の層序・地質構造・放射年代・ウミユリ化石・後背地 ○太子―常陸大宮―茂木地域における中新世アダカイトの研究 ○茨城県産鉱物資料2点 ○日立市産クモヒトデの調査研究 ○日立市鶴首岬産ナガスクジラ、ハクジラ、アシカ化石の研究 ○イルカ頭骨化石の発見 	<ul style="list-style-type: none"> ○金山石灰岩の2試料からジルコンを分離し、LA-ICP-MSを用いてU-Pb放射年代を得た。ウミユリ化石の茎板が多数発見され、それらが、上部デボン紀から上部石炭紀の化石である <i>Cyclonion</i> 属に同定された。 ○太子地域北田気層大沢口凝灰岩部層から見い出されたアダカイトの特徴を整理し、さらに、17-15Maの太子～常陸大宮～茂木地域におけるアダカイトおよびアダカイト様火山岩類の時空分布と広域対比について議論した。 ○県内初記録となる鉱物種2点（笠間市稲田産プロト鉄直閃石と日立市宮田町産カリ十字沸石）を提出した。 ○鮮新統日立層群初崎層から保存の良い3個体のクモヒトデ化石が発見され新種の <i>Stegophiura takaisoensis</i> として記述された。 ○日立市鶴首岬産ナガスクジラ科鯨類の環椎、ハクジラ類の歯、アシカ科鰭脚類の肋骨の記載を行って、自然博物館研究報告に報告した。 ○上下のくちばしは失われているが、頭骨部は保存されており、クリーニングを施すと、詳細な頭部の様子がわかると思われる。ハート型の鼻の穴が特徴的で、ネズミイルカ類と推定される。
	<p>テフラ 代表：大井信三 (元産業技術総合研究所地質調査総合センター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○八郷盆地の中部更新統友部層中のゴマシオ軽石層 ○桜川流域の第四系について 	<ul style="list-style-type: none"> ○八郷盆地に位置する石岡市片岡北部において、第四系中部更新統友部層と思われる砂質シルト層中にゴマシオ状の軽石が見いだされた。 ○筑真橋の河岸の露頭では鈴木ほか(1993)の示すSKテフラ群が、上大島層(鈴木, 1993)の泥炭層中に3枚見いだされた。

3 重点研究

大学や研究機関、博物館、行政などの外部機関と連携した調査研究を、動物、植物、地学の各分野で実施した。**動物分野**では、博物館収集資料を用いた寄生虫調査や、県内ブナ林における哺乳類調査を行った。**植物分野**では、菅生沼などの湿地の植物相調査を行ったほか、特定外来生物オオバナミズキンバイの防除に関する研究や県内におけるブナ・イヌブナの分布調査を継続して行っている。**地学分野**では、筑波山地域の上曽トンネル工事での産出鉱物や那珂湊層群および双葉層群の化石から復元される後期白亜紀における北西太平洋域の生態系、植物化石に基づく裸子植物から被子植物への分化および被子植物の環境適応に関する研究を行った。

調査内容

分野	研究テーマおよび担当	令和5年度の主な成果と課題など
動物	博物館収集資料を用いた寄生虫調査 ／担当：後藤優介	博物館では、多くの哺乳類や鳥類資料を収集し、保管している。標本化する前の死体や、仮剥製や剥製として保管している標本に付着する寄生虫を採取した。
	県内ブナ林における哺乳類調査 ／担当：後藤優介	筑波山のブナ委員会の調査の一環として、筑波山において、哺乳類調査を行う。年間を通して自動撮影カメラを設置することで、筑波山のブナ林に生息する哺乳類を明らかにすることを目的とする。令和5年度はイノシシの侵入防止柵を設置し、柵周辺部におけるイノシシの出現状況の記録を行った。（本研究は植物分野の重点研究「県内ブナ調査」と連携して実施した。
植物	湿地の植生の保全 ／担当：鶴沢美穂子	菅生沼、小貝川、妙岐ノ鼻、逢善寺茅場などの県内に残された湿地の植物相の調査を行うとともに、野焼きによる保全活動を継続して行う。
	特定外来生物オオバナミズキンバイの防除 ／担当：伊藤彩乃	茨城県、国土交通省と協力し、霞ヶ浦における特定外来生物のオオバナミズキンバイの駆除を7月と11月に行った。令和5年度は、オオバナミズキンバイの生育地の土壌を重機で掘り返して取り除く作業を試験的に行った。
	県内ブナ調査 ／担当：伊藤彩乃	筑波山のブナ委員会の調査の一環として、2023年6月～10月の間、県内のブナに関する調査を行った。花瓶山、高笹山、七ツ滝、諏訪山、鍋足山、足尾山、雨巻山、井戸田山、太郎山の林道沿いのブナ・イヌブナの分布調査を行った。また、筑波山のブナの調査木の開花結実調査、虫害調査、実生調査を行った。
地学	筑波山地域の地質と地形－上曽トンネル工事での産出鉱物－ ／担当：小池 渉	筑波山地域に分布する深成岩類および変成岩類について、岩相分布調査を行う。特に異なる岩相の境界域での再検討を行った。令和5年度は掘削工事が終了した上曽トンネル（仮）（真壁側、八郷側）で採集した岩石・鉱物資料について、同定・整理を進め、産出鉱物のリスト作成および岩石・鉱物記載を進めた。
	那珂湊層群および双葉層群の化石から復元される後期白亜紀における北西太平洋域の生態系 ／担当：加藤太一	那珂湊層群については、県立自然公園条例にもとづいて許可を取得し、4月から9月にかけて調査を実施した。双葉層群については、8月に東京大学で開催された第2回アジア古生物学会議（APC2）において口頭発表を行った。
	植物化石に基づく裸子植物から被子植物への分化および被子植物の環境適応に関する研究 ／担当：滝本秀夫	7月に宮古層群の調査を実施し、既存化石の産出層を特定するとともに新たな化石と花粉分析用サンプルを採取した。鉱化化石については、来年度に高輝度光科学研究センターの Spring-8 での CT 撮影ができるよう利用申請を行い、採択された。

4 創造的調査研究

当館の学芸系職員の創造的調査研究の状況は以下の通りである。成果の一部は学会での発表のほか、学会誌や当館の研究報告などの学術雑誌への投稿を通して公表するとともに、広報誌「A・MUSEUM」などを通して、研究内容を広く一般に紹介した。また、学芸系職員の資質向上を図るため、館内で学芸系調査研究活動発表会（年2回）を実施した。

調査内容と主な成果

課名	氏名	分野	創造的研究テーマ	令和5年度の研究内容
企画課	小池 渉	地学	筑波山地域の火成岩類の岩体区分の再検討	筑波山塊の主要部を構成する深成岩類（斑れい岩類および花崗岩類）について、国立科学博物館との共同研究として、ジルコンを用いた放射年代測定を実施して、その形成年代について再検討を行っている。令和5年度は岩相区分の再検討に向けて深成岩類のサンプリングを進めた。
		地学	阿武隈地域西堂平変成岩の原岩年代の再検討	原岩の形成年代が議論されている西堂平変成岩類（常陸太田市）について、含有ジルコンによる U-Pb 年代の追加測定により、堆積年代について再検討を進めている。現在までの測定結果から、ペルム紀～三畳紀以降に原岩が形成され、白亜紀前期に火成活動を受けたことが示唆されており、データの整理を進めている。
		博物館学	「誰もが共に楽しく学べる科学系博物館」の情報デザイン	京都女子大学などとの共同研究（4年計画の2年目）として、聴覚障がい者など誰もがともに楽しむことができる展示装置として、カエル3種の鳴き声を視覚（動画・波形・粒子の振動）・触覚（板の振動）および音声で情報提供できる試作装置を製作した。この装置で12月に茨城県立水戸聾学校の児童・生徒などを対象とした実践調査を行い、意見の聴取とともにその効果に関するデータの収集を行った。
	栗栖宣博	博物館学	新たな教育活動の検討～SDGsの視点から～	常設展示について SDGs の視点から再整理した結果をもとに、SDGs をテーマとした来館者向けのワークシートを作成し、サイエンスデーイベントとして試行した。その際実施したアンケートの結果を分析するとともに、グーグルフォームを活用したワークシートのデジタル化に取り組んだ。
	石塚武彦	動物	茨城県取手市におけるクマゼミの発生状況の調査	茨城県において取手市だけで発生が確認されているクマゼミに関する調査（クマゼミ脱皮殻の定量調査など）を行った。
教育課	国府田誠一	植物	茨城県版レッドデータブック作成に係る調査	県内絶滅危惧植物について、現在の生育状況や当館の収蔵データを基にして、カテゴリーの見直しを行った。
	佐藤一康	博物館学	博物館における個別最適な学び	教職員によるアンケート調査から、博物館における個別最適な学びの在り方について考察した。
	稲葉義智	植物	茨城県内の冬虫夏草の調査	茨城県内の冬虫夏草の発生状況を調査するとともに、本館所蔵の標本や文献などを調査して本県に分布する冬虫夏草のリストを作成した。
		植物	茨城県自然博物館内の大型菌類調査	本館野外のキノコ調査は、ボランティアを中心に毎月観察を行っている。2011年に大型菌類リストとしてまとめたが、その後、新たに100を超える種が記録された。結果を当館研究報告第26号に掲載した。
	佐野拓哉	動物	筑波山登山道周辺におけるソウシチョウの分布調査	筑波山登山道周辺においてソウシチョウの分布状況が季節変動によってどのように変化するのか調査を行った。
	鶴沢美穂子	博物館学	「誰もが共に楽しく学べる科学系博物館」の情報デザイン	当館において、聴覚障がい者を含めた誰もがともに楽しむことができる展示の施行を行い、効果を測定した。
	北澤佑子	動物	菅生沼の魚類に関する調査研究	菅生沼およびその下流域の沿岸帯に生息する魚類に関して、どのような種が生息しているのか定性的な調査・研究を行った。
	滝本秀夫	地学	相馬中村層群柗窪層産ジュラ紀植物化石による植物相と生体復元に関する研究	ベネチテス類 <i>Ptilophyllum</i> の生体復元に関する論文の執筆を行っている。また、フローラとしてのまとめに関する論文も執筆中。
	村田一弘	地学	茨城県から産出する化石の研究	茨城県ひたちなか市那珂湊層群において生痕化石 <i>Achaeozostera</i> の採取および昨年度採取された標本の調査・研究を行った。

課名	氏名	分野	創造的研究テーマ	令和5年度の研究内容
資料課	池澤広美	動物	外来種と希少種を中心とした茨城県内の無脊椎動物に関する調査研究	総合調査と連動し、外来種および希少種を中心とした県内の陸・淡水産無脊椎動物の調査を実施している。特に、水田や地下水に生息する無脊椎動物に関する調査研究を進めている。
		動物	茨城県沿岸域の動物相について	総合調査と連動し、本県の沿岸域の無脊椎動物相の調査を実施するとともに、これまで蓄積してきたデータ（画像を含む）を整理している。本年度は、船の科学館「海の学び調査・研究サポート」を得て、「茨城の磯の動物ガイド」のPDF版を製作した。
	福田 孝	植物	学校教育における地衣類の教材化	身近に生育しながらも義務教育段階では取り上げられることの少ない地衣類を素材として、自然をよく観察することの重要性を伝えるプログラムを考察した。小中学校段階における地衣類の教材化について提案した。さらに、学校で使える地衣類図鑑を作成し、博物館ホームページからダウンロードできるようにした。
	吉川広輔	地学	日立層群初崎層から産出する化石について	鮮新統日立層群「初崎層」から産出した海生哺乳類の化石について検討し、それぞれナガスクジラ科の環椎、ハクジラ類の歯、アシカ科の肋骨であることを報告した。また、産出地である日立市鶴首岬において再度調査を実施したが、以前は露出していた場所が海岸砂で覆われ、化石採集はできなかった。
	漆原英明	博物館学	博物館におけるキャリア教育の現状と課題	他館での取組と比較しながら、当館で実施してきた取組をキャリア教育の視点から整理した。また、博物館への校外学習の事前・事後学習での活用を想定したキャリア発達を促す教材を作成した。
	石塚勇太	博物館学	ICTを活用した博物館におけるアウトリーチ	講師派遣などのアウトリーチ活動の中で、参加者の考えや博物館の利用状況や興味関心についてICTを用いて意見を収集し、効果的な活用方法について考察した。
	鈴木亮輔	植物	茨城県内で確認されたナチシダの調査	茨城県内で確認されたナチシダについて標本を採取し、秋季から冬季にかけて生態観察を行った。
	後藤優介	動物	国内およびロシア極東部におけるクマ類の生態学的研究	ツキノワグマが生息する栃木県足尾山地、東京都奥多摩山地および、ツキノワグマとヒグマが同所的に生息するロシア沿海地方などにおいて、共同研究者らとともに長期的な生態学的研究を行っている。継続的にクマ類の捕獲を行い、血液、体毛、歯などのサンプル採取による生理学的、遺伝学的研究のほか、GPS首輪を用いた行動追跡を行った。
		動物	茨城県平野部で交通事故死したニホンジカの出自の検討	茨城県内では近年、平野部においてニホンジカの再分布が確認されている。これまではオスのみの発見であったが、2022年にはメスの交通事故死個体が確認された。胃や腸の内容容分析から、事故死直前の行動を推察した。
		動物	茨城県内における大型外来カメ類の発見状況の整理	茨城県内では近年、外来生物であるカミツキガメ、ワニガメの発見が続いている。多くは飼育個体の逸出であると考えられるが、自然繁殖の可能性を考慮しながら、発見情報の整理と収集個体の分析を行った。
	加藤太一	地学	茨城県から産出する化石の研究	茨城県に分布する地層を調査し、新たな化石を収集するとともに、それらの古生物学的な研究を行った。 ・ひたちなか市 那珂湊層群（中生代白亜紀） ・日立市 日立層群初崎層（クモヒトデ、クジラ） ・北茨城市 湯長谷層群亀ノ尾層（貝、植物）、多賀層群高久層（貝、サメ）、平潟チャネル堆積物（クジラ、サメ）
	伊藤彩乃	植物	自生地播種試験を用いた絶滅危惧種の保全	企業、博物館、大学、地元ボランティアと協力し、ひたち海浜公園に自生する絶滅危惧種オオウメガサソウの保全に関する研究を進めている。本年度は茨城県と青森県で野外播種試験の結果を比較した。
		植物	茨城県内の植物の分布調査	総合調査などに関連し、県内の特筆すべきフロラについて調査・研究を行っている。本年度は、昨年度に引き続き、国や研究機関と協力し、特定外来生物オオバナミズキンバイの分布調査や駆除対策を行った。
	久松正樹	動物	茨城県の昆虫相の調査	総合調査と連動し、茨城県産昆虫相の調査を実施するとともに、これまで蓄積してきたデータを再整理し、茨城県昆虫目録を作成している。「茨城の昆虫」（仮称、一般向けの読み物）刊行に向けた準備を行っていく。ヤマトアシナガバチ（県絶滅危惧種）の茨城県内での記録をまとめ、学術誌「すがれおい」に投稿して掲載された。

課名	氏名	分野	創造的研究テーマ	令和5年度の研究内容
資料課	高橋 淳	博物館学	国内外のインクルーシブ天文教育の概要と次世代社会への提言について	国立天文台特任研究員（天文情報センター）として、調査研究を開始した。研究計画の策定、情報収集を行い、国立天文台ハワイ観測所とも連携協議中。
		博物館学	自然史系博物館における、視覚および聴覚障がい者対応サービスについて	音声および手話による展示ナビゲーターの開発研究を主軸とし、京都女子大と連携して、「音の見える化」装置の開発、展示サービスの先駆技術についての国内博物館等の現地調査を実施した。また、3D スキャナー、3D プリンタを駆使して、主に視覚障害者向けに触る標本を作成中。

5 研究成果の公表

（※太字は当館職員を示す）

(1) 学術論文など

- Sato, K., **Y. Goto**, S. Koike. 2023. Seed attachment by epizoochory depends on animal fur, body height, and plant phenology. *Acta Oecologica*, 119.
- 諸岡歩希・久松正樹・小島純一. 2023. 茨城県におけるヤマトアシナガバチの分布. *すがれおい*, (4): 60-65.
- 栗原 孝・小幡和男・**飯田勝明**. 2023. 茨城県那珂川およびその周辺の維管束植物相. *茨城県自然博物館研究報告*, (26): 87-122.
- Furusawa, H., **H. Ikezawa**, S. G. Tsujimoto, M. Ichikawa-Seki and T. Waki. 2023. Introducing the land snail *Bradybaena pellucida* increased infection risk of the avian parasite *Postharmostomum commutatum* in the Kanto region of Japan. *Parasitology Research*. 122: 2207-2216.
- 中山聖子・木村将士・金子誠也・山崎和哉・外山太一郎・**池澤広美**・加納光樹. 2024. 茨城県の河口汽水域におけるウシエビの北限記録. *水生動物*, 2024: AA2024-2.
- 北沢弘美・牧野純子・真藤憲政・今村 敬・**稲葉義智**・糟谷大河・**鶴沢美穂子**. 2023. ミュージアムパーク茨城県自然博物館構内における大型菌類リスト・補遺. *茨城県自然博物館研究報告*, (26): 63-86.
- Ishida, Y., M. Tagiri, **T. Kato**, S. Tsunoda, Y. Nakajima, B. Thuy, L. D. Numberger-Thuy and T. Fujita. 2023. The New Brittle-Star Species *Stegophiura takaisoensis* (Echinodermata, Ophiuroidea) from the Pliocene of Ibaraki Prefecture, Central Japan. *Paleontological Research*, 28 (1): 82-96.
- 村田一弘**. 2023. 茨城県自然博物館における教育用貸出資料の現状と課題について. *茨城県自然博物館研究報告*, (26): 153-161.
- 吉川広輔・**加藤太一**・村上瑞季・田切美智雄. 2023. 鮮新統日立層群“初崎層”から産出した海生哺乳類（ナグスクジラ科、ハクジラ類およびアシカ科）の化石. *茨城県自然博物館研究報告*, (26): 21-34.

(2) 学会発表など

- 藤原英史・馬場昭次・服田昌之・石田秀樹・児玉有紀・**福田 孝**・大野輝昭. 2023. 卓上型クライオ SEM を用いた共生藻類の光学および電子レンズによる同軸観察. 医学生物学電子顕微鏡学会第39回学術講演会および総会・島根大学
- 後藤優介**. 2024. 茨城県におけるワニガメの自然産卵の記録ならびに人工孵化確認について. 日本生態学会第71回全国大会・横浜.
- 後藤優介**・篠田直喜. 2024. 茨城県における新たな脅威、特定外来生物キョンの確認状況について. 霞ヶ浦流域研究2024. 茨城大学（オンライン）.
- 後藤優介**・山下雄司・山崎晃司・田村典子. 2023. 茨城県におけるクリハラリス対策の現状. 日本哺乳類学会2023年度大会・琉球大学.
- Baek Seungyun・長沼知子・山崎晃司・栃木香帆子・稲垣亜希乃・**後藤優介**・竹腰直紀・小池伸介. ツキノワグマの道路横断に対する性別および季節の影響. 日本哺乳類学会2023年度大会・琉球大学.
- 小池伸介・島崎 斐・Seungyou Baek・長沼知子・栃木香帆子・稲垣亜希乃・**後藤優介**・竹腰直紀・山崎晃司. 2023. Hidden Markov Model を用いたツキノワグマの活動内容の精度検証. 日本哺乳類学会2023年度大会・琉球大学.

- 小坂井千夏・長谷川綾香・松村広貴・後藤優介. 2023. この実を食べたのは誰だ？農地でもできる、環境 DNA を用いた早い・簡単な種判定の試行. 日本哺乳類学会2023年度大会. 琉球大学.
- 佐藤華音・後藤優介・小池伸介. 2024. 模型を用いた陸上性鳥類(キジ・コジュケイ)による付着種子散布の可能性の検証. 日本生態学会第71回全国大会. 横浜.
- 下鶴倫人・中村汐里・山崎淳平・玉谷宏夫・黒江美紗子・山崎晃司・小池伸介・後藤優介・長沼知子・栃木香帆子・稲垣亜希乃・竹腰直紀・Baek Seungyun・伊藤英之・坪田敏男. 2023. ツキノワグマにおける血液 DNA のメチル化レベルを指標とした年齢推定. 日本哺乳類学会2023年度大会. 琉球大学.
- 片山英里・舟橋正隆・池澤広美. 2023. 茨城県沿岸に出現する魚類. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学文教キャンパス.
- 伊藤彩乃. 2024. 霞ヶ浦の外来植物オオバナミズキンバイ. 霞ヶ浦流域研究2024. 茨城大学 (オンライン).
- 伊藤彩乃・糟谷大河・庄司顕則. 2024. 国内南限地における絶滅危惧種オオウメガサソウの系統と遺伝的構造. 日本植物分類学会第23回大会. 東北大学.
- Kato, T., Y. Nakajima, Y. Kimura and H. Ando. 2023. Diversity of otodontid sharks in the Coniacian–Santonian (Late Cretaceous) northwestern Pacific Ocean. 2nd Asian Paleontological Congress, Tokyo, Japan.
- Ishida Y., M. Tagiri, T. Kato, S. Tsunoda, Y. Nakajima, B. Thuy, L. D. Numberger-Thuy and T. Fujita. 2023. Exceptionally well preserved *Stegophiura* (Echinodermata, Ophiuroidea) fossils from the Pliocene of Central Japan. 11th European Conference on Echinoderms (ECE11), Lyon, France.
- Takimoto, H., J. Legrand, C. Pott, T. Ohana. 2023. Comparative study of Late Jurassic floral assemblages and environments between the Karakuwa, Oshika and Soma areas of northeastern Honshu, Japan. 2nd Asian Paleontological Congress, Tokyo, Japan.
- 滝本秀夫・大花民子・中島保寿・望月貴史・Julien Legrand・加藤太一・吉川広輔. 2024. 下部白亜系宮古層群より産した植物化石 (予報). 日本古生物学会第173回例会. 東北大学.
- 片桐知之・鵜沢美穂子. 2024. 塩原木の葉石 (栃木県那須塩原市) から発見された更新世のコケ植物化石. 日本植物分類学会第23回大会. 東北大学.

(3) 著書・監修書

- 加藤太一 (監修・協力). 2023. 常陸國總社宮辰年記念「古龍印」とは？. 常陸國總社宮リーフレット.
- 加藤太一 (監修・協力). 2024. 古龍印「常陸國古龍」. 常陸國總社宮辰年記念御朱印.
- 加藤太一 (監修・協力). 2024. 古龍印「佐志能滄竜」. 常陸國總社宮辰年記念御朱印.

(4) そのほか印刷物

- 加藤太一. 2024. コレクション ジュニア学芸員が見つけた化石標本. 博物館研究, 59 (3): 33.
- 小池 渉. 2024. 土浦城跡霞門の袖石垣および礎石の岩石種について. 土浦城霞門 保存改修工事報告書, pp.35-45, 土浦市教育委員会.
- 池澤広美・茅根重夫・菊地義昭. 2024. 陸生ソコミジンコ類. 茨城土壌動物研究会 (編). 茨城でみられる土中の虫たち. pp. 113-119, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 小池 渉. 2023. 石屋さんも意外と知らない！? 「石ネタ」あれこれ (前編). 月刊石材, (516): 6-15.
- 小池 渉. 2023. 石屋さんも意外と知らない！? 「石ネタ」あれこれ (後編). 月刊石材, (517): 6-17.
- 鵜沢美穂子. 2023. コツボゴケのお見合い. うかたま 季刊 [夏] vol.71. pp. 5., 農文協. (雑誌連載)
- 鵜沢美穂子. 2023. ヒナノハイゴケのおめかし. うかたま 季刊 [秋] vol.72. pp. 5., 農文協. (雑誌連載)
- 鵜沢美穂子. 2023. 冬の宝石 カゲロウゴケ. うかたま 季刊 [冬] vol.73. pp. 5., 農文協. (雑誌連載)
- 鵜沢美穂子. 2024. コスギゴケの帽子. うかたま 季刊 [春] vol.74. pp. 5., 農文協. (雑誌連載)
- 鵜沢美穂子 (分担執筆). 2024. 「好き！」の先にある未来 わたしたちの理系進路選択. 加藤美砂子 (編). 126pp., 岩波書店.

6 研究助成金

氏 名	研究課題	助成金名	金額
池澤広美	地域の関係機関等と協働した海岸動物学習プログラム作成と運用に向けた具体的取り組み	日本海事科学振興財団2023 年度「海の学び ミュージアムサポート」プログラム3「海の学び調査・研究サポート」	500,000円
	希少種と外来種を中心とした茨城県内の昆虫類を除く無脊椎動物の生息調査	公益信託「エコーいばらき」環境保全基金	100,000円
伊藤彩乃	侵略的外来水生植物の生態解明および防除手法の評価を踏まえた早期対応社会技術の確立	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 一般 (分担)	直接経費 120,000円 間接経費 36,000円 ※3年目／3年
	世界的な分布南限地において危機的状況にあるオオウメガサソウ（絶滅危惧種）の保全に関する研究～そのルーツと繁殖生態を解明する～	第33 期プロ・ナトゥーラ・ファン ド助成	1,000,000円 ※2年目／2年
小池 涉 鵜沢美穂子 (研究協力 者：高橋 淳)	「誰もが共に楽しく学べる科学系博物館」の情報デザイン	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (分担)	直接経費 1,020,000円 間接経費 105,000円 ※2年目／3年
後藤優介	気候変動が森林性大型動物（ツキノワグマとヒグマ等）の土地利用に与える影響の評価	日本学術振興会 国際共同研究加速基金（国際共同 研究強化 (B) (分担)	直接経費 1,020,000円 間接経費 210,000円 ※6年目延長中（繰越金） ／5年
	個体群動態とブナ科の結実豊凶を考慮したツキノワグマ個体群管理手法の提案	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) (分担)	直接経費 250,000円 間接経費 75,000円 ※1 年目／4年
福田 孝	地衣類企画展における大型拡大模型を活用した展示の充実と地衣類の認知度向上	全国科学博物館振興財団 全国科学博物館活動等助成事業 2023年度	400,000円

7 他機関からの委嘱

氏名	委嘱委員名
小池 涉	茨城県高等学校教育研究会地学部顧問
鵜沢美穂子	日本蘚苔類学会地方幹事（～令和5年12月）、広報幹事（令和6年1月～）
	希少野生動植物種保存推進員（環境省） 自然史学会連合博物館部会委員
滝本秀夫	東京都市大学非常勤講師（生涯学習概論、博物館展示論）
	筑波大学非常勤講師（博物館学Ⅱ）
池澤広美	自然史学会連合博物館部会委員
	希少野生動植物種保存推進員（環境省）
	日本動物分類学会選挙管理委員
	茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション共同利用協議会委員
	茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション共同利用協議会「霞ヶ浦流域フィールド教育コンソーシアム」委員
国府田誠一	海の学びコーディネーター（船の科学館「海の学びミュージアムサポート」事業）
後藤優介	茨城における絶滅のおそれのある野生植物種の見直し検討委員会委員（茨城県生物多様性センター）
	日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会クマ保護管理検討作業部会員
	坂東市鳥獣被害対策協議会委員 筑波山ブナ林保護対策委員会事務局
伊藤彩乃	茨城における絶滅のおそれのある野生植物種の見直し検討委員会委員（茨城県生物多様性センター）
	筑波山ブナ林保護対策委員会事務局
久松正樹	希少野生動植物種保存推進員（環境省）
	茨城キリスト教大学兼任講師（生活科学研究）
	茨城県環境アドバイザー
	原子力科学館リニューアル推進委員
	こどもエコクラブ「壁新聞道場」師範
飯田勝明	土浦市文化財保護審議会委員
	守谷市環境審議会委員
	国立科学博物館筑波実験植物園における学習指導員
	茨城県環境アドバイザー

高橋 淳	茨城県高等学校教育研究会地学部顧問
石塚武彦	茨城県環境アドバイザー
栗栖宣博	茨城県環境アドバイザー

8 研究報告の出版

(1) 研究報告

茨城県自然博物館研究報告第26号を500部発行し、PDF ファイルをホームページで公開した。掲載した内容は下記の通りである。

(※太字は当館職員を示す)

① 原著論文

大井信三・西連地信男・安藤寿男. 茨城県常陸台地の第四系更新統下総層群常総層と常総層相当層に含まれるテフラと常陸台地海岸部の MIS5c 段丘.

② 短報

吉川広輔・加藤太一・村上瑞季・田切美智雄. 鮮新統日立層群“初崎層”から産出した海生哺乳類（ナグスクジラ科，ハクジラ類およびアシカ科）の化石.

③ 資料

白井健司. 茨城県におけるナガオバネ (*Schimmelmannia benzaiteniana*) の記録.

金子 稔. 茨城県阿見町島津の更新統下総層群から産出した有孔虫化石.

諸岡歩希・海老澤武尊・中村千帆・佐々木泰弘. 茨城県におけるアカボシゴマダラ *Hestina assimilis* (チョウ目，タテハチョウ科) の分布拡大に関する考察.

北沢弘美・牧野純子・真藤憲政・今村 敬・稲葉義智・糟谷大河・鵜沢美穂子. ミュージアムパーク茨城県自然博物館構内における大型菌類リスト・補遺.

栗原 孝・小幡和男・飯田勝明. 茨城県那珂川およびその周辺の維管束植物相.

金子誠也・山崎和哉・外山太一郎・中畠政明・加納光樹. 茨城県那珂川感潮域の魚類相.

廣瀬健伸・廣瀬暁子・木下美弥・木下 潔・山根爽一. 茨城県つくば市街地の都市公園である洞峰公園および赤塚公園の野鳥.

④ 雑録

村田一弘. 茨城県自然博物館における教育用貸出資料の現状と課題について.

(2) その他

「茨城でみられる土中の虫たち」(茨城土壌動物研究会 編)を500部発行した。本書は総頁数278頁で、第Ⅰ期総合調査(1994年～2006年)の土壌動物の調査成果を基に製作されている。研究会のメンバーや当館の関係者18名が執筆者となり、13分類群379種の土壌動物が図や写真などとともに紹介されている。

9 研究協力員

当館職員と外部研究者の円滑な研究協力体制を整えるため、「研究協力員受入要綱」を整備し、平成29年度から本格的に研究協力員の受入れを開始した。令和5年度に受け入れた研究協力員の研究課題は次の10件である。

分野	氏名	研究課題	担当職員
動物	舟橋正隆	茨城県産魚類の研究（主に茨城沿岸の浅海域から深海にかけての調査研究）	漆原英明 池澤広美
	小松 貴	茨城県版レッドリスト掲載の地下水生物類の探索	池澤広美
	片山英里	茨城県沿岸に分布する魚類の調査および生物地理学的研究	池澤広美 漆原英明
	内田大貴	関東地方を中心とした水生生物（主に淡水魚類・甲殻類・水生昆虫類）の多様性解明	池澤広美 北澤佑子
植物	栗原 孝	茨城県における維管束植物のフロラ研究	伊藤彩乃 鵜沢美穂子

地学	国府田良樹	長鼻類の分類学的研究	加藤太一
	金子 稔	上総層群から産出する微化石	加藤太一
	飯泉克典	中新世長鼻類の起源と進化の解明	加藤太一
	村上瑞季	茨城県自然博物館所蔵の鯨類化石の分類学・古生物地理学的研究	加藤太一
	三井翔太	茨城県稲敷郡阿見町島津の木下層から産出する魚類の耳石化石群集の解明	加藤太一

5 広報広聴活動および出版事業

Public Relations and Publications

(1) 広報広聴活動

各種広報媒体を活用し、博物館および博物館活動に対する理解を深めるとともに、来館者からの意見・要望を広く聴取し、博物館運営の参考とした。

① 広報活動

区 分	内 容	参 考
印刷広報 (ポスター・チラシなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・「うんち」展 ・「地衣類」展 ・「恐竜 vs 哺乳類」展 	B1：100枚、B2：3,400枚、A4：123,000枚 B1：100枚、B2：3,400枚、A4：123,000枚 B1：100枚、B2：3,300枚、A4：120,000枚
広告掲出など	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター駅貼り・車内中吊り広告 ・新聞広告 ・ラジオCM 	企画展（TX・関東鉄道各駅及びTX・関東鉄道の車内） 企画展（読売新聞、毎日新聞、茨城新聞ほか）、夏の 観光ガイド（産経新聞）、その他（読売新聞、産経新聞、 茨城新聞ほか）企画展紹介（茨城放送）
博物館ニュースの発行 (A・MUSEUM)	Vol.111、112、113	年3回発行 vol.111、112、113 各8,500部 A4判8ページ（フルカラー） 県内および隣接県各市町村の学校などへ配付
県広報媒体利用による 広報	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委広報誌「教育いばらき」 ・県政情報紙「ひばり」 ・「市町村広報」 ・茨城放送（ラジオ、「みんなの教育」） 	県内各学校および全教職員を対象に配布 新聞折込み（全戸配布） 県内および隣接県市町村へ情報提供に基づく広報掲載
報道機関などへの情報 提供、取材・中継協力	企画展・記念入館者・各種事業など ※県外（東京など）含むおもな掲載内容 【企画展連載】 <ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの色」 ・「うんち無しでは生きられない！」 ・「地衣類」 【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・「ひつつき虫の種子散布」関連 ・「科学技術映像祭」関連 ・「GW 入館者状況」関連 ・「キョン」関連 ・「クモヒトデ化石」関連 ・「うんち無しでは生きられない！」関連 ・「うんち無しでは生きられない！ 入館者10万人達成」関連 ・「地衣類」関連 ・「臨時休館」関係 ・「地衣類 入館者10万人達成」関連 	茨城新聞 R5. 5. 6～R5. 5.10付 5回 茨城新聞 R5. 8.23～R5. 8.27付 5回 茨城新聞 R6. 1. 6～R6. 1.10付 5回 茨城新聞 R5. 4.13付 朝日新聞 R5. 5.24付 茨城新聞 R5. 5. 3付 読売新聞 R5. 5. 8付 茨城新聞 R5. 6.13付 週刊現代 R5.12.16付 FRIDAY デジタル R5.12.26付 茨城新聞 R6. 3. 3付 毎日新聞 R5. 6.21付 朝日新聞 R5. 7.17付 東京新聞 R5. 7.30付 茨城新聞 R5. 8. 4付 産経新聞 R5. 8.26付 朝日新聞 R5. 9. 3付 読売新聞 R5. 9.15付 茨城新聞 R5. 8.30付 茨城新聞 R5.10. 8付 茨城新聞 R5.10.27付 読売新聞 R5.10.27付 朝日新聞 R5.10.28付 毎日新聞 R5.10.28付 茨城新聞 R6. 1.22付

区 分	内 容	参 考
	<ul style="list-style-type: none"> ・「恐竜 vs 哺乳類」関連 ・「こども新聞」関連 <p>【テレビ・ラジオ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの色」関連 ・「ムササビ」関連 ・「うち無しでは生きられない！」関連 ・「博物館広報」関係 ・「ツキノワグマ」関連 ・「地衣類」関連 	茨城新聞 R6. 3. 3付 読売新聞 R6. 3. 3付 茨城新聞 R5. 4.25付 茨城新聞 R5. 5.22付 茨城新聞 R5. 6.26付 茨城新聞 R5. 7.24付 茨城新聞 R5. 8.28付 茨城新聞 R5. 9.25付 茨城新聞 R5.10.23付 茨城新聞 R5.11.27付 茨城新聞 R6. 1.22付 茨城新聞 R6. 2.26付 茨城新聞 R6. 3.25付 ・茨城放送「MUSIC STATE スクーピーレポート」R5. 4.27放送 ・日本テレビ「所さんの目がテン！」R5.5.28放送 ・茨城放送「MUSIC STATE スクーピーレポート」R5.7.11放送 ・エフエムかしま「Happy いばらき」R5.7.10放送 ・テレビ朝日「スーパーJチャンネル」R5.11.16放送 ・チューリップテレビ「ニュース6」R5.11.20放送 ・茨城放送「MUSIC STATE スクーピーレポート」R5.12.12放送
出版社などへの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・資料提供 ・取材依頼、協力 	地域情報紙・誌など（県外を含む） <おもな掲載誌> 月刊ぶらざ、まっぷる、るるぶ、子供の科学、小学一年生、シェアリングネイチャーライフ

② 広聴活動

区 分	内 容	参 考
入館者からの意見収集	来館者アンケート調査の実施	年4回実施 ・調査数 約1,000人／回
	各行事参加者へのアンケート調査	自然ラボ・サンデーサイエンス・サイエンスデーなど
	御意見承り箱の設置（随時）	平成7年11月設置 ・来館者からの感想・意見の収集
博物館モニターからの意見の収集	アンケート調査などへの協力 企画展開催時などに来館し、自由に意見・提案・要望などを提出（随時・内容自由） 館運営全般として施設管理・企画展その他展示や館内サービス、イベントなど	令和5年7月より、第12期県職員モニター活動開始（55人：2年間） 県職員モニター 55人 市民モニター 107人

(2) 出版事業

博物館で実施している事業（企画展、調査研究など）の記録、報告または展示事業における来館者への便宜を図るため、次の図書の製作・発行を行った。

図 書 名	規格	部数
第87回企画展「うち無しでは生きられない！」展示解説書	A4判、40頁	1,300
第88回企画展「地衣類」展示解説書	A4判、40頁	1,300
第89回企画展「恐竜 vs 哺乳類」展示解説書	A4判、40頁	1,200
茨城県自然博物館研究報告第26号 2023年12月	A4判、168頁	500
年報第29号 令和4年度	A4判、78頁	500
茨城でみられる土中の虫たち（茨城土壤動物研究会編）	A4判、278頁	500

6 博物館関係行事

(1) 海の日イベント

令和5年7月17日（月・祝）「海の日」にちなんで、海に関連する特別イベントを開催した。

- ・「海の生きものタッチングプール」（参加者：132人）
担当：水系職員、企画課
- ・第87回企画展「うんち無しでは生きられない！」見どころ紹介（参加者：144人）
担当：後藤優介、企画課
- ・海の日記念 博物館クロスワードパズルに挑戦！（700枚配布）
担当：企画課



海の日イベント
Marine Day Event

(2) 山の日イベント

令和5年8月11日（金・祝）「山の日」にちなんで、山に関連する特別イベントを開催した。

- ・山の日記念 博物館クロスワードパズルに挑戦！（850枚配布）
担当：企画課



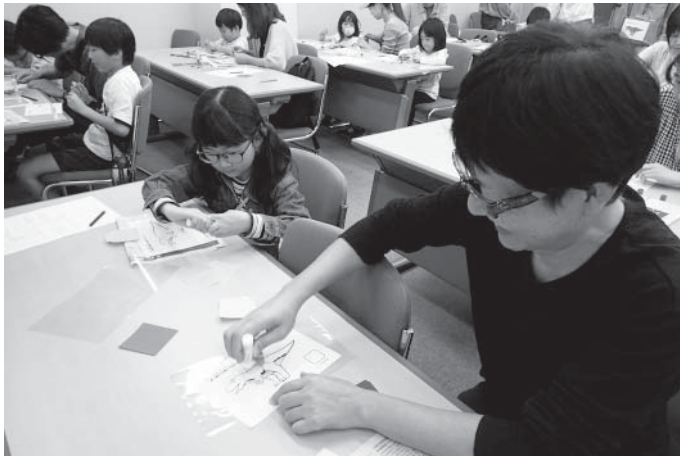
山の日イベント
Mountain Day Event

(3) アミューズデー

開館月にあたる11月の第1日曜日をアミューズデーと定め、博物館友の会と共催で特別事業を行っている。
令和5年度は11月5日（日）がアミューズデーにあたり、以下のイベントを開催した。

- ・「折り紙で恐竜のちぎり絵をつくろう！」（参加者：192人）

担当：企画課、友の会、ボランティア（相野谷叶乃、伊藤玲子、古田島宏一、高橋玲子、谷内貴子）



アミューズデー
Amusement Day Event

(4) サイエンスデー

博物館をより身近な存在とするため、年4回の無料入館日を独自にサイエンスデーと位置づけ、イベントを行っている。令和5年度は、令和5年6月4日（日）の「地球・科学の日」、令和5年11月13日（月）の「茨城県民の日」、令和6年3月20日（水・祝）の「宇宙・科学の日」にイベントを実施した。

① 地球・科学の日【令和5年6月4日（日）：環境の日】

- ・さよなら色展「いのちの色展」見どころ紹介（参加者：24人）
担当：稲葉義智、加藤太一、寺田和央、企画課
- ・「コケの一生」特別上映会（参加者：61人）
担当：鶴沢美穂子、企画課
- ・博物館 SDGs クイズに挑戦！（628枚配布）
担当：企画課

② 茨城・科学の日【令和5年11月13日（月）：茨城県民の日】

- ・博物館で地衣さんぽ（参加者：40人）
担当：福田 孝、企画課
- ・水系バックヤードをみてみよう！（参加者：71人）
担当：水系職員、企画課
- ・だいすきいばらき！県民の日クイズ（727枚配布）
担当：企画課

③ 宇宙・科学の日【令和6年3月20日（水・祝）：春分の日】

- ・恐竜の頭骨をつくろう！（参加者：64人）
担当：吉川広輔、加藤太一、企画課
- ・プランクトン観察体験！（参加者：507人）
担当：茨城県霞ヶ浦環境科学センター職員（6人）、企画課
- ・水系バックヤードをみてみよう！（参加者：77人）
担当：水系職員、企画課

(5) お正月イベント

令和6年1月2日（火）、3日（水）に、新年記念として以下のイベントを開催した。

・ 解き初め！博物館クロスワード！（参加者：897組）

担当：企画課



お正月イベント
New Year's Event



お正月イベント
New Year's Event

7 他の機関・団体との連携

Cooperation with Other Institutions and Organizations

博物館活動を活発化させるために他の行政機関、企業などとの連携の下、館運営を行っている。

(1) ミニ移動博物館の実施

広報活動の一環として、地域のお祭りや大型商業施設などでミニ移動博物館を例年実施している。令和5年度は新規3件を含めて計10回（15日）の実施となり、当館への来客促進に大きく寄与できている。

種 別	実施場所・関連企画名		期 日
社会教育施設など	常総市市民のひろば	「常総千姫まつり」	R5. 5.14
	茨城県立歴史館	「歴史館まつり」	R5. 6. 3
	水海道あすなろの里	「あすなろの秋祭り」	R5.10.22
	さしま少年自然の家	「さしまの森紅葉祭」	R5.11.19
商業・観光施設など	イオンレイクタウン越谷	「観光物産課 茨城観光キャンペーン」	R5. 7. 2
	イオンモールつくば	「ミニ移動博物館」	R5. 7.22 ~ 7.23
	ひたち海浜公園（新規）	「海・花そとあそび2023」	R5.11.11
	イーアスつくば（新規）	「すくすく子育てフェスタ」	R5.12. 2
	TX PLAZA 秋葉原（新規）	「ミニ移動博物館」	R6. 2. 9 ~ 2.12
	イオンモール土浦	「まなびの&ハピハピサンデー」	R6. 3. 9 ~ 3.10

(2) マスコミとの連携

ア 日本放送協会（企画展関連）

第86回、第87回、第88回、第89回の各企画展について、NHK 水戸放送局の後援を受けて開催し、NHK 県域デジタル放送などで広報の機会を得た。

イ 茨城新聞社（企画展関連）

第86回、第87回、第88回、第89回の各企画展について、茨城新聞社の後援を受けて開催し、各企画展について、同新聞での企画展関連記事の連載を実施した。

(3) 県庁各部局との連携

観光・文化・環境関係の県各部局との連携・協力を図りながら、県内外からの来館者に対して、博物館活動のPRを実施している。

(4) 福井県立恐竜博物館との連携事業

当館と福井県立恐竜博物館は、平成19年度より覚え書きを交わし、博物館事業の効率的な運営および活性化を図ることを目的に「連携博物館」として博物館事業の連携を推進している。

ア 教育普及事業における職員の相互派遣

福井県立恐竜博物館へ滝本秀夫主査を講師として派遣し、10月15日（日）に連携博物館セミナー「化石の日特別講演会：絶滅した植物を復元する一恐竜たちはどんな植物を見ていたのかー」を実施した。

イ 古生物学の共同研究

重点研究「那珂湊層群および双葉層群の化石から復元される後期白亜紀における北西太平洋域の生態系」の一部において、当館の加藤太一副主任学芸員が福井県立恐竜博物館の藺田哲平博士と共同研究を行っている。

(5) 地域の関連機関などと連携した自然観察会の実施

（公財）日本海事科学振興財団2022年度「海の学び ミュージアムサポート」プログラム3「海の学び調査・研究サポート」の助成金を活用し、アクアワールド茨城県大洗水族館、（公財）水産無脊椎動物研究所のほか、つくば市を拠点に活動する自然科学教育普及団体「地球レーベル」と共催で、5月20日（土）、5月21日（日）、6月17日（土）にひたちなか市の岩礁海岸で磯の動物についての自然観察会を実施した。

(6) 外部団体への協力

茨城県農林水産部林政課が公益社団法人茨城県森林・林業協会に委託して実施している「森林・林業体験学習」の会場として協力した。内容としては、主に、館内の植物の解説や野外での植物観察、丸太切り体験などを行った。（令和5年度：上半期8回実施、下半期4回実施）「森林・林業体験学習」は、令和6年度から本館での活動は実施しない。

(7) 環境省外来種対策講演会への講師派遣

茨城県内でのキョン対策に係る講演会（環境省関東地方環境事務所野生生物課主催）に当館の後藤優介副主任学芸員が演者として協力した。茨城県内のキョンの現状について講演し、自治体や関係団体などへ本種についての問題などを発信した。

日時：令和6年1月16日（火）

場所：茨城県霞ヶ浦環境科学センター（茨城県土浦市）

対象：茨城県内の自治体担当者、狩猟関係者、農業関係者など

(8) 茨城土壌動物研究会と協働した「茨城でみられる土中の虫たち」の出版

当館では茨城県の自然の特性を把握する目的で1994年から総合調査を実施しているが、茨城土壌動物研究会（調査では茨城土壌動物調査会の名称）には第1次～第4次（1994～2006）の調査に加わっていただいた。県内の多くの地点から多数の標本を採集し、それらの調査の成果は当館発行の第1～4次総合調査報告書（1998、2001、2004、2007）の中でまとめられている。その後、研究会の中で、総合調査を含めた長年の調査データをもとに茨城県の土壌動物をまとめたいとの機運が高まった。合わせて、土壌動物に興味をもった方や学校での土壌動物の手引書にしたいと考え、「茨城でみられる土中の虫たち」の出版に向けての準備が進められた。当初、本書は茨城土壌動物研究会が発行する予定だったが、総合調査のデータが多く用いられている、本書に掲載されている証拠標本は当館に収蔵されている、当館の現・元職員も著者としてかかわっている、などの理由で、編集を「茨城土壌動物研究会」とし、令和6年3月20日に当館から発行された。本の内容の詳細は47頁に記載した。

(9) 県立坂東清風高等学校による樹木診断授業および調査結果報告会の実施

10月3日（火）、10月17日（火）に農業工学科環境デザインコースの3学年（3名）が樹木医や農業教諭とともに当館の野外施設（どんぐりの森）で樹木の樹木診断授業を行った。

調査を実施した結果多くの樹木に異常があり、剪定や伐採などの対応が必要だと診断された。

診断結果について1月31日（水）に講座室にて報告会を実施した。

令和6年度も実施を予定している。

(10) 滋賀県立琵琶湖博物館によるゼニタナゴの譲渡

ゼニタナゴ50匹が滋賀県立琵琶湖博物館から譲渡され、令和6年2月22日より第3展示室に展示している。

8 ボランティアの養成と活動の支援

Training and Support for Volunteers

市民参加による博物館事業を推進するとともに、生涯学習の場、社会参加の場を提供することを目的として、博物館の活動や自然に興味のある人による博物館ボランティアが活動を行っている。博物館ボランティアへさまざまな研修講座を実施するとともに、自主的な研修やチームの活動について積極的に支援した。

令和5年度は、ボランティア主催のイベントやチーム活動において、密にならないよう参加人数や活動方法を工夫して実施した。博物館ボランティアが企画、運営する「ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）、子ども自然教室」のイベントには毎回多くの来館者が参加している。

(1) ボランティア研修会の実施

種 類	内 容	参加者	期 日
ボランティア総会および更新研修	総 会：ボランティア年間活動計画の承認など 更新研修：年1回の更新研修	46	R5. 5.27
自主研修視察および交流会	施設見学およびボランティア交流 場 所：水戸市植物公園	23	R5. 6.24
ボランティア記念日	チーム活動報告、「地衣類展」解説 新規会員認定 ふれあい野外ガイドスペシャル	40	R6. 1.20
新人ボランティア養成講座	ミュージアムパーク茨城県自然博物館の特徴について	5	R6. 1.21

(2) ボランティア活動の状況

① 主な活動内容

- ア 自然レクチャー「ふれあい野外ガイド」
- ウ 来館者向け観察指導および自然情報揭示
- オ ボランティア活動紹介展の開催
- キ 博物館野外での動植物の調査
- ケ 図書室の利用案内および図書整理
- サ 「子ども自然教室」

- イ 化石クリーニング
- エ 身近な植物の生体標本展示
- カ 収蔵資料（動物、植物、地学）の整理
- ク 観察会などにおける指導補助
- コ ボランティア自主研修会の企画・運営
- シ 友の会行事の企画および会報の発行補助



ふれあい野外ガイド（図書チーム）
Field Guide Tour by volunteers (Team Library)



ふれあい野外ガイド（竹林・竹炭チーム）
Field Guide Tour by volunteers (Team bamboo charcoal)

② 年齢別登録者数および地域別登録者数 (含研修生)

年齢	人数
10 ～	0
20 ～	7
30 ～	6
40 ～	3
50 ～	10
60 ～	34
70 ～	44
80 ～	9
90 ～	0
合計	113

地 域	人数	地 域	人数
坂 東 市	18	千 葉 県	14
常 総 市	5	埼 玉 県	9
守 谷 市	9	東 京 都	4
つくばみらい市	8	神 奈 川 県	1
つ く ば 市	13	栃 木 県	1
取 手 市	2		
牛 久 市	6		
その他の県内	23		
県内	84	県外	29
		合計	113

9 友の会活動の支援

Support to Events by Museum Friends of Ibaraki Nature Museum

(1) 友の会活動の支援

友の会は、当館の支援団体として位置づけられており、会員の入館料免除、情報提供、友の会事業への当館職員の派遣など、さまざまな面で友の会会員の活動を支援している。

① 会員の入館料免除

延べ4,321人の友の会会員が入館し、入館料を免除した。

② 情報提供

当館で年3回発行している機関誌「A・MUSEUM」を友の会会員全員に提供した。

③ 友の会事業への当館職員の協力

- ・各種イベントの計画・開催時における助言並びに職員の派遣。
- ・マンモス通信などへの寄稿。

(2) 友の会活動の状況

おもな活動内容

- ・博物館が行う諸活動への協力
- ・博物館ボランティアの運営協力
- ・会員が相互の親睦を深め、自然と親しみ、楽しく学習するための事業
- ・会報などの発行および博物館ニュース、企画展案内などの配布
- ・博物館に相応しい企画展記念グッズの開発
- ・博物館来館者への便宜供与などにかかる収益事業
- ・友の会の普及発展およびその他目的達成に必要な事業
- ・友の会ホームページの運営とSNSによる情報発信

(3) 会員構成

令和5年度	664件（令和6年3月末現在）		
家族会員	498件	個人会員	128件
子ども会員	10件	賛助会員	28件

(4) 主な事業

① 友の会主催事業など

★印の行事は博物館との共催、又は博物館への後援事業 ◎博物館イベントに友の会会員枠で参加

	行 事 名	実施場所・内容など	参加者数
4月	○植物観察会 「博物館でお花見会&地衣類観察会！」 (R5. 4. 2)	○博物館職員によるレクチャーを受けながら、博物館のサクラや地衣類をルーペで観察した。	18人
7月	○企画展関連イベント講習会 「うんち展を100倍楽しむ！うんち展のここを見て！」(R5. 7.16) ◎博物館イベント 「昆虫観察会」(R5. 7.29)	○企画展の見どころと、うんちが自然界で果たす役割について企画展チーフに解説をいただいた。 ◎熱中症警戒アラートが発表されたため中止	14人
9月	○植物観察会 「シダってワンダーランド！」(R5. 9.16)	○博物館野外のコケ庭で観察会を行った後、博物館職員によるレクチャーを受けた。その後、シダのたたき染めによるしおりづくりを行った。	15人

	行 事 名	実施場所・内容など	参加者数
10	○地学観察会 「博物館で化石や鉱物を探そう！」 (R5.10.15)	○博物館職員のレクチャーを受けながら、博物館野外でみられる主な化石や鉱物に関するクロスワードパズルを解いた後で、場所を移動し、実物を観察した。	19人
11月	★アミューズデーイベント 「折り紙で恐竜のちぎり絵をつくろう！」 (R5.11. 5)	★当館の動く恐竜で展示されているティラノサウルスをモチーフにちぎり絵を作成した。(当日、一般来館者を対象に先着制で6回実施)	192人
	◎博物館イベント (サンデーサイエンス) 「貝化石の観察をしよう」(R5.11.12)	◎野外の古代の広場で貝化石を採集し、きれいにした後で名前を調べ、貝の種類から地層ができたころはどんなところだったのかについて学んだ。	21人
12月	○クリスマスイベント 「ミニサンタを探せ！ 2023」 (R5.12. 1 ～ R5.12.26)	○博物館内に隠れているミニサンタを探して名前を記入し、解答用紙をミニサンタポストに投函してもらった。参加者には、後日プレゼントを送付した。	100人
	○クリスマスイベント 「星たちが踊る twilight」(R5.12. 2)	○元博物館職員とボランティアスタッフの協力を得て、冬の星座のレクチャーを受けた後、屋上で観察会を行った。冬の星座のほか、木星、土星も観察することが出来た。	24人
	◎博物館イベント (サンデーサイエンス) 「地衣類ストラップをつくろう」 (R5.12.10)	◎身近な地衣類を使って、自分だけのストラップを作成した。ストラップづくりを通して、地衣類に親しみ生態や形態に興味をもってもらえた。	17人
1月	◎博物館イベント (サンデーサイエンス) 「水の生きものの樹脂標本をつくろう」 (R6. 1.14)	◎UV レジンを使って、オキアミの樹脂封入標本を作製した。標本づくりを通して、オキアミの形態や海の生態系などについて学んだ。	18人
	○野鳥観察会 「博物館で野鳥をみつけよう！」 (R6. 1.20)	○博物館職員のレクチャーを受けた後、博物館野外で野鳥を観察し、身近に生息する野鳥について学んだ。	30人
3月	○ミュージアムフレンズデー 「ちはやふる恐竜かるた大会」(R6. 3.10)	○第89回企画展に因み、当館オリジナルかるたを使って、かるた大会を実施した。参加者全員に手作りのメダルと参加賞を、優勝・準優勝のチームには記念品を贈呈した。	37人

② 後援事業

- ・企画展関連事業への協力
- ・企画展記念グッズの製作

③ 会報の発行

- ・マンモス通信 (令和5年6月、8月、10月、令和6年2月に発行)
- ・ミニマンモス通信 (令和5年4月、11月に発行)

④ その他

- ・5月21日 (日)、8月6日 (日)、10月14日 (土)、3月3日 (日) に入会キャンペーンを実施し、入会者には友の会オリジナルグッズをプレゼントした。
- ・令和6年度には、博物館同様友の会も30周年を迎える。令和6年度に予定されている企画展に関連付けて、博物館開館30周年企画第一弾として、9月16日 (土) に植物観察会「シダってワンダーランド！」を新たに計画・実施した。
- ・博物館との共催で実施している11月のアミューズデーイベントの際に、入会キャンペーンチラシを配

布し、友の会の活動や特典について紹介することで、新規会員の獲得につなげることができた。

- 友の会のイベント内容をわかりやすく伝えるために、友の会コーナーに令和5年度に実施したイベントの写真を掲示した。
- 令和5年度は、12月にクリスマスイベントを2つ実施した。
- 1月末日までに来館し、窓口で次年度の会員継続手続きを完了した会員向けに数種類のプレゼントを準備し、その中から好みのものを選んでいただく方式とした。会員の年齢もさまざまなので好評だった。
- 各企画展の入館者10万人達成記念イベントの際は、記念入館者に友の会からオリジナルグッズなど詰めあわせをプレゼントした。

Ⅱ 利用状況

Visitor's Statistics

1 令和5年度入館者数

Number of Visitors, 2023-2024

令和5年度の入館者総数は430,601人であり、前年度比約96.1%である。そのうち、教育活動の一環として当館を訪れた学校および人数は、延べ630校、46,185人である。そして、前年度比は学校数では約114.9%、人数で約107.9%である。

(1) 入館者数の推移

年	月	開館 日数	有料入館					無料入館								総計	1日 あたり 平均
			一般	高齢者	大学生 高校生	中学生 小学生	有料計	高齢者	身障者 知的障害者	学校関係	福祉関係	保育園 幼稚園	未就学児	その他	無料計		
平成6年度	112	128,611			3,865	48,018	180,494	15,428	1,448	8,947	567		42,306	41,783	110,479	290,973	2,598
平成7年度	298	291,832			8,698	119,693	420,223	36,302	3,078	88,001	5,909	25,710	65,572	36,448	261,020	681,243	2,286
平成8年度	296	200,433			6,167	74,317	280,917	20,818	1,979	64,957	4,073	24,355	53,585	49,857	219,624	500,541	1,691
平成9年度	300	169,377			4,905	63,797	238,079	14,932	1,676	67,540	2,912	32,146	69,100	61,377	249,683	487,762	1,626
平成10年度	302	143,616			4,098	47,465	195,179	13,199	1,970	69,848	3,447	39,155	59,408	72,864	259,891	455,070	1,507
平成11年度	302	131,939			3,890	43,988	179,817	12,632	2,370	57,473	4,336	34,178	60,027	74,017	245,033	424,850	1,407
平成12年度	300	120,376			3,835	43,287	167,498	11,857	2,306	58,188	4,041	37,681	57,143	72,673	243,889	411,387	1,371
平成13年度	302	127,253			3,393	45,594	176,240	13,093	2,906	63,555	4,071	39,143	59,782	79,072	261,622	437,862	1,450
平成14年度	303	124,798			2,948	42,579	170,325	12,310	3,008	59,558	3,747	35,530	56,824	77,847	248,824	419,149	1,383
平成15年度	305	124,604			2,843	44,917	172,364	10,739	3,360	59,169	4,506	38,543	55,111	80,436	251,864	424,228	1,391
平成16年度	306	129,943			2,817	48,242	181,002	9,497	4,111	55,119	4,617	38,896	59,771	86,989	259,000	440,002	1,438
平成17年度	306	108,644			2,587	38,235	149,466	8,238	4,226	51,273	5,041	43,091	51,040	81,786	244,695	394,161	1,288
平成18年度	308	117,105			2,417	42,145	161,667	7,408	4,150	61,835	4,939	46,643	54,448	77,695	257,118	418,785	1,360
平成19年度	307	122,108			2,530	40,118	164,756	6,332	4,341	58,259	4,946	47,619	53,874	77,212	252,583	417,339	1,359
平成20年度	305	105,345			2,516	36,478	144,339	6,494	4,501	60,496	3,723	43,515	48,914	89,158	256,801	401,140	1,315
平成21年度	305	102,908			2,389	36,634	141,931	7,031	5,025	56,355	4,738	43,005	45,280	97,386	258,820	400,751	1,314
平成22年度	288	96,196			2,248	31,946	130,390	7,371	4,967	54,120	4,523	44,536	41,699	94,272	251,488	381,878	1,326
平成23年度	307	91,313			2,148	32,032	125,493	6,812	5,344	46,349	2,985	29,399	45,944	116,339	253,172	378,665	1,233
平成24年度	306	94,704			2,248	30,873	127,825	6,753	5,707	52,866	3,687	41,261	41,597	109,940	261,811	389,636	1,273
平成25年度	305	105,159			2,528	34,246	141,933	7,627	6,002	52,727	4,302	41,198	47,585	117,881	277,322	419,255	1,375
平成26年度	305	104,523			2,237	32,044	138,804	8,188	6,325	53,338	5,582	41,689	51,074	124,786	290,982	429,786	1,409
平成27年度	305	121,719			2,648	37,097	161,464	8,533	7,193	50,422	5,539	39,385	51,811	120,922	283,805	445,269	1,460
平成28年度	306	135,343			2,778	39,034	177,155	8,948	8,144	46,734	6,954	42,460	58,786	96,920	268,946	446,101	1,458
平成29年度	305	174,022			3,560	49,692	227,274	10,424	9,968	50,769	7,469	41,291	71,797	84,568	276,286	503,560	1,651
平成30年度	305	176,544	7,296	3,795	65,884	253,519	3,393	10,020	28,837	7,121	41,986	72,164	71,944	235,465	488,984	1,603	
令和元年度	302	177,904	9,338	4,017	74,529	265,788	1,105	11,068	18,468	7,581	37,148	70,133	69,625	215,128	480,916	1,592	
令和2年度	258	118,296	4,811	3,193	33,373	159,673	816	5,929	8,091	514	4,574	47,382	30,679	97,985	257,658	999	
令和3年度	227	112,605	4,600	3,217	39,775	160,197	814	5,292	14,374	833	6,803	59,350	33,461	120,927	281,124	1,238	
令和4年度	307	170,252	7,898	3,839	73,382	255,371	1,145	8,876	14,526	2,810	18,353	85,900	61,109	192,719	448,090	1,460	
令和5年度	4	26	12,560	695	413	3,832	17,500	32	708	265	261	1,247	5,700	4,418	12,631	30,131	1,159
	5	26	14,009	634	286	4,553	19,482	327	871	2,317	262	4,467	6,854	9,452	24,550	44,032	1,694
	6	21	9,666	446	168	4,713	14,993	29	546	2,954	404	1,481	5,031	4,049	14,494	29,487	1,404
	7	26	17,285	690	395	6,808	25,178	36	1,063	634	1,095	2,007	7,365	3,645	15,845	41,023	1,578
	8	28	28,279	1,519	957	13,345	44,100	0	1,598	36	3,217	376	11,393	6,179	22,799	66,899	2,389
	9	25	14,708	403	346	8,254	23,711	236	847	1,788	325	1,430	6,956	6,608	18,190	41,901	1,676
	10	23	9,504	497	179	7,947	18,127	0	496	3,705	366	2,538	4,306	2,716	14,127	32,254	1,402
	11	26	9,960	630	227	8,554	19,371	238	637	2,861	525	2,568	5,209	4,823	16,861	36,232	1,394
	12	23	5,647	376	124	4,619	10,766	0	385	325	451	821	2,613	2,168	6,763	17,529	762
	1	25	12,308	590	292	3,238	16,428	36	672	242	152	615	4,471	4,322	10,510	26,938	1,078
	2	17	8,095	258	215	1,745	10,313	0	401	153	243	4,201	2,839	2,096	9,933	20,246	1,191
	3	27	17,465	896	614	5,078	24,053	336	1,106	0	1,075	3,428	7,577	6,354	19,876	43,929	1,627
	計	293	159,486	7,634	4,216	72,686	244,022	1,270	9,330	15,280	8,376	25,179	70,314	56,830	186,579	430,601	1,470
	1日あたり平均		13,291	636	351	6,057	20,335	106	778	1,273	698	2,098	5,860	4,736	15,548	35,883	—
開館後累計	8,776		4,086,958	41,577	102,570	1,462,100	5,693,205	279,509	154,620	1,447,474	133,889	1,024,472	1,707,721	2,345,876	7,093,561	12,786,766	1,457

(2) 学校などの利用状況

年	月	小学校		中学校		高校		特別支援		総計	
		校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
平成6年度		91	6,601	12	1,825	4	214	8	307	115	8,947
平成7年度		609	56,020	122	18,478	59	10,838	55	2,665	845	88,001
平成8年度		507	43,936	86	13,006	40	6,504	42	1,511	675	64,957
平成9年度		552	48,205	86	11,604	38	6,004	37	1,727	713	67,540
平成10年度		594	53,258	81	10,525	31	4,900	31	1,165	737	69,848
平成11年度		548	47,203	58	6,215	17	2,794	27	1,261	650	57,473
平成12年度		542	45,065	79	7,887	21	3,803	27	1,433	669	58,188
平成13年度		598	50,855	86	9,571	17	2,289	21	840	722	63,555
平成14年度		506	45,280	103	11,592	19	1,959	17	727	645	59,558
平成15年度		550	47,442	79	8,923	21	1,995	20	809	670	59,169
平成16年度		503	45,676	64	6,979	18	1,591	22	873	607	55,119
平成17年度		524	43,780	57	6,592	6	290	15	611	602	51,273
平成18年度		576	51,306	63	7,640	15	1,693	25	1,196	679	61,835
平成19年度		571	49,570	64	7,023	8	415	24	1,251	667	58,259
平成20年度		547	50,534	57	7,270	8	1,392	23	1,300	635	60,496
平成21年度		527	46,679	56	7,211	13	1,329	26	1,136	622	56,355
平成22年度		542	47,387	44	5,451	9	510	18	772	613	54,120
平成23年度		503	40,291	35	4,537	9	669	18	852	565	46,349
平成24年度		510	45,172	53	6,300	12	792	19	602	594	52,866
平成25年度		518	44,736	50	6,536	12	955	14	500	594	52,727
平成26年度		502	44,275	57	7,294	10	899	20	870	589	53,338
平成27年度		509	43,062	48	6,103	12	810	13	447	582	50,422
平成28年度		473	38,948	62	5,974	16	1,460	13	352	564	46,734
平成29年度		519	42,441	67	6,517	16	1,117	18	694	620	50,769
平成30年度		505	42,299	73	5,830	11	602	11	363	600	49,094
令和元年度		476	37,889	42	4,081	11	720	16	520	545	43,210
令和2年度		221	13,010	2	131	7	287	9	86	239	13,514
令和3年度		375	29,052	13	1,026	4	250	7	175	399	30,503
令和4年度		495	39,273	31	2,879	6	132	16	506	548	42,790
令和5年度	4	4	269	5	339	2	105	1	9	12	350
	5	46	3,234	3	447	1	47	1	37	51	3,765
	6	76	5,227	3	152	0	0	8	285	87	5,664
	7	35	2,467	0	0	1	26	3	81	39	2,574
	8	16	935	0	0	1	14	0	0	17	949
	9	81	6,778	1	226	2	144	3	98	87	7,246
	10	119	9,431	1	8	2	10	4	99	126	9,548
	11	116	9,080	3	293	1	32	2	75	122	9,480
	12	51	3,910	0	0	1	17	1	18	53	3,945
	1	17	1,113	0	0	1	5	0	0	18	1,118
	2	10	486	1	81	0	0	0	0	11	567
	3	5	370	2	237	0	0	0	0	7	607
	計	576	43,300	19	1,783	12	400	23	702	630	46,185
開館後累計		15,069	1,282,545	1,749	206,783	482	57,613	635	26,253	17,935	1,573,194

(3) 企画展の入館状況

企画展名		いのちの色 －世界をいろどる生きものたち－		うんち展 －あなたの知らない自然のしくみ－		地衣類展 －木を、岩を、地面を彩る身近な生きもの－		恐竜 VS 哺乳類展 －化石から読み解く進化の物語－		企画展以外の期間		合 計	
会期	(延べ日数)	4/1 ～ 6/11(63)		7/8 ～ 9/18(64)		10/7 ～ 1/21(88)		3/2 ～ 3/31(36)		(52)		(304)	
有料	一般	31,167	35.0%	54,309	41.4%	33,467	32.9%	17,384	40.6%	23,162	35.3%	159,489	37.0%
	高齢者	1,499	1.7%	2,373	1.8%	1,894	4.3%	846	4.5%	1,022	1.6%	7,634	4.1%
	高校大学生	792	0.9%	1,566	1.2%	758	0.7%	611	1.4%	489	0.7%	4,216	1.0%
	小・中学生	10,142	11.4%	23,413	17.8%	21,681	21.3%	5,078	11.9%	12,373	18.8%	72,687	16.9%
	計	43,600	48.9%	81,661	62.2%	57,800	56.7%	23,919	55.9%	37,046	56.4%	244,026	56.7%
無料	高齢者	388	0.4%	263	0.2%	274	0.3%	336	0.8%	9	0.0%	1,270	0.3%
	身障者等	1,855	2.1%	3,187	2.4%	1,991	2.0%	1,104	2.6%	1,193	1.8%	9,330	2.2%
	学校教育	4,049	4.5%	884	0.7%	6,391	6.3%	0	0.0%	3,956	6.0%	15,280	3.5%
	福祉施設	605	0.7%	4,433	3.4%	1,391	1.4%	1,002	2.3%	945	1.4%	8,376	1.9%
	未就学児等	21,586	24.2%	26,351	20.1%	20,811	20.4%	10,075	23.6%	16,670	25.4%	95,493	22.2%
	その他	17,006	19.1%	14,424	11.0%	13,219	13.0%	6,343	14.8%	5,834	8.9%	56,826	13.2%
計		45,489	51.1%	49,542	37.8%	44,077	43.3%	18,860	44.1%	28,607	43.6%	186,575	43.3%
合 計		89,089	100.0%	131,203	100.0%	101,877	100.0%	42,779	100.0%	65,653	100.0%	430,601	100.0%

2 アンケート調査による入館者の状況

Summary Analysis of Questionnaires on Visitor's Background

当館では、一般来館者の動向を把握するため、定期的なアンケート調査を実施した。この調査の結果は、博物館の運営に反映させていくため、博物館協議会や繁忙期対策会議などの資料として活用している。

(1) 調査方法

いのちの色展：記入式アンケート用紙を館内2箇所を設置。
うんち展以降：Google フォーム

(2) 調査項目

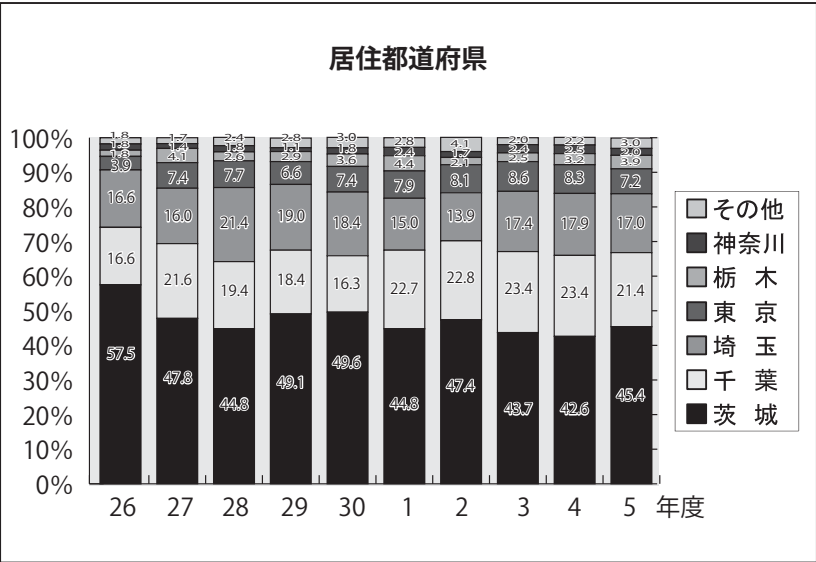
入退館時間、居住地、年齢、性別、同伴者、来館回数、博物館へ何度も来る理由（再来館者対象）など。

(3) 回答数

2,836件

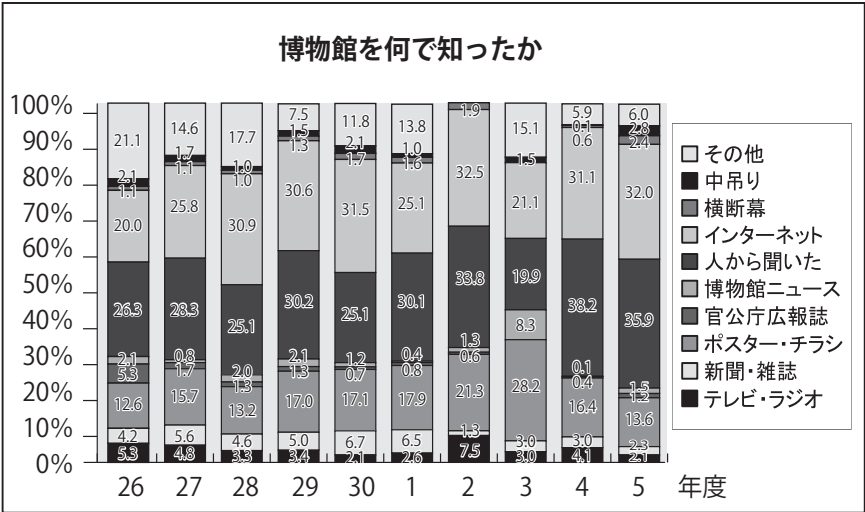
○都道府県別回答者数

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
茨 城	250	57.5	547	47.8	485	44.8	690	49.1	997	49.6	847	44.8	517	47.4	871	43.7	1,192	42.6	1,287	45.4
千 葉	72	16.6	247	21.6	210	19.4	258	18.4	327	16.3	430	22.7	248	22.8	465	23.4	655	23.4	606	21.4
埼 玉	72	16.6	183	16.0	232	21.4	267	19.0	370	18.4	283	15.0	151	13.9	346	17.4	502	17.9	483	17.0
東 京	17	3.9	85	7.4	83	7.7	92	6.6	148	7.4	149	7.9	88	8.1	172	8.6	231	8.3	205	7.2
栃 木	8	1.8	47	4.1	28	2.6	41	2.9	72	3.6	83	4.4	23	2.1	49	2.5	90	3.2	112	3.9
神奈川	8	1.8	16	1.4	19	1.8	16	1.1	37	1.8	46	2.4	18	1.7	48	2.4	69	2.5	58	2.0
その他	8	1.8	19	1.7	26	2.4	40	2.8	61	3.0	53	2.8	45	4.1	40	2.0	61	2.2	85	3.0
計	435	100.0	1,144	100.0	1,083	100.0	1,404	100.0	2,012	100.0	1,891	100.0	1,090	100.0	1,991	100.0	2,800	100.0	2,836	100.0
[その他] の内訳	福岡 静岡 福島 愛知 群馬 岐阜 三重 兵庫		北海道 群馬 愛知 沖縄		北海道 宮城 新潟 福島 群馬 山梨 愛知 大阪 兵庫 福岡		愛知 岐阜 福島 群馬 長野 宮城 大阪		北海道 山形 宮城 福島 群馬 長野 静岡 愛知 福岡		北海道 宮城 群馬 長野 愛知		福島 静岡 愛知 鹿児島 北海道 宮城 山梨 大阪 富山		群馬 宮城 福島 長野 静岡 山梨		群馬 福島 山梨 長野 静岡 新潟		新潟 福島 群馬 兵庫 山梨 奈良 福岡 大阪 沖縄 長野 高知	



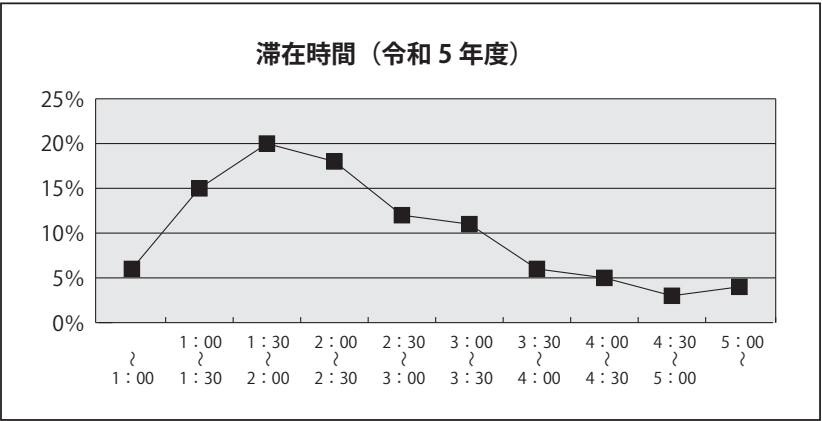
○博物館を何で知ったか

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度	
	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
テレビ・ラジオ	5	5.3	17	4.8	13	3.3	18	3.4	12	2.1	13	2.6	12	7.5	10	3.0	28	4.1	18	2.1
新聞・雑誌	4	4.2	20	5.6	18	4.6	26	5.0	39	6.7	32	6.5	2	1.3	10	3.0	20	3.0	19	2.3
ポスター・チラシ	12	12.6	56	15.7	52	13.2	89	17.0	99	17.1	88	17.9	34	21.3	95	28.2	111	16.4	115	13.6
官公庁広報誌	5	5.3	6	1.7	5	1.3	7	1.3	4	0.7	4	0.8	1	0.6	0	0.0	3	0.4	10	1.2
博物館ニュース	2	2.1	3	0.8	8	2.0	11	2.1	7	1.2	2	0.4	2	1.3	28	8.3	1	0.1	13	1.5
人から聞いた	25	26.3	101	28.3	99	25.1	158	30.2	145	25.1	148	30.1	54	33.8	67	19.9	258	38.2	303	35.9
インターネット	19	20.0	92	25.8	122	30.9	160	30.6	182	31.5	123	25.1	52	32.5	71	21.1	210	31.1	270	32.0
横断幕	1	1.1	4	1.1	4	1.0	7	1.3	10	1.7	8	1.6	3	1.9	0	0.0	4	0.6	20	2.4
中吊り	2	2.1	6	1.7	4	1.0	8	1.5	12	2.1	5	1.0	0	0.0	5	1.5	1	0.1	24	2.8
その他	20	21.1	52	14.6	70	17.7	39	7.5	68	11.8	68	13.8	0	0.0	51	15.1	40	5.9	51	6.0
合計	95	100.0	357	100.0	395	100.0	523	100.0	578	100.0	491	100.0	160	100.0	337	100.0	676	100.0	843	100.0



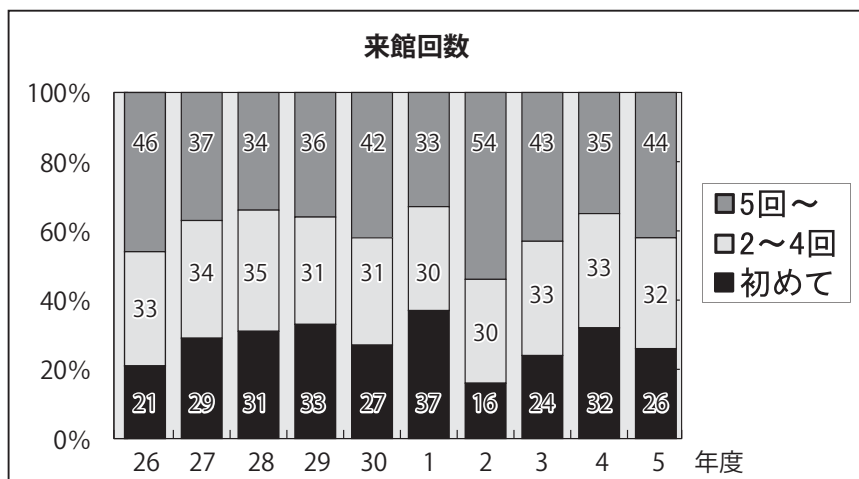
○滞在時間

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度	
	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
～1:00	7	2%	19	2%	62	6%	41	8%	84	5%	67	4%	46	4%	77	4%	149	6%	170	6%
1:00～1:30	35	10%	67	7%	94	9%	25	5%	178	12%	190	11%	150	14%	278	15%	248	10%	409	15%
1:30～2:00	37	11%	130	13%	168	17%	42	8%	136	9%	173	10%	113	11%	209	11%	469	18%	550	20%
2:00～2:30	59	17%	180	18%	113	11%	159	29%	298	19%	270	16%	223	21%	429	23%	509	20%	506	18%
2:30～3:00	29	8%	123	12%	223	22%	38	7%	176	11%	191	11%	133	13%	225	12%	296	12%	346	12%
3:00～3:30	53	15%	141	14%	81	8%	33	6%	197	13%	235	14%	133	13%	200	11%	344	13%	307	11%
3:30～4:00	23	7%	58	6%	106	11%	23	4%	109	7%	139	8%	79	8%	134	7%	172	7%	167	6%
4:00～4:30	30	9%	102	10%	44	4%	16	3%	110	7%	154	9%	64	6%	93	5%	135	5%	128	5%
4:30～5:00	16	5%	56	6%	37	4%	16	3%	66	4%	87	5%	40	4%	104	6%	108	4%	84	3%
5:00～	54	16%	132	13%	81	8%	149	27%	182	12%	228	13%	65	6%	122	7%	129	5%	119	4%
合計	343	100%	1,008	100%	1,009	100%	542	100%	1,536	100%	1,734	100%	1,046	100%	1,871	100%	2,559	100%	2,786	100%



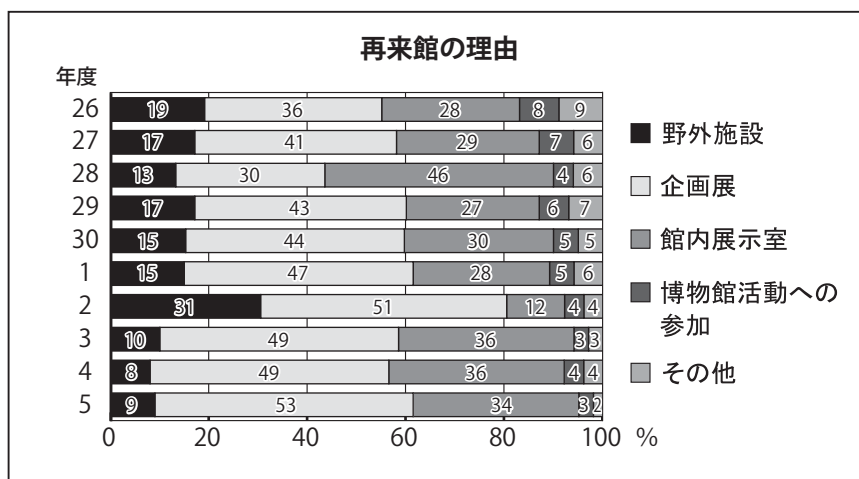
○来館回数

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
初 め て	90	21%	332	29%	335	31%	413	33%	537	27%	497	37%	173	16%	412	24%	897	32%	727	26%
2 ～ 4 回	147	33%	398	34%	369	35%	388	31%	613	31%	398	30%	321	30%	575	33%	950	33%	912	32%
5 回 以 上	202	46%	431	37%	364	34%	460	36%	822	42%	449	33%	588	54%	750	43%	999	35%	1,195	42%
合 計	439	100%	1,161	100%	1,068	100%	1,261	100%	1,972	100%	1,344	100%	1,082	100%	1,737	100%	2,846	100%	2,834	100%



○博物館へ何度も来る理由（再来館者対象・複数回答）

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
野 外 施 設	95	19%	204	17%	74	13%	225	17%	284	15%	305	15%	412	31%	240	10%	310	8%	284	9%
企 画 展	185	36%	509	41%	165	30%	590	43%	832	44%	961	47%	682	51%	1,136	49%	1,898	49%	1,748	53%
館 内 展 示 室	143	28%	356	29%	253	46%	373	27%	579	30%	568	28%	159	12%	833	36%	1,405	36%	1,115	34%
博物館活動への参加	40	8%	89	7%	24	4%	82	6%	104	5%	105	5%	48	4%	67	3%	142	4%	85	3%
そ の 他	45	9%	78	6%	35	6%	90	7%	104	5%	118	6%	49	4%	60	3%	157	4%	70	2%
合 計	508	100%	1,236	100%	551	100%	1,360	100%	1,903	100%	2,057	100%	1,350	100%	2,336	100%	3,912	100%	3,302	100%



3 博物館日誌（令和5年度）

Museum Calendar 2023-2024

月	日	項 目
4	1	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	2	・サンデーサイエンス「動物のちぎり絵をつくろう」（4月毎日曜日）
	2	・友の会会員限定イベント「博物館でお花見会&地衣類観察会！」
	15	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	16	・ジュニア学芸員養成講座 開講式
	22	・自然ラボ（講座）「スペクトルから宇宙を知る」
	26	・移動博物館（茨城県立図書館）（～5月10日）
5	4	・サイエンスデー（生物・科学の日）（無料入館日）
	7	・サンデーサイエンス「木の葉の化石を見つけよう」（5月毎日曜日）
	13	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	13	・自然ラボ（講座）「企画展「いのちの色」見所紹介」（いのちの色展記念イベント）
	13	・子ども自然教室「博物館で春の昆虫を観察しよう」
	14	・ジュニア学芸員養成講座
	14	・ミニ移動博物館（常総千姫まつり、常総市市民の広場）
	20	・自然ラボ（観察会）「磯の動物を観察しよう」
	20	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	20	・第86回企画展「いのちの色」10万人達成記念式典
	21	・自然ラボ（観察会）「白亜紀の海の地層を観察しよう」
	27	・自然ラボ（観察会）「タチスミレを観察しよう」
	27	・わくわくディスカバリー「釣れるかな？カラフルさかなつり」
	27	・ボランティア総会
6	3	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	3	・ミニ移動博物館（歴史館まつり、茨城県立歴史館）
	4	・サンデーサイエンス「葉脈標本をつくろう」（6月毎日曜日）
	4	・サイエンスデーイベント
	5	・サイエンスデー（地球・科学の日）（無料入館日）
	10	・子ども自然教室「新緑の森、見て触って、たくさんの自然を探そう（ネイチャーゲーム）」
	11	・第86回企画展「いのちの色」最終日（2/18～）
	11	・ジュニア学芸員養成講座
	17	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	20	・臨時休館＜館内燻蒸＞（～6/23）
	24	・わくわくディスカバリー「鳥のプラバンキーホルダーをつくろう」
7	1	・自然ラボ（観察会）「キノコを観察しよう」
	1	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	2	・ミニ移動博物館（観光物産協会茨城観光キャンペーン、イオンレイクタウン越谷）
	2	・サンデーサイエンス「星座早見盤をつくろう」（7月毎日曜日）
	5	・移動博物館（茨城県立協和特別支援学校）（～7月11日）
	8	・第87回企画展「うんち無しでは生きられない！」内覧会及び一般公開（～9/18）
	15	・理科自由研究のヒントを見つけよう
	15	・ジュニア学芸員養成講座
	15	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	16	・友の会会員限定イベント「うんち展を100倍楽しむ！うんち展のここを見て！」
	17	・海の日特別イベント
	17	・サイエンストーク「恐竜がいたころの植物」
	22	・わくわくディスカバリー「さざれ石でつくろうアンモナイトアート」
	22	・ミニ移動博物館（TPカンパニーミニ移動博物館、イオンモールつくば）（～7/23）
	22	・自然ラボ（講座）
	23	「フィールドでとことんうんちを見る！集める！一観察と分析からわかることー」（うんち展記念イベント）
		・自然ラボ（講座）
	30	「うんち無しでは生きられないあなたへ！企画展の見所紹介」（うんち展記念イベント）
8	2	・サイエンストーク「てくてく歩いてシダをめくる」
	5	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	5	・ジュニア学芸員養成講座 中間報告会（オンライン）
	5	・子ども自然教室「ちりめんモンスター図鑑をつくろう」
	6	・サンデーサイエンス「藍染め体験をしよう」（8月毎日曜日）
	11	・山の日特別イベント
	19	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	20	・ジュニア学芸員養成講座
	23	・移動博物館（ひたちなか市津田コミュニティセンター）（～8/29）
	26	・わくわくディスカバリー「プラバンでつくろう夏の昆虫標本」
	27	・サイエンストーク「ツキノワグマのうんちを調べてみたら」
	29	・第87回企画展「うんち無しでは生きられない！」10万人達成記念式典
9	2	・自然ラボ（観察会）「雲を観察しよう」
	3	・サンデーサイエンス「動物のうんちをつくろう」（9月毎日曜日）
	5	・博物館実習（～15日）
	8	・移動博物館（笠間市立岩間第三小学校）（～9月13日）
	16	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	16	・友の会会員限定イベント「シダってワンダーランド！」
	18	・第87回企画展「うんち無しでは生きられない！」最終日（7/8～）
	22	・移動博物館（土浦市立新治学園義務教育学校）（～9月28日）
	23	・わくわくディスカバリー「リサイクル！牛乳パックで手作りはがき」
	24	・ジュニア学芸員養成講座 研究報告会・認定式



「いのちの色」展10万人達成式典

Celebration of 100,000 Visitors to the 86th Special Exhibition



「うんち無しでは生きられない！」展内覧会

Private Viewing of The 87th Special Exhibition



ミニ移動博物館

Mini mobile museum



「うんち無しでは生きられない！」展10万人達成式典

Celebration of 100,000 Visitors to the 87th Special Exhibition

月 日	項 目
10 1	・サンデーサイエンス「ドングリごまをつくろう」(10月毎日曜日)
5	・移動博物館(常総市立図書館)(～10/12)
7	・第88回企画展「地衣類」内覧会及び一般公開(～1/21)
7	・ネイチャーガイド(第3週以外の土曜日)
9	・自然ラボ(講座)「先生!地衣類ってなんですか?!(地衣類展記念イベント)」
13	・移動博物館(石岡市立関川小学校)(～10/19)
14	・子ども自然教室「身近な植物で押し葉絵をつくろう」
15	・サイエンストーク「恐竜時代のサメたち」
15	・友の会会員限定イベント「博物館で化石や鉱物を探そう!」
21	・ふれあい野外ガイド(毎月第3土曜日)
22	・ミニ移動博物館(あすなろの秋祭り、水海道あすなろの里)
25	・移動博物館(那珂市立瓜連小学校)(～10/31)
27	・不審文書による臨時休館(～10/29)
11 3	・自然ラボ(講座)「となりの地衣類―ゲッチョ先生の地衣類観察のすすめ―」(地衣類展記念イベント)
4	・ネイチャーガイド(第3週以外の土曜日)
5	・アミューズデー(博物館創立記念)「折り紙で恐竜のちぎり絵をつくろう!」(友の会との共催)
5	・サンデーサイエンス「貝化石の観察をしよう」(11月毎日曜日)
11	・自然ラボ(観察会)「石切り山脈見学ツアー」
11	・子ども自然教室「いろいろな落ち葉を使って、たくさんの自然を楽しもう(ネイチャーゲーム)」
11	・ミニ移動博物館(アウトドア体験イベント海・花そとあそび2023、ひたち海浜公園)
11	・わくわくディスカバリー「とびだすキノコのグリーティングカード」
13	・サイエンスデー(茨城・科学の日)無料入館日、サイエンスデーイベント
18	・ふれあい野外ガイド(毎月第3土曜日)
19	・ミニ移動博物館(さしまの森紅葉祭、さしま少年自然の家)
25	・わくわくディスカバリー「動物指パペット～うさぎ編～」
30	・第1回博物館協議会
12 1	・友の会会員限定クリスマスイベント「ミニサンタを探せ!」(～12/26)
2	・ネイチャーガイド(第3週以外の土曜日)
2	・ミニ移動博物館(すくすく子育てフェスタ、イーアスつくば)
2	・友の会会員限定イベント「星たちが踊る twilight」
3	・サンデーサイエンス「地衣類ストラップをつくろう」(12月毎日曜日)
9	・自然ラボ(講座)「みてみよう!いきものミクロ☆たんけん隊」
9	・子ども自然教室「土のペンダントをつくろう」
16	・ふれあい野外ガイド(毎月第3土曜日)
22	・第2回事業者連絡協議会
23	・自然ラボ(講座)「南極せんせいのメッセージ」
28	・年末・年始休館(～1/1)
1 2	・新年開館
2	・お正月イベント(～1/3)
6	・ネイチャーガイド(第3週以外の土曜日)
7	・サンデーサイエンス「水の生きものの樹脂標本をつくろう」(1月毎日曜日)
13	・自然ラボ(観察会)「菅生沼で野鳥を観察しよう」
17	・移動博物館(結城市立江川南小学校)(～1/24)
20	・ふれあい野外ガイド(毎月第3土曜日)
20	・ボランティア記念日
20	・友の会会員限定イベント「博物館で野鳥をみつけよう!」
21	・自然ラボ(観察会)「野焼きがタチスミレを救う」(中止)
21	・ボランティア養成講座
21	・第88回企画展「地衣類」10万人達成記念式典
21	・第88回企画展「地衣類」最終日(10/7～)
2 2	・移動博物館(茨城県立水戸特別支援学校)(～2/8)
3	・ネイチャーガイド(第3週以外の土曜日)
4	・サンデーサイエンス「タカアシガニのお面をつくろう」(2月第1、第4日曜日)
9	・ミニ移動博物館(TX PLAZA 秋葉原)(～2/12)
10	・高圧受電設備更新工事による臨時休館(～2/19)
15	・移動博物館(ひたちなか市立佐野中学校)(～2/21)
17	・ふれあい野外ガイド(毎月第3土曜日)
23	・子ども自然教室「冬の博物館で野鳥を探そう」
24	・サイエンストーク「霞ヶ浦が危ない!外来植物オオバナミズキンバイ」
3 2	・第89回企画展「恐竜 vs 哺乳類」内覧会及び一般公開(～6/9)
2	・ネイチャーガイド(第3週以外の土曜日)
3	・サンデーサイエンス「木の葉の化石を見つかけよう」(3月毎日曜日)
9	・子ども自然教室「化石をスケッチしてみよう」
9	・ミニ移動博物館(TP カンパニーミニ移動博物館、イオンモール土浦)(～3/10)
10	・友の会会員限定イベント「ちはやふる恐竜かるた大会」
12	・第2回博物館協議会
16	・ふれあい野外ガイド(毎月第3土曜日)
16	・サイエンストーク「茨城にはミツバチ以外にどんなハナバチがいるか」
20	・サイエンスデー(宇宙・科学の日)無料入館日、サイエンスデーイベント
23	・自然ラボ(講座)「コーパルをみがこう」
24	・自然ラボ(講座)「日本の化石で古生物水族館をつくろう」(恐竜 vs 哺乳類展記念イベント)



「地衣類」展内覧会

Private Viewing of The 88th Special Exhibition



「地衣類」展10万人達成式典

Celebration of 100,000 Visitors to the 88th Special Exhibition



「恐竜 vs 哺乳類」展オープニングセレモニー

The 89th Special Exhibition's Opening Ceremony



サイエンスデー

Science Day Event

Ⅲ 管理運営

Organization and Management

1 組織

Staff and Structure

茨城県自然博物館組織図（令和6年3月31日現在）

館 長 横山一己			
副 館 長 湯浅友明			
<u>管 理 課</u> 管理課長 江原章子 主査 高橋 慎 係長 平川正樹 主事 篠崎 樹 " 根本璃久 主査 佐藤浩二郎 副主査 山中加津代 " 塚田芳美 8 人	<u>企 画 課</u> 企画課長 岸川将史 首席学芸員（学芸総括） 小池 涉（地学） 係長 井土ひろみ 主任 田宮奈津美 主事 仁平可那子 主査 新谷 勝 " 栗栖宣博（植物） " 石塚武彦（動物） 副主査 池田洋子 9 人	<u>教 育 課</u> 教育課長 国府田誠一（植物） 首席学芸主事 佐藤一康（地学） 主任学芸主事 稲葉義智（植物） " 佐野拓哉（動物） " 北澤佑子（動物） 主任学芸員 鵜沢美穂子（植物） 主査 寺田和央（植物） " 木村 靖（動物） " 土田十司作（地学） " 滝本秀夫（地学） " 村田一弘（地学） " 服部仁一（植物） 主事 鈴木栄恵（植物） 13 人	<u>資 料 課</u> 資料課長 池澤広美（動物） 首席学芸主事 福田 孝（植物） " 吉川広輔（地学） 主任学芸主事 石塚勇太（地学） " 漆原英明（動物） " 鈴木亮輔（植物） 副主任学芸員 後藤優介（動物） " 加藤太一（地学） " 伊藤彩乃（植物） 主査 横島 彰（動物） " 久松正樹（動物） " 高橋 淳（地学） 12 人
展示解説員 21 人 飯倉美波 岩本静夏 木村弥生 滝本麻衣子 羽田茉莉乃 真柄紫保 吉田真弓 井口結賀 小野田裕介 栗崎香菜 龍田 愛 原田紗里 森田麻友 渡部花歩 石川優里 木下春菜 坂本由香理 中村優太 昼間佳奈子 森田勝也 渡辺優子			学芸補助員 3 人 飯田勝明（植物） 真中幸子（動物） 松尾武祥（地学） 事務支援員 1 人 林 倫江 事務職員 1 人 染谷佑香

*（ ）内は、各学芸系職員の所属研究室を示す。

2 予算・決算

Financial Summary

(1) 令和5年度歳入状況

(単位：円)

科 目	内 訳	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	備 考
使用料および 手数料	入館料	118,952,090	118,954,490	0	0	
	行政財産使用料	5,348,897	5,348,897	0	0	
	小 計	124,300,987	124,303,387	0	0	
諸収入		2,431,941	2,431,941	0	0	
合 計		126,732,928	126,732,928	0	0	

(2) 令和5年度歳出予算

自然博物館費

(単位：千円)

事 業 名			予 算 額	備 考
管理運営費	管理運営費	会計年度任用職員雇用等経費	76,505	会計年度任用職員雇用経費 館内清掃，警備，設備運転等 ごみ収集，浄化槽汚泥抜等 電気料，水道料等 事務経費
		施設設備保守管理委託経費	221,480	
		管理に付随する各種手数料	3,900	
		光熱水費	87,190	
その他の事務費		25,705		
	小計	414,780		
	自然博物館協議会費	自然博物館協議会費	305	委員報酬，旅費
	管理運営費計		415,085	
展示事業費	常設展費	常設展費	23,032	展示メンテナンス委託料等
	企画展費	第86回企画展費	1,111	色展
		第87回企画展費	26,066	うんち展
		第88回企画展費	23,487	地衣類展
		第89回企画展費	24,285	恐竜 vs 哺乳類展
		次年度以降企画展準備費	10,167	シダ展 等
	小計	85,116		
展示事業費計		108,148		
資料整備費	資料整備費	資料整備費	16,052	
	資料管理費	資料管理費	9,258	
	学術調査研究費	学術調査研究費	4,313	
	資料整備費計		29,623	
教育普及費	教育普及事業費	教育普及事業費	3,037	学校教育・社会教育と連動した教育 普及活動費
	教育普及費計		3,037	
企画広報費	広報活動事業費	広報活動事業費	1,214	広告代、パンフレット印刷代等
	企画広報費計		1,214	
合計			557,107	

3 施設整備など

Facility Maintenance

(1) 主な施設整備

番号	整備名称	整備内容
1	高圧盤ほか更新	経年劣化した高圧線、受電盤ほかを更新
2	野外管理棟収蔵倉庫設置	野外管理棟に収蔵倉庫を設置
3	水系展示施設チラー空熱交換器改修	破損したチラー空熱交換器を改修
4	野外木製階段改修	木製の基礎を鉄骨に、腐食した踏板を新しいものに改修
5	野外園路改修	経年劣化した園路の自然石舗装をアスファルト舗装に改修

(2) 管理運営委託事業一覧

番号	委託事業名	委託先	委託期間	委託内容
1	機械警備業務	セコム(株)	H31. 4. 1 ~ R6. 3.31	本館、自然発見工房および野外券売所の機械警備
2	常駐警備業務	東京警備保障(株)	R4. 4. 1 ~ R7. 3.31	本館、自然発見工房および野外施設の警備業務
3	設備運転保守管理業務	(株)オーチュア茨城支店	R4. 4. 1 ~ R7. 3.31	電気、空調、給排水設備の運転・保守管理および環境衛生管理業務
4	館内清掃業務	(株)セントラル	R5. 4. 1 ~ R6. 3.31	本館、自然発見工房および野外券売所の清掃業務
5	エレベーター保守点検業務	(株)日立ビルシステム東関東支社	R3. 4. 1 ~ R6. 3.31	本館内各種エレベーターの保守点検業務
6	自動扉開閉装置保守点検業務	茨城寺岡オート・ドア(株)	R3. 4. 1 ~ R6. 3.31	自動扉の定期点検業務
7	消防設備保守点検業務	高橋興業(株)	R3. 4. 1 ~ R6. 3.31	火災報知設備、消火設備の保守点検業務
8	合併浄化槽維持管理業務	(株)アビック	R3. 4. 1 ~ R6. 3.31	合併浄化槽の運転管理および処理水の水質検査業務
9	水系展示施設水処理設備保守点検業務	荏原実業(株)茨城営業所	R3. 4. 1 ~ R6. 3.31	水系展示用循環浄化装置などの保守点検業務
10	水系展示水槽管理業務	(公財) いばらき文化振興財団	R5. 4. 1 ~ R6. 3.31	水系展示用魚類の飼育および水槽設備管理業務
11	空調設備および自動制御機器保守点検業務	(株)サイオー	R3. 4. 1 ~ R6. 3.31	空調設備の保守点検業務
12	自動券売機保守点検	(株)エルコム	R4. 4. 1 ~ R7. 3.31	自動券売機保守点検業務
13	野外施設管理設計積算および施工管理業務	(一財) 茨城県建設技術公社	R5. 4. 1 ~ R6. 3.31	野外施設管理業務(設計積算)および施工管理業務
14	野外施設管理業務(第1工区)	(有)条伸建設	R5. 4. 1 ~ R6. 3.31	野外施設の管理業務(第1工区)
15	野外施設管理業務(第2工区)	(株)古谷植物園	R5. 4. 1 ~ R6. 3.31	野外施設の管理業務(第2工区)
16	野外施設管理業務(第3工区)	(有)中山造園土木	R5. 4. 1 ~ R6. 3.31	野外施設の管理業務(第3工区)
17	野外施設管理業務(第4工区)	常緑工業(株)	R5. 4. 1 ~ R6. 3.31	野外施設の管理業務(第4工区)
18	野外施設管理業務(第5工区)	(株)岩井造園土木	R5. 4. 1 ~ R6. 3.31	野外施設の管理業務(第5工区)
19	収蔵庫・展示室の環境調査業務	(株)フミテック	R5. 5.19 ~ R6.12.14	収蔵庫・展示室の環境調査業務
20	収蔵庫の燻蒸業務	関東港業(株)	R5. 5.19 ~ R5. 9.11	動物・植物収蔵庫ほかの燻蒸業務
21	燻蒸釜保守点検業務	I P Mサポート(株)	R5. 9.15 ~ R6. 3.31	燻蒸室の燻蒸釜保守点検業務

4 博物館協議会

Trust Committee

(1) 博物館協議会開催状況

- ・令和5年度第1回博物館協議会
期 日：令和5年11月30日（木）
場 所：自然博物館セミナーハウス（ルーム A）
出席者：委員8人、事務局
議 題：①令和5年度前期事業の報告について
②令和5年度後期事業計画について
③予算・決算などについて

- ・令和5年度第2回博物館協議会
期 日：令和6年3月12日（火）
場 所：自然博物館講座室
出席者：委員9人、事務局
議 題：①令和5年度後期事業の報告について
②令和6年度事業計画について
③予算・決算などについて

(2) 博物館協議会委員名簿

令和6年3月31日現在（敬称略・五十音順）

委員氏名	役 職 等	住 所
石 田 奈緒子	首都圏新都市鉄道株式会社 常務取締役	笠間市
江 幡 和 代	茨城県教育研究会理科教育研究部 部長 水戸市立笠原小学校 校長	水戸市
海老原 里 美	茨城県国公立幼稚園・子ども園長会副会長 坂東市立猿島幼稚園 園長	坂東市
柏 孝 子	公募委員	取手市
坂 本 和 弘	元東京都葛西臨海水族園 園長	埼玉県さいたま市
杉 山 重 雄	一般社団法人茨城県子ども会育成連合会 副理事長	筑西市
高 尾 戸 美	合同会社マープルワークショップ 代表 日本ミュージアム・マネージメント学会 関東支部長	岡山県倉敷市
○生田目 美 紀	京都女子大学 教授 筑波技術大学 名誉教授	京都府京都市
◎樋 口 正 信	国立科学博物館 名誉研究員 元国立科学博物館植物研究部長、元筑波実験植物園長	つくば市
藤 咲 富士子	一般社団法人ガールスカウト茨城県連盟 副連盟長	那珂市
宮 本 愛 子	日本放送協会水戸放送局 局長	水戸市
吉 富 友 恭	東京学芸大学 教授	東京都小平市
鷲 田 美 加	株式会社 RION 代表取締役	取手市

◎委員長 ○副委員長

5 資料評価委員会

Material Appraisal Committee

(1) 資料評価委員会名簿

令和6年3月31日現在（敬称略・分野別五十音順）

分 野	氏 名	所 属 ・ 職 名
動 物	山 田 文 雄	沖縄大学 客員教授 沖縄大学地域研究所 特別研究員
	山 根 爽 一	茨城県生物多様性センター長 茨城大学 名誉教授
植 物	遠 藤 泰 彦	茨城大学 名誉教授
	中 村 俊 彦	放送大学 客員教授 (元 千葉県立中央博物館副館長併任 千葉県生物多様性センター 副技監)
地 学	安 藤 寿 男	茨城大学 名誉教授 茨城大学理学部 / 理工学研究科（理学野）地球環境科学領域 特命研究員
	真 鍋 真	国立科学博物館 副館長 兼標本資料センターコレクションディレクター 兼 分子生物多様性研究資料センター長 群馬県立自然史博物館 特別館長

6 助言者会議

Advisory Committee

(1) 助言者会議実施状況

- ・令和5年度資料評価委員会・助言者会議（調査研究の部）合同会議

日 時：令和5年6月8日（木）

場 所：自然博物館セミナーハウス（ルーム A）

出席者：助言者9人、事務局

議 題：

- ①令和4年度の事業報告
- ②令和5年度の事業計画
- ③その他

- ・令和5年度助言者会議（教育普及の部）

日 時：令和5年7月26日（水）

場 所：自然博物館セミナーハウス（ルーム A）

出席者：助言者9人（オンラインでの参加4人）、事務局

議 題：

- ①令和4年度重点事業の実施報告
- ②令和5年度の重点事業
- ③その他

(2) 助言者会議名簿

【教育普及（EDUCATION ADVISOR）】

令和6年3月31日現在（敬称略・五十音順）

No.	氏 名	所 属 ・ 職 名	分 野
1	江 幡 和 代	水戸市立笠原小学校 校長 茨城県教育研究会理科教育研究部 部長	理科教育（小中）
2	大 高 泉	筑波大学 名誉教授	理科教育・環境教育
3	片 平 克 弘	筑波大学 名誉教授	理科教育
4	郡 司 晴 元	茨城大学 教育学部 人間環境教育課程 准教授	博物館運営
5	斎 須 久 依	茨城大学教育学部附属幼稚園 副園長	幼児教育
6	佐 藤 留 美	特定非営利活動法人 NPO birth（バース） 事務局長	環境教育・市民活動
7	中 川 卓 浩	茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事	理科教育
8	中 村 千 秋	茨城県立つくば特別支援学校 校長	特別支援
9	蛭 田 清 孝	茨城県立日立第二高等学校 校長 茨城県高等学校教育研究会 生物部部长	理科教育（高等学校）
10	福 田 洋 子	公益社団法人全国幼児教育研究協会茨城支部 参与	幼児教育
11	牧 島 雄 一	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 課長補佐	生涯学習

【調査研究（RESEARCH ADVISOR）】

令和6年3月31日現在（敬称略・分野別五十音順）

分野	氏 名	所 属 ・ 職 名	分 野
動物	加 納 光 樹	茨城大学地球・地域環境共創機構 水圏環境フィールドステーション 准教授	保全生物学（魚類）
	森 野 浩	茨城大学 名誉教授	動物系統分類学（水生無脊椎動物、特に甲殻類）
	山 田 文 雄	沖縄大学 客員教授 沖縄大学地域研究所 特別研究員	動物生態学、保全生物学（哺乳類）
	山 根 爽 一	茨城県生物多様性センター長 茨城大学 名誉教授	動物生態類学・行動学（特に昆虫）
植物	伊 村 智	国立極地研究所 副所長	植物生態学（コケ植物）
	遠 藤 泰 彦	茨城大学 名誉教授	植物分類学、植物系統学（維管束植物）
	岡 部 宏 秋	元森林総合研究所 森林微生物研究領域微生物生態研究室 室長	森林生態学（特に菌類）
	中 村 俊 彦	放送大学 客員教授（元 千葉県立中央博物館 副館長併任 千葉県生物多様性センター 副技監）	植物生態学（維管束植物）
地学	安 藤 寿 男	茨城大学 名誉教授 茨城大学理学部 / 理工学研究科（理分野）地球環境科学領域 特命研究員	層序・古生物学、地質学
	門 馬 綱 一	国立科学博物館地学研究部鉱物科学研究グループ 研究主幹	鉱物学、結晶学
	鈴 木 毅 彦	東京都立大学都市環境学部 教授	第四紀学、地形学
	真 鍋 真	国立科学博物館 副館長 兼標本資料センターコレクションディレクター 兼分子生物多様性研究資料センター長 群馬県立自然史博物館 特別館長	古生物（脊椎動物）

施設概要

(1) 工事関係

- ① 設計 仙田 満＋(株)環境デザイン研究所
- ② 管理
建築・展示 仙田 満＋(株)環境デザイン研究所
野外 (財)茨城県建設技術公社・仙田 満
＋(株)環境デザイン研究所

③ 施工

第1工区

- ア 建築 大成・武藤・正栄 J V
- イ 電気 和光・三光 J V
- ウ 空調衛生 須賀・小島 J V

第2工区

- ア 建築 大林・日産・小薬 J V
- イ 電気 六興・共和 J V
- ウ 空調衛生 菱和・関彰 J V
- 昇降機 日立東ビルシステム販売(株)
- 浄化槽 大日本インキ化学工業(株)
- 展示工事 (株)丹青社

外構工事

- 第1工区 正栄工業(株)
- 第2工区 (株)三和建設
- 野外施設 (株)中村組他34社
- 自然観察遊歩道橋架橋工事
- 上部工 (株)フジタ
- 下部工 川田建設(株)

- ④ 建設事業費 18,883百万円
- 用地購入費 1,271百万円
- 本館建設工事費 7,864百万円
- 展示工事費 2,997百万円
- 資料整備費 1,252百万円
- 野外施設工事費 2,789百万円
- 遊歩道橋架橋工事費 923百万円
- 自然発見工房工事費 150百万円
- 進入道路工事費 165百万円
- 備品購入費 417百万円
- その他 1,055百万円

(2) 本館施設

① 建築の概要

- 敷地面積 15.8ha
- 建築面積 7,079.23㎡

延床面積	11,995㎡
構造規模	RC 造、一部 S 造 地上2階（一部地下1階、地上3階）
軒高	20.25m（最高高さ21.85m）
天井高さ	4.5m（展示室）

② 外部仕上げの概要

屋根	亜鉛合金板一文字葺 アスファルト断熱防水
外壁	珪器質タイル貼
外構	乱石貼
建具	アルミサッシ

③ 内部仕上げの概要

・エントランスルーム

床	サビ御影石、ショットブラスト、一部本磨
壁	珪器質タイル貼
天井	アルミシステム天井

・展示室

床	ゴムタイル貼
壁	PB12クロス貼
天井	メッシュ天井

・レストラン

床	モルタル下地カリンフローリング、一部大理石貼
壁	鏡貼
天井	アルミシステム天井

・恐竜ホール

床	カリンフローリング、サビ御影石、ゴムタイル
壁	珪器質タイル貼、偏光タイル
天井	メッシュ天井

・収蔵庫

床	鉄骨根太二重床コンパネ下地ブナフローリング
壁・天井	

LGS, 特殊ケミカル板25の上スプル15

④ 設備の概要

・電気設備

受電方式	普通高圧6.6KV1回線受電
変圧器容量	3,000KVA
予備電源	ガスタービン発電6.6KV375KVA

・空調設備

空調方式	
展示室	単一ダクト＋ VAV 式
収蔵庫	空冷パッケージ式
管理部門	ファンコイル＋全熱交換器式
研究部門	空冷ヒートポンプ式
熱源	空冷ヒートポンプチラー 120HP × 7台

- ・衛生設備
 - 給水 加圧給水式、受水槽30m³（FRP2層式）
 - 給湯 便所・洗面器電気式個別給湯
研究室系統ガス瞬間式個別給湯
 - 排水 汚水・雑排水別系統方式
合併浄化槽：300m³ / 日 1,650人漕
- ・防火設備
 - 消火 一般室系統 スプリンクラー消火設備
収蔵庫・電気室炭酸ガス消火設備
 - 排煙 自然排煙・機械排煙1系統
- ・昇降機 乗用3基、荷物用1基
- ・リフト 身障者用1基、荷物用1基

(3) 野外施設

① 主な施設の面積

駐車場	1.62ha
レストラン前広場	0.31ha
花木の広場	0.45ha
つたの森	0.41ha
くまざさの森	0.35ha
古代の広場	0.36ha
芝生広場	1.13ha
昆虫の森	0.36ha
とんぼの池	0.70ha
どんぐりの森	1.25ha
太陽の広場	0.34ha
夢の広場	0.64ha
水の広場	0.45ha
ばったの原	1.06ha
花の谷	0.61ha

② 管理施設

駐車場			
一般駐車場	1.12ha	乗用車	343台
		身障者用	5台
バス駐車場	0.19ha	24台	
業務用駐車場	展示物搬入路など		
	0.31ha	60台	
駐輪場	160m ²	90台	
臨時駐車場	1.39ha	約 600台	
掲揚ポール	4本		
焼却炉	1基		
正面ゲート	W=7,780+4,000	H=2,000	1基
出口専用回転扉	2基		
管理用出入口扉	H=2,000 W=2.0 ~ 7.0m	14基	
外周柵（フェンス）	H=2,000	2,155m	

揚水ポンプ 2基
汚水中継ポンプ 1基
キュービクル 1.80m × 2.50m 1基
駐車場告知サイン 9基

③ 建築物

自然発見工房 364.7㎡ 1棟
野外発券所(あすなろゲート) 26.39㎡ 1棟
炭焼き窯、炭焼き窯管理小屋 43.10㎡ 2棟
屋外倉庫 20.10㎡ 1棟
野外便所 4棟
芝生広場 39.78㎡
男子 大1 小3、女子 大4
身障者用1
古代の広場 41.64㎡
男子 大1 小3、女子 大4
身障者用1
駐車場 54.43㎡
男子 大2 小5、女子 大6
身障者用1
自然発見工房
男子 大2 小5、女子 大5
身障者用1

④ 園内広場

プロムナードなど
中央プロムナード(正面～エントランス)
L=125m W=3.0m
外周プロムナード
L=285m W=2.5 ～ 7.0m
遊歩道(観察路)
アスファルト自然色舗装
L=2,600m W=3.0 ～ 6.0m
アスファルト浸透舗装
L=695m W=1.5m
木製舗装 L=730m W=0.6 ～ 6.0m
広場
御影石舗装 1,514㎡
ダスト舗装 1,405㎡
インターロッキングブロック舗装 385㎡
ゴムチップ舗装 263㎡
平板ブロック舗装 128㎡
橋梁・デッキ
菅生沼ふれあい橋
L=285.0m W=3.0 ～ 9.0m
あすなろ橋 L=52.8m W=3.0m
閘門橋 L=23.0m W=3.0m

あめんぼデッキ L=90.0m W=1.6m

ボックス橋 L=3.0m 1,000×1,500

階段 9箇所

修景施設

植栽高木 2,907本

株物 8,378㎡

地被類 4,478㎡

芝生 38,090㎡

ワイルドフラワー 1,100㎡

生垣 536m

ホタルの流れ 140m

館名石 1基

便益施設

ベンチ類

一般ベンチ 1,800×506 29基

テーブルベンチ 1,800×1,710 27基

屑入れ類

屑入れ D=710 14個

吸殻入れ 2個

休憩施設

あずまや 2,750×2,750 2基

パーゴラ D=3,676 H=2,550 3基

照明器具類

照明灯（一般） 62基

照明灯（足元型） 21基

視覚障害者対策施設

点字ブロック 2,260m

パトロールライト 30W 照明灯内臓 6基

その他

水飲み 5基

時計（太陽電池型） H=5,200 D=700 4基

サイン・遊具類

サイン

館内案内サイン 8基

揭示板 5基

方向指示サイン 10基

車輛誘導サイン 7基

ネイチャートレイル案内サイン 9基

ネイチャートレイル観察ノートサイン 27基

ネイチャートレイル観察メモ・注意サイン 96基

自然発見器類

動物の巣 D=14,500 1箇所

りすの目タワー 床高=12,600

H=15,500 D=5,000 1箇所

いろいろな目 D=1,500 1基

パラボラベンチ D=1,500 1基
 風のおと 1基
 100M伝言パイプ 1基
 オープンプラネタリウム
 D=1,200×4 1基
 日時計 4基
 森のおとしもの D=600 3基
 霧ふんすい 2基
 体重ふんすい
 D=500 ノズル=10、12、14 3基
 住居跡保存 7箇所
 貝化石の砂 2箇所
 双眼鏡 50倍・・2、30倍・・3 5基
 ゆげのパラボラ D=1,000 1基
 流れ循環装置（水の流れ） 1基
 循環ポンプ 5.5KW
 濾過ポンプ 3.7KW
 井戸ポンプ 3.7KW

(4) セミナーハウス

① 建築の概要

建築面積 653.6㎡
 延床面積 504㎡
 構造 S R C 造
 収容人員 408名

② 外部仕上げの概要

屋根 折板葺

③ 設計・管理 仙田 満+(株)環境デザイン研究所

④ 施 工 ア 建築 正栄工業(株)

イ 電気 結城電設(株)

ウ 機械 (有)鈴木工業

⑤ 建設費 ア 建築 93,678,500円

イ 電気 39,655,000円

ウ 機械 24,205,000円

ANNUAL REPORT
OF
IBARAKI NATURE MUSEUM
－年報第30号 令和5年度－

令和6年7月31日発行

発 行 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
茨城県坂東市大崎700番地

TEL 0297-38-2000

編 集 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

印 刷 コトブキ印刷株式会社
